



# CE9.13 Cisco Webex DX70、DX80 ユーザガイド

目次

# このユーザ ガイドの内容

## 概要

Cisco DX70 の紹介 .....	4
Cisco DX80 の紹介 .....	5
Bluetooth ヘッドセットとのペアリング .....	6
資格情報を使用してログオンする.....	7

## ビデオ通話

連絡先リストから発信する .....	9
発信する前に連絡先を編集する .....	10
名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する .....	11
着信通話 .....	12
通話中に別の通話に応答する .....	13
通話を切断する .....	14
通話を保留にする/保留中の通話を再開する .....	15
継続中のコールを転送する .....	16
帯域を変更する .....	17
応答不可を有効にする.....	18
すべての通話の自動転送 .....	19
通話中にキーパッドを表示する .....	20
既存の通話に参加者を追加する .....	21
ミーティングから参加者を切断する .....	22

## インテリジェント近接通信

Cisco Proximity の超音波信号について .....	24
----------------------------------	----

## コンテンツ共有

通話中にコンテンツ共有する .....	26
通話中にプレゼンテーションレイアウトを変更する .....	27

## ミーティングのスケジュール

ミーティングのスケジュールに参加する .....	29
Webex Meetings に参加 .....	30

## コンタクト

お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ .....	32
通話中に [お気に入り] に追加する .....	33
非通話時に [お気に入り] に追加する .....	34
既存のお気に入りの編集 .....	35

## カメラ制御 (Camera Control)

セルフビューのオン/オフの切り替え .....	38
セルフビュー PiP を移動する .....	39
相手先カメラの操作 .....	40

## 設定

アクセスできる設定の概要 .....	42
--------------------	----

格納ファイルのすべてのエントリは、対応記事に移動するためのアクティブハイパーリンクです。

チャプター間を移動するには、サイドバーのアイコンをクリックする方法もあります。

注: このユーザガイドで説明されている機能の一部は、特定の市場ではオプションである場合があります。そのため、お使いのデバイスに適用されない場合があります。



# 概要

概要

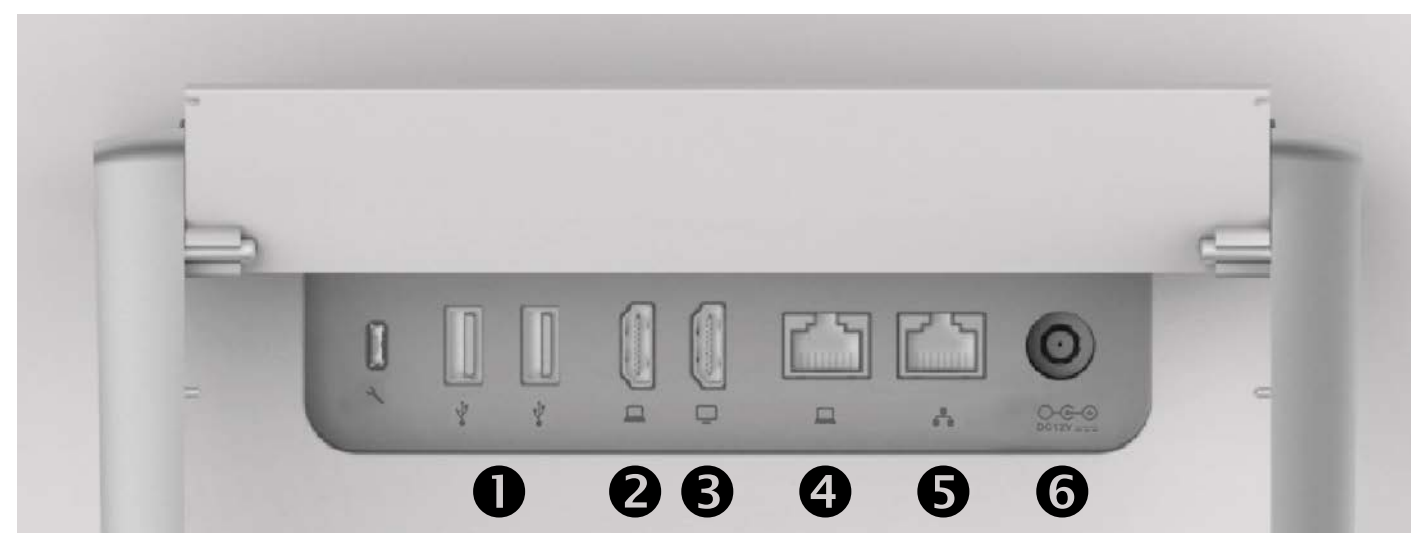
# Cisco DX70

## このユーザ ガイドについて

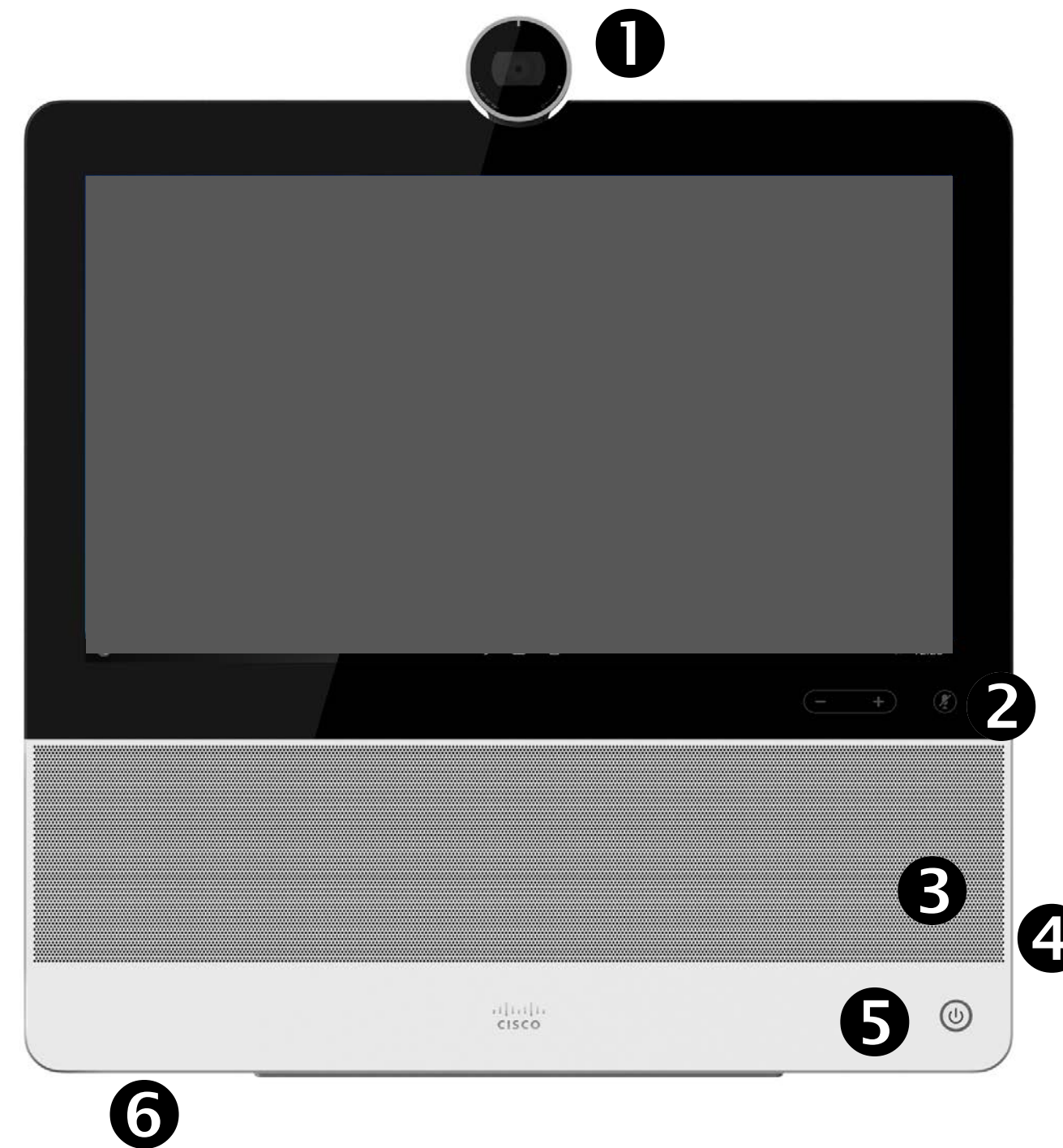
PC モニターとして使用します。 HDMI ケーブルを使用してコンピュータを HDMI ソケット PC に接続します(以下を参照)。  
 PC モニタとビデオ画面を切り替えるには、画面をタップします。  
 [応答不可] が有効である場合を除き、モード(PC またはビデオ)に関係なく、着信が通常どおりに表示されます。[18](#) ページの「応答不可を有効にする」を参照してください。

このユーザ ガイドは DX70 と DX80 の両方に当てはまります。両者のディスプレイは異なるサイズですが、画面に表示される画像はサイズ以外は同一です。

実際上、このガイドで使用されるスクリーンショットは、DX80 の図に挿入されています。



- ① USB ポート
- ② HDMI ソケット PC
- ③ HDMI ソケット外部モニター(未使用)
- ④ LAN 拡張接続。PC LAN をここで接続すると、Cisco DX70 と PC は同じ LAN 接続を共有できます。
- ⑤ LAN 接続
- ⑥ 電源ソケット



- ① プライバシー シャッター付きカメラ(閉じる場合は反時計回りに、開く場合は時計回りに回します)
- ② マイクのミュート ボタンおよびスピーカーの音量コントロール
- ③ スピーカー
- ④ SD カード スロット、およびヘッドセットと USB 用のコネクタ。DX70 で Bluetooth ヘッドセットの使用がサポートされるようになりました。詳細については、2 ページ先を参照してください。
- ⑤ 電源オン/オフ
- ⑥ マイク

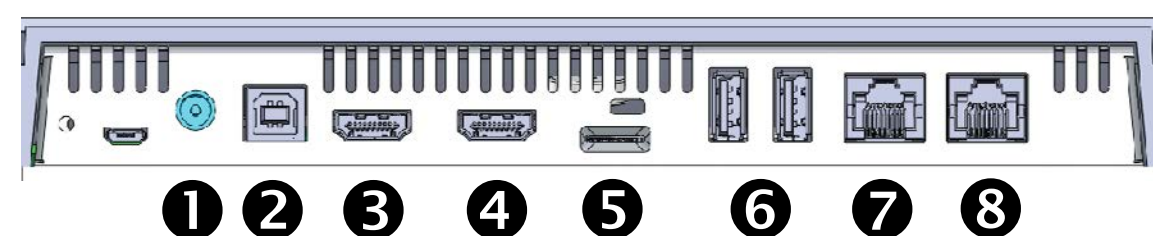
概要

# Cisco DX80

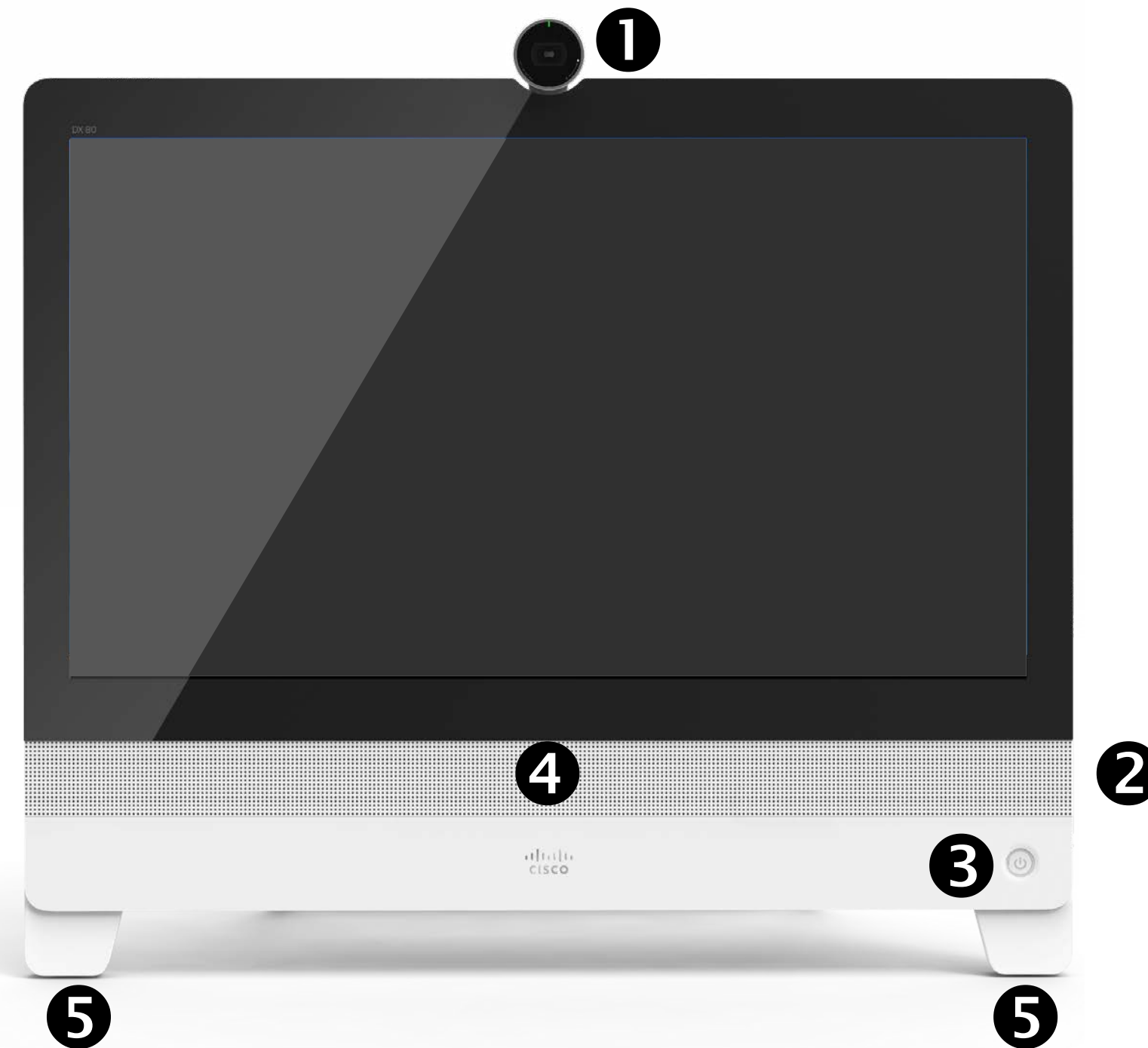
PC モニターとして使用します。 HDMI ケーブルを使用してコンピュータを HDMI ソケット PC に接続します(以下を参照)。

PC モニタとビデオ画面を切り替えるには、画面をタップします。

[応答不可] が有効である場合を除き、モード(PC またはビデオ)に関係なく、着信が通常どおりに表示されます。 [18 ページの「応答不可を有効にする」を参照してください。](#)



- ① 電源ソケット
- ② USB(コンピュータ接続用)
- ③ HDMI(コンピュータ接続用)
- ④ HDMI 外部モニター接続(未使用)
- ⑤ SD カード スロットおよびケンジントン ロック
- ⑥ USB ポート
- ⑦ LAN 拡張接続。コンピュータ LAN をここで接続すると、Cisco DX80 とコンピュータは同じ LAN 接続を共有できます。
- ⑧ LAN 接続



- ① プライバシー シャッター付きカメラ(閉じる場合は反時計回りに、開く場合は時計回りに回します)
- ② マイクフォンのミュート ボタン、スピーカーの音量コントロール、および USB ソケット(ユニットの右側)。
- ③ 電源オン/オフ
- ④ スピーカー
- ⑤ マイクフォン(各脚部分)

## DX80 および USB ヘッドセット

DX80 は、USB 有線音声デバイス用の標準プロトコルを実装しています。

詳細については、<https://help.webex.com/nkiifbo/> を参照してください。

DX80 では Bluetooth ヘッドセットの使用もサポートされています。詳細については、次のページを参照してください。

メーカーは、(HID プロトコルと呼ばれる)標準を独自に実装できます。

したがって、同一の製造元の異なるモデルでも動作が異なる場合があるため、すべてのヘッドセットとハンドセットが動作するとは限りません。

シスコがテストしたのは有線のヘッドセットまたは dongle を使用するヘッドセットのみです。

DX80 では Bluetooth ヘッドセットの使用がサポートされるようになりました。詳細については、次のページを参照してください。

提供されているヘッドセットのリストは包括的なものではありません。他の多くのヘッドセットが機能するはずですが、Jabra、Plantronics、および Sennheiser は独自にテストを実施し、DX80 をサポートしているヘッドセットの独自のリストを提供しているため、こちらも参照してください。

次のヘッドセットがシスコによってテストされています。

- ・ Jabra Evolve 40
- ・ Jabra Evolve 65
- ・ Jabra Pro 9450
- ・ Jabra Pro 9470
- ・ Sennheiser MB Pro 2

概要

# Bluetooth ヘッドセットを使用したペアリング

## Bluetooth ヘッドセット

サポート対象の Bluetooth プロファイル:

- ・ HFP (ハンズフリー プロファイル)
- ・ A2DP (高度なオーディオ配信プロファイル)

Bluetooth ヘッドセットは、組み込みの Bluetooth 無線または USB Bluetooth ドングルを使用することでサポートされます。

複数のヘッドセットをビデオデバイスとペアリングすることができますが、一度に接続できるのは 1 つのヘッドセットだけです。

範囲は最大 10 m (30 フィート) です。通話中に範囲外に移動すると、音声はビデオデバイス上のスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中にヘッドセットとビデオデバイスの音量が同期されます。通話中でない場合、ヘッドセットとビデオデバイスの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能:

- ・ 着信コールに応答する
- ・ 着信コールを拒否する
- ・ 電話を切る
- ・ 音量アップ、音量ダウン

一部のヘッドセットにはミュート コントロールが備わっています。これは、ビデオデバイスのミュートコントロールとは独立して動作します。

## USB Bluetooth ドングル

音声品質が向上するため、USB Bluetooth ドングルを使用することをお勧めします。ドングルの使用時には、ヘッドセットは USB ヘッドセットとして検出されます。

ドングルを使用する場合は、ヘッドセットの音量とビデオデバイスの音量が同期されないことに注意してください。

<https://help.webex.com/nkiifbo/> も参照してください。

## Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。確信が持てない場合は、ヘッドセットの取扱説明書を参照してください。
2. 左下で説明されている [設定] に移動します。[システム情報] メニューの詳細については、[41](#) ページの「設定」を参照してください。Bluetooth が無効になっている場合には、有効にします。Bluetooth はデフォルトで有効になっています。
3. ビデオデバイスがデバイスをスキャンします。正常に検出されると、デバイスの一覧に Bluetooth ヘッドセットが表示されます。
4. デバイスを選択すると、ペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが成功した場合、ビデオデバイスはヘッドセットを接続済みとして表示します。これでペアリングが完了します。

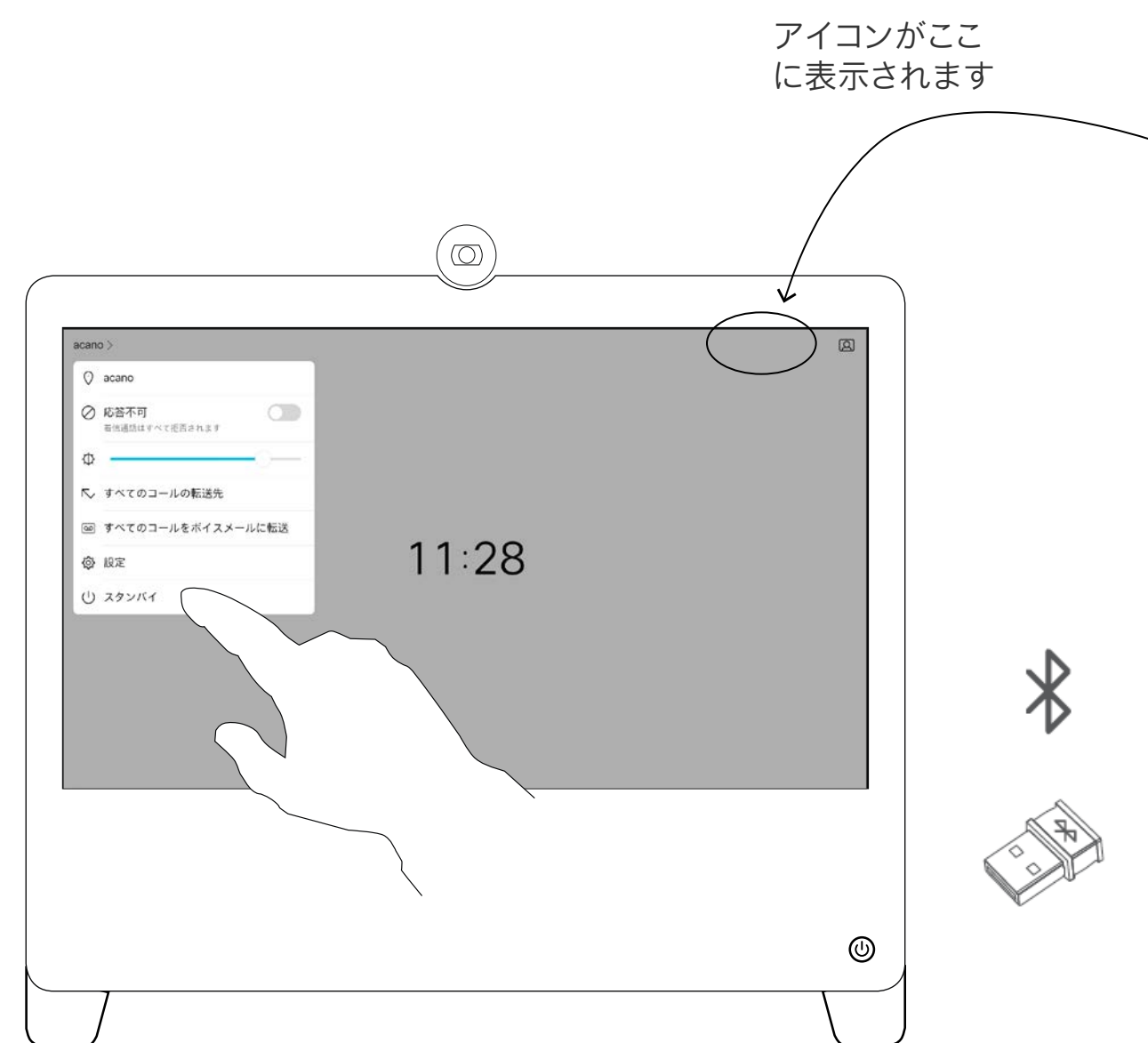
ビデオデバイスのスピーカーと、Bluetooth または USB 経由で接続されているデバイスを切り替えることができます。

ユーザ インターフェイスのステータスバーでアイコンを選択し、利用可能なデバイスから選択します。

- スピーカー
- アナログ ヘッドセット (DX70 のみ)
- USB ヘッドセット
- USB ハンドセット
- Bluetooth デバイス

Bluetooth ペアリングをビデオデバイスに直接使用することも、USB ドングルを使用することもできます。

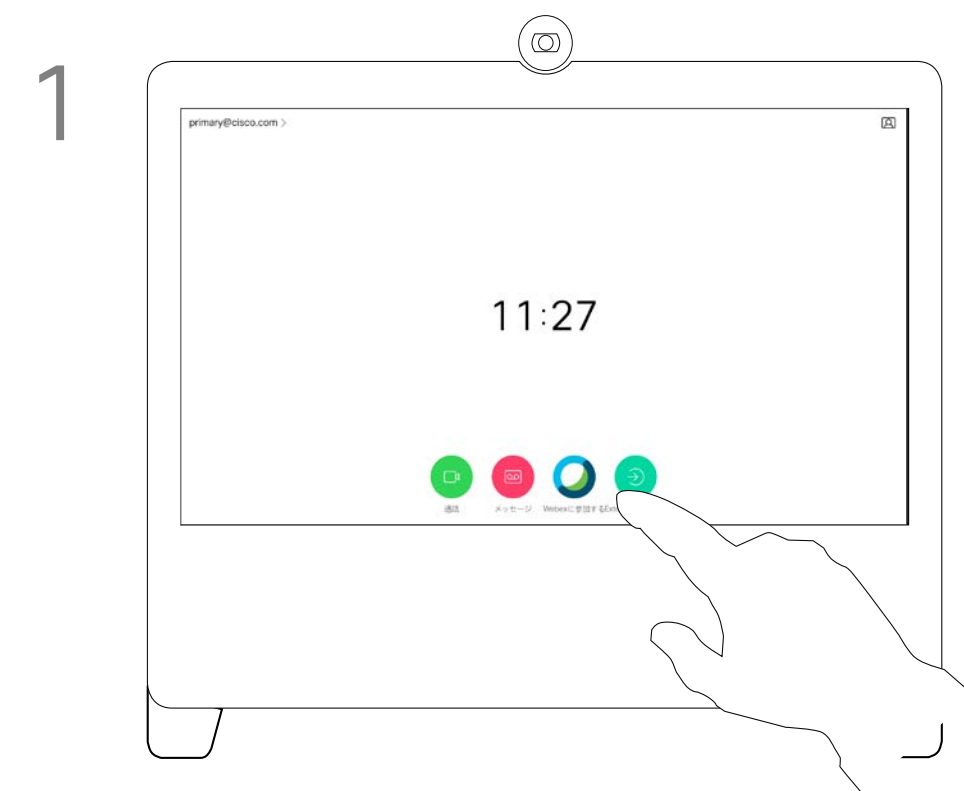
ペアリングを開始するには [設定 (Settings)] および [Bluetooth] をタップします。



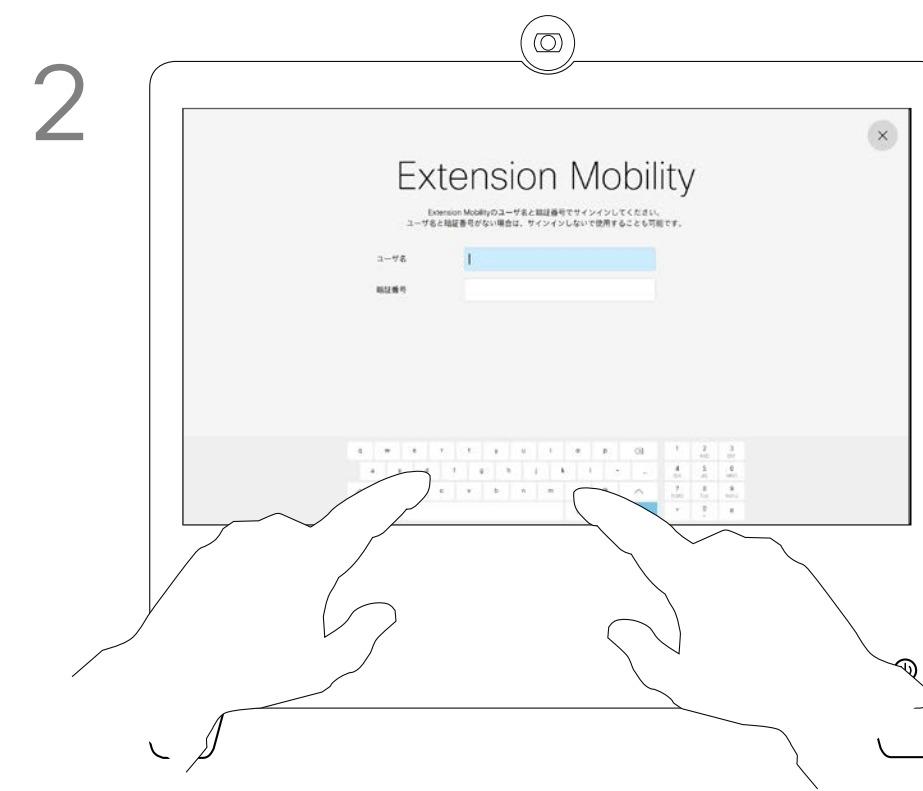
概要

# 自分のログイン情報を使用してログオンする

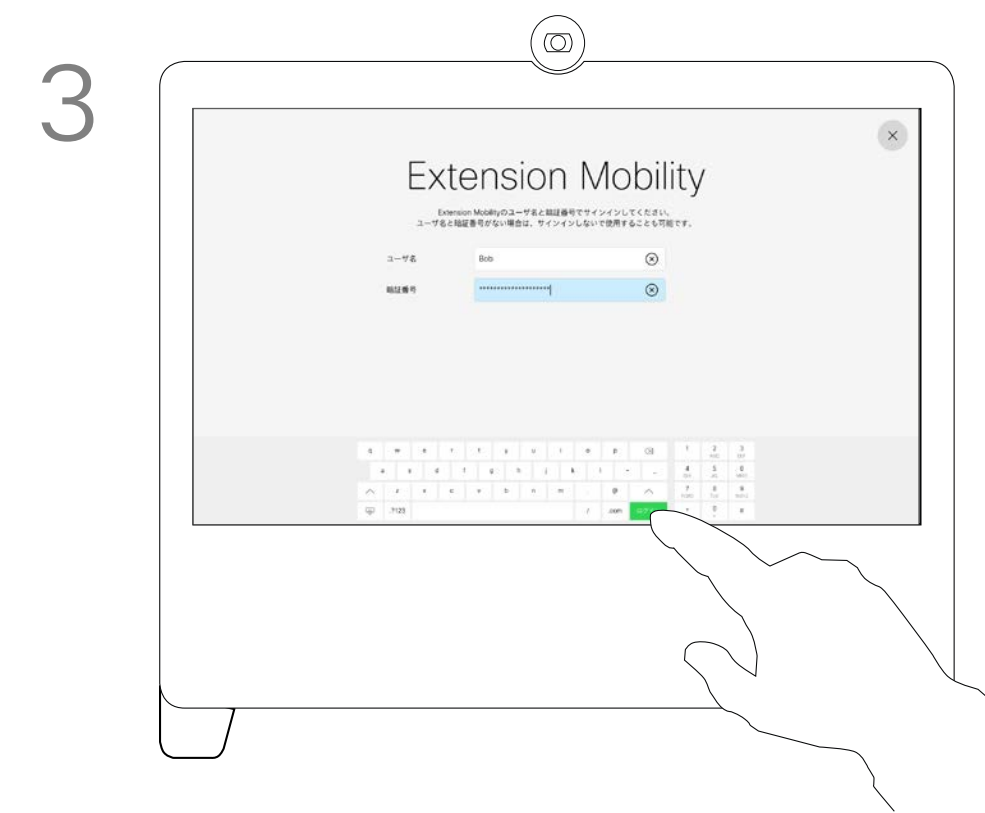
## Extension Mobility について



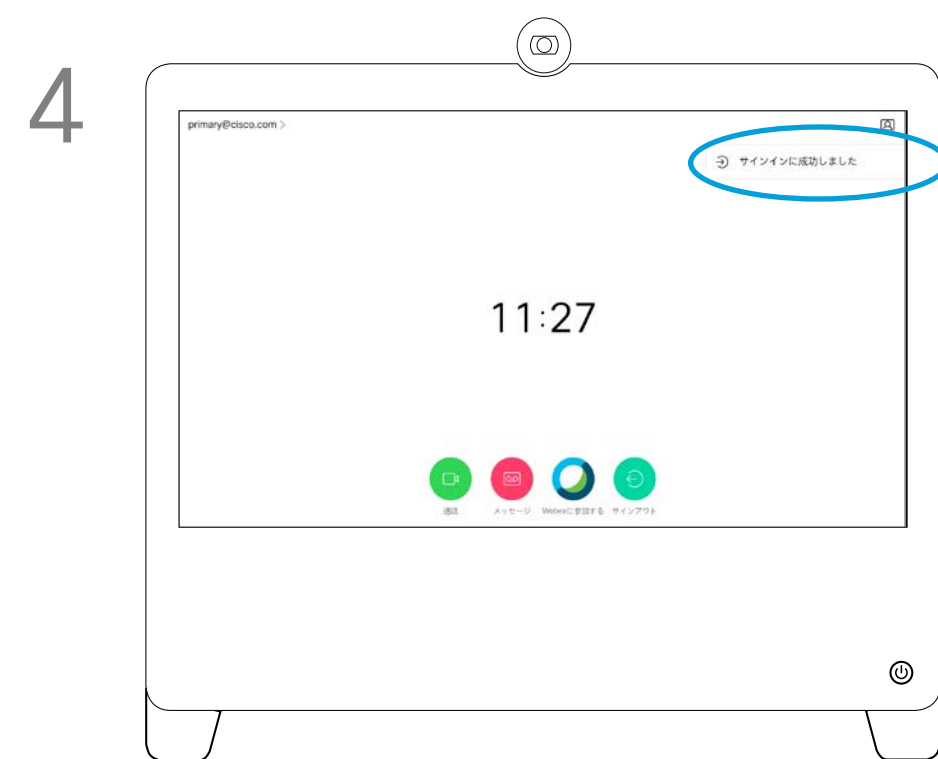
1 緑色の エクステンション モビリティ ボタンをタップします。



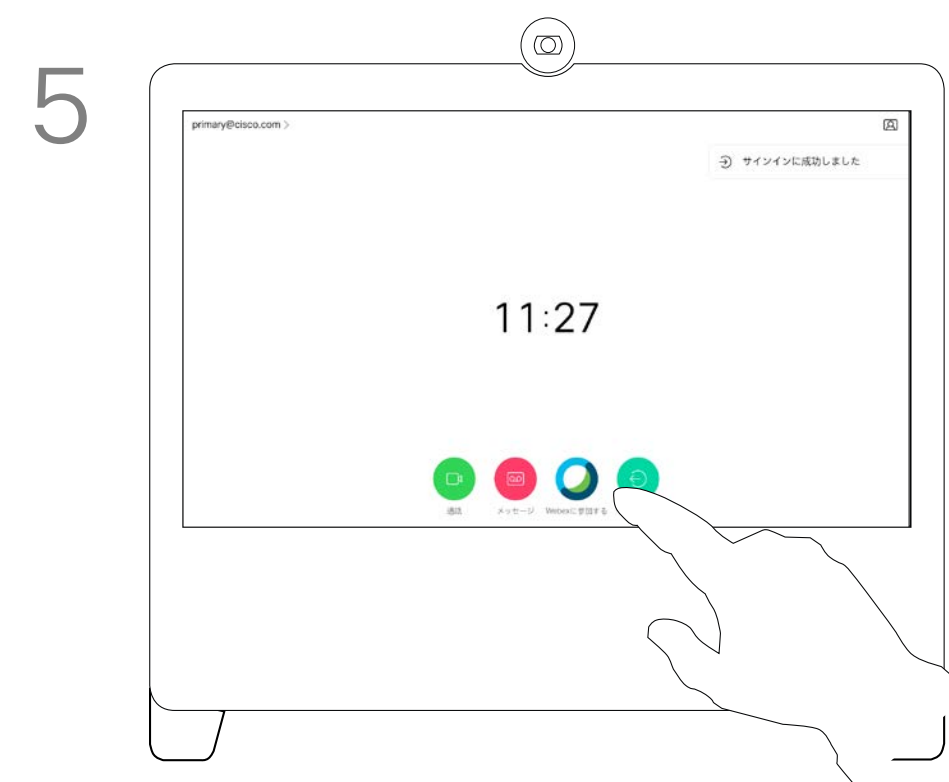
2 ユーザー名と PIN コードを入力します。



3 ログイン をタップします。



4 デバイスは、ログインが成功したことを確認します。



5 ログアウトするには、図のように サインアウト をタップします。

会議室やクワイエットルームに配置され、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) に登録されているビデオデバイスでは、自分の個人資格情報を使用してデバイスにログインすることができます。

CUCM は、すべての着信コールを特定のビデオデバイスにルーティングします。

エクステンションモビリティからログアウトすると、[受信者 (Recv)] リストはデバイスからクリアされます。

エクステンション モビリティはホットデスクングとも呼ばれます。

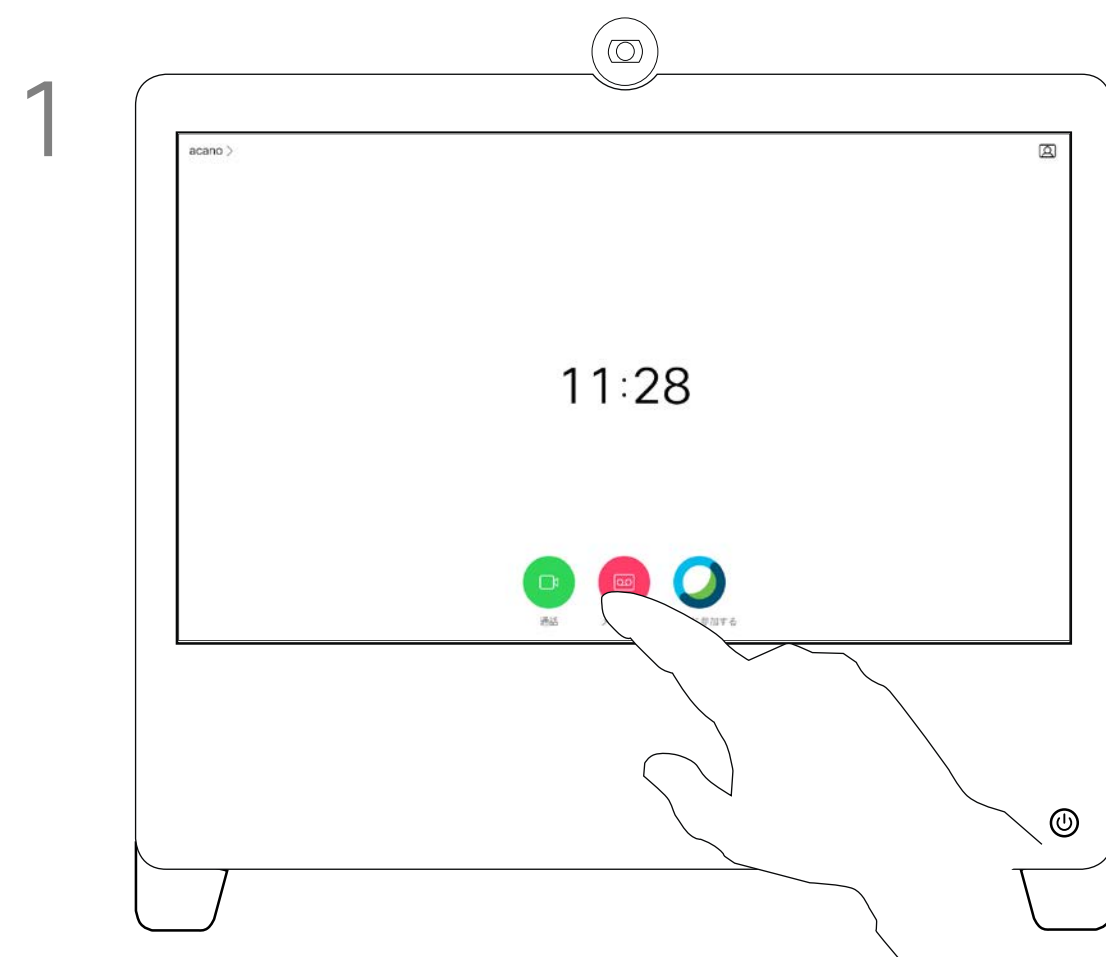


# ビデオ通話

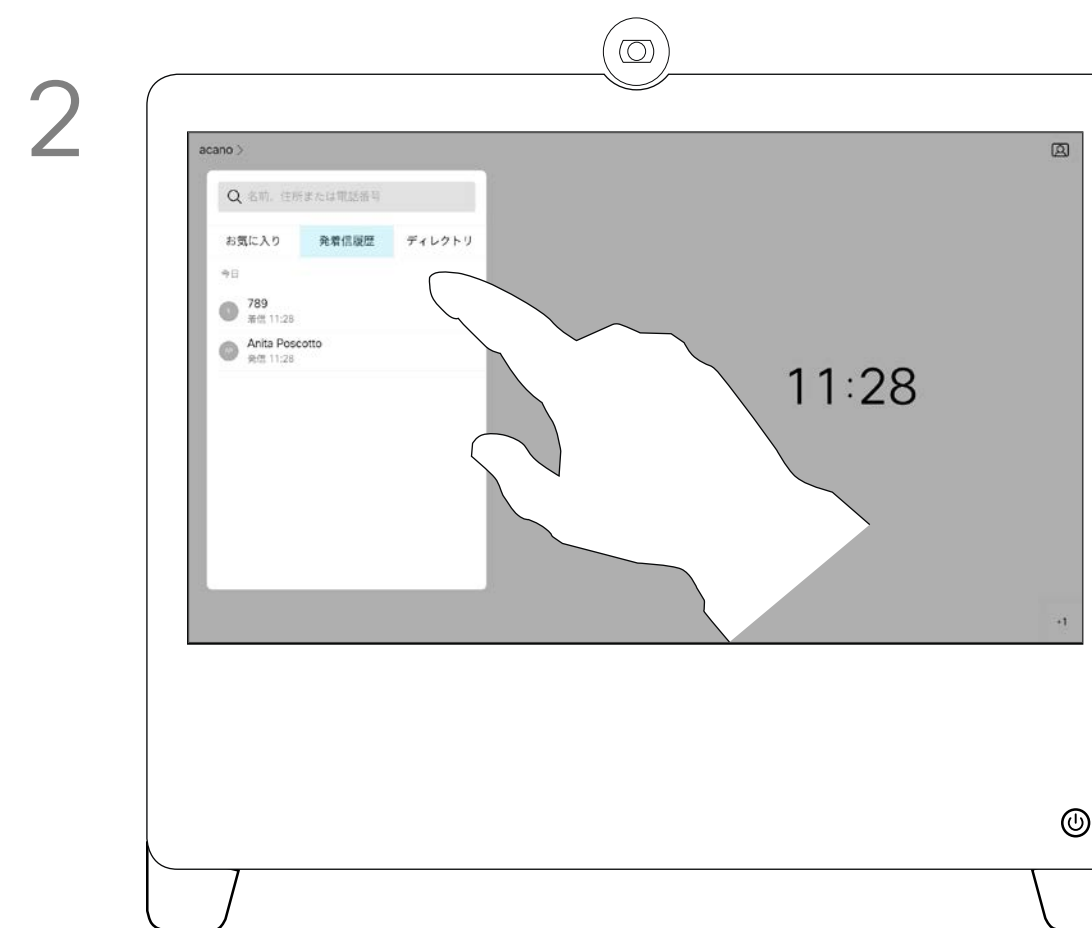


# ビデオ通話 連絡先リストからのコールの発信

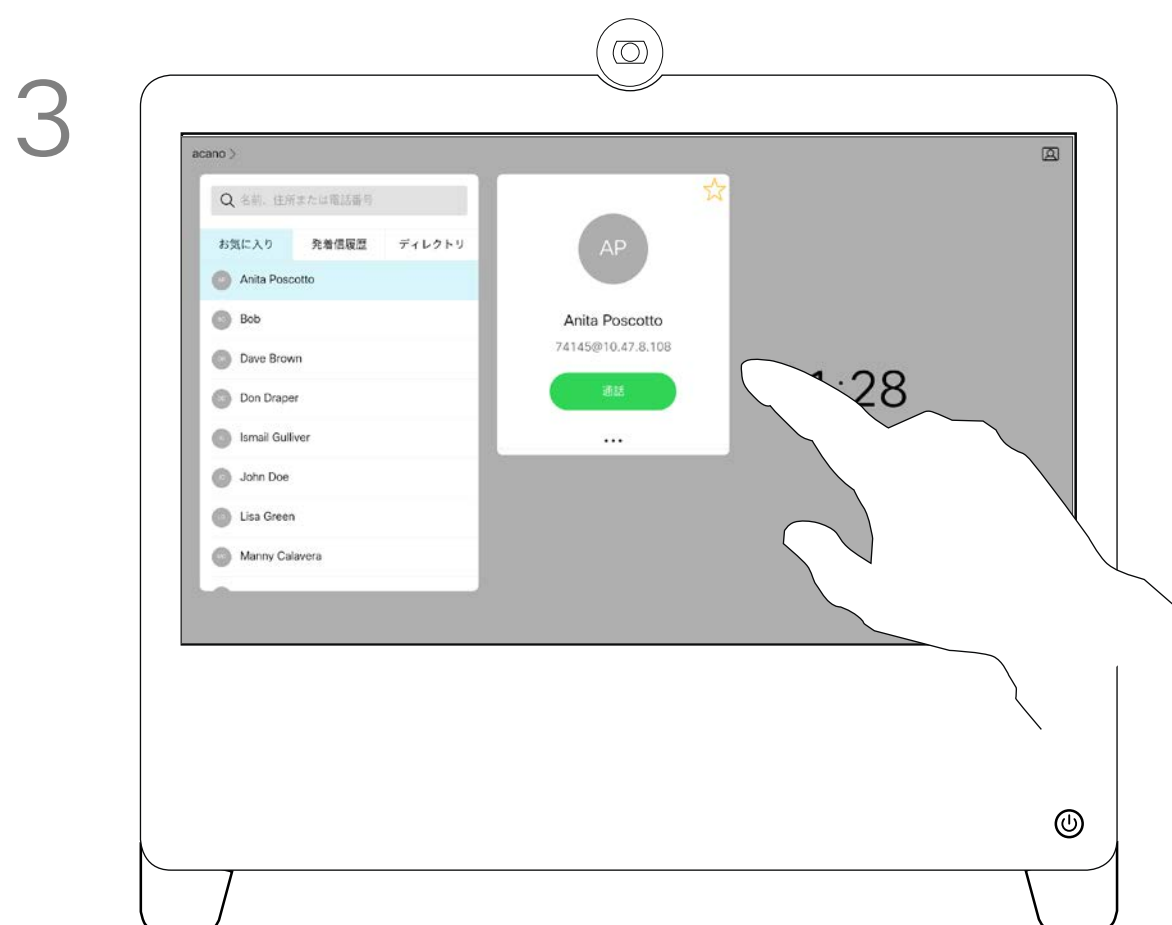
## 連絡先リストについて



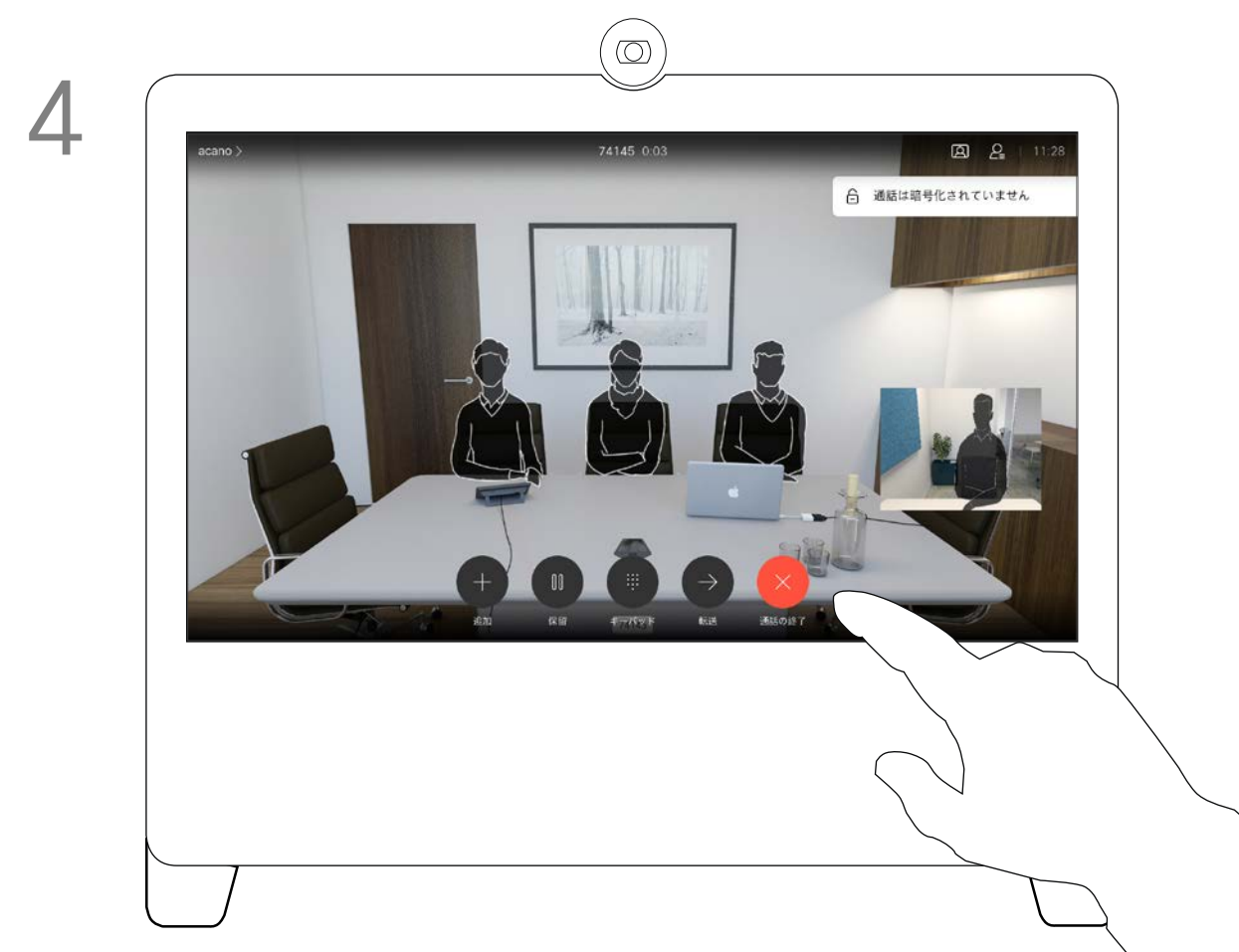
1 緑色の 通話 ボタンをタップします。



2 特定のリスト(お気に入り、ディレクトリ、または 発信履歴)で通話相手を検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールして発信するエントリを探します。



3 そのエントリをタップすると、緑色の 通話 ボタンが表示されます。図のように、緑色の 通話ボタンをタップします。



4 これで、コールが配置されます。通話を終了するには、赤色の 通話の終了 アイコンをタップします。

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

お気に入り。これらの連絡先はユーザによって配置されています。これらは、頻繁にコールを発信したり、場合によっては迅速で簡単にアクセスする必要がある場合に使用します。

ディレクトリは通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

発信履歴は、発信、受信、不在着信のリストです。

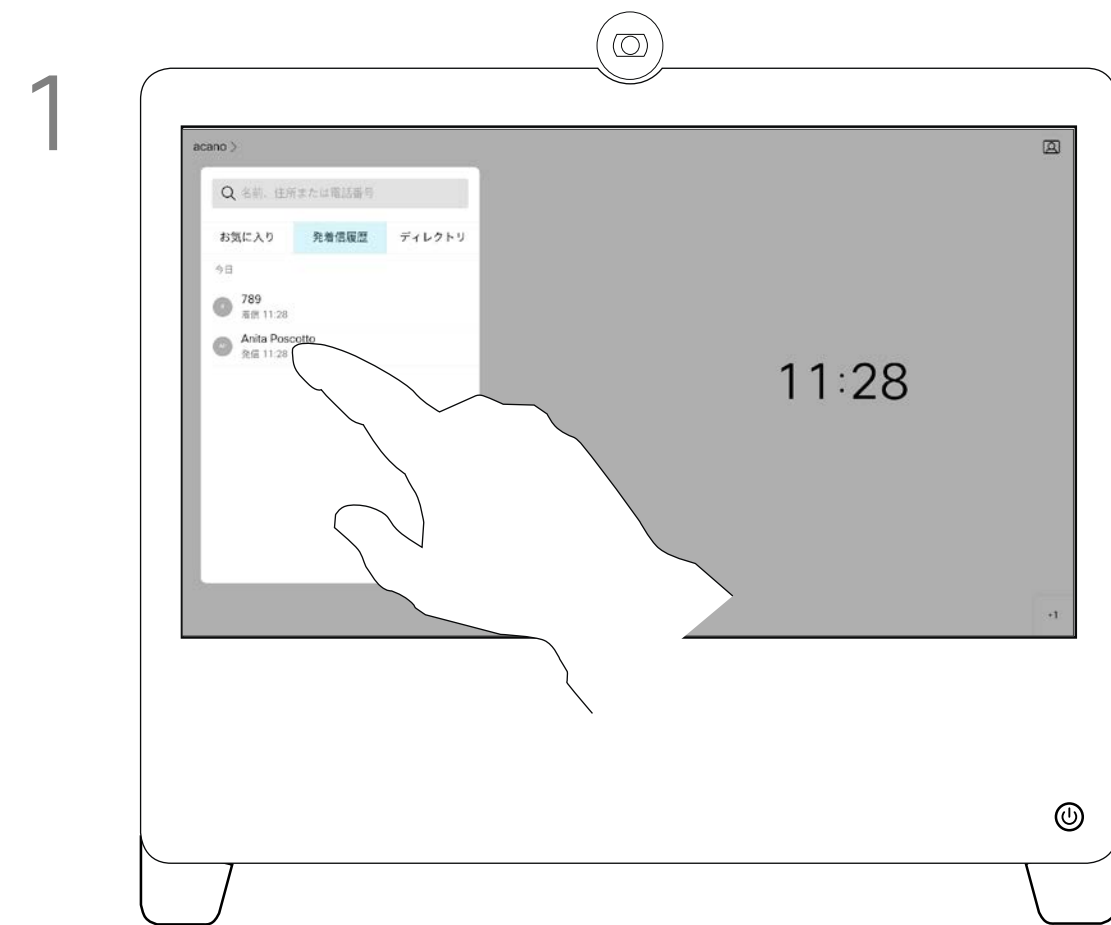
次のオプションが適用されます。

- ・ 名前、番号、または IP アドレスでキーを入力すると、デバイスはすべてのリストに含まれているかを検索します。
- ・ お気に入りリストにエントリを追加することができます。発信する前にエントリの内容を編集したり、コールレートを変更したりすることができます。

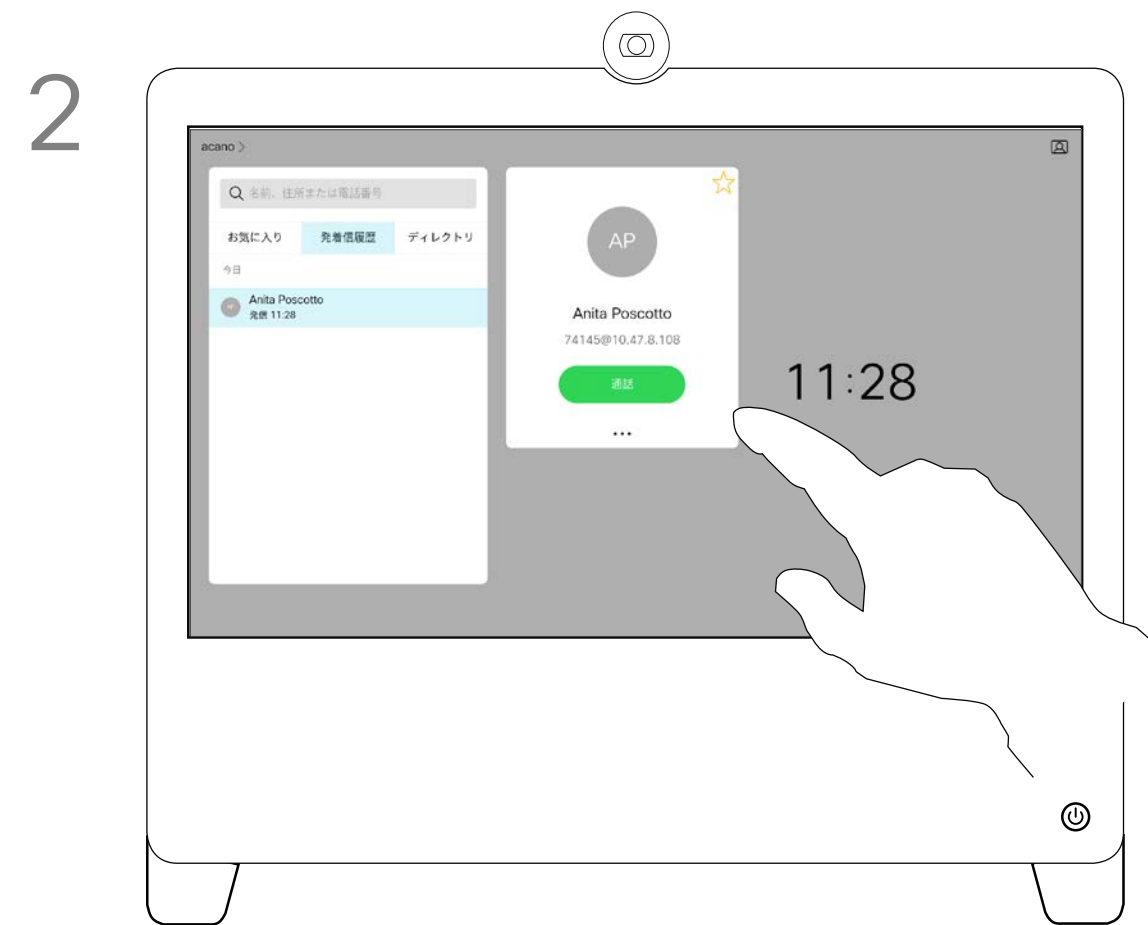
発信履歴からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

# ビデオ通話 発信する前に連絡先を編集する

## エントリ編集について



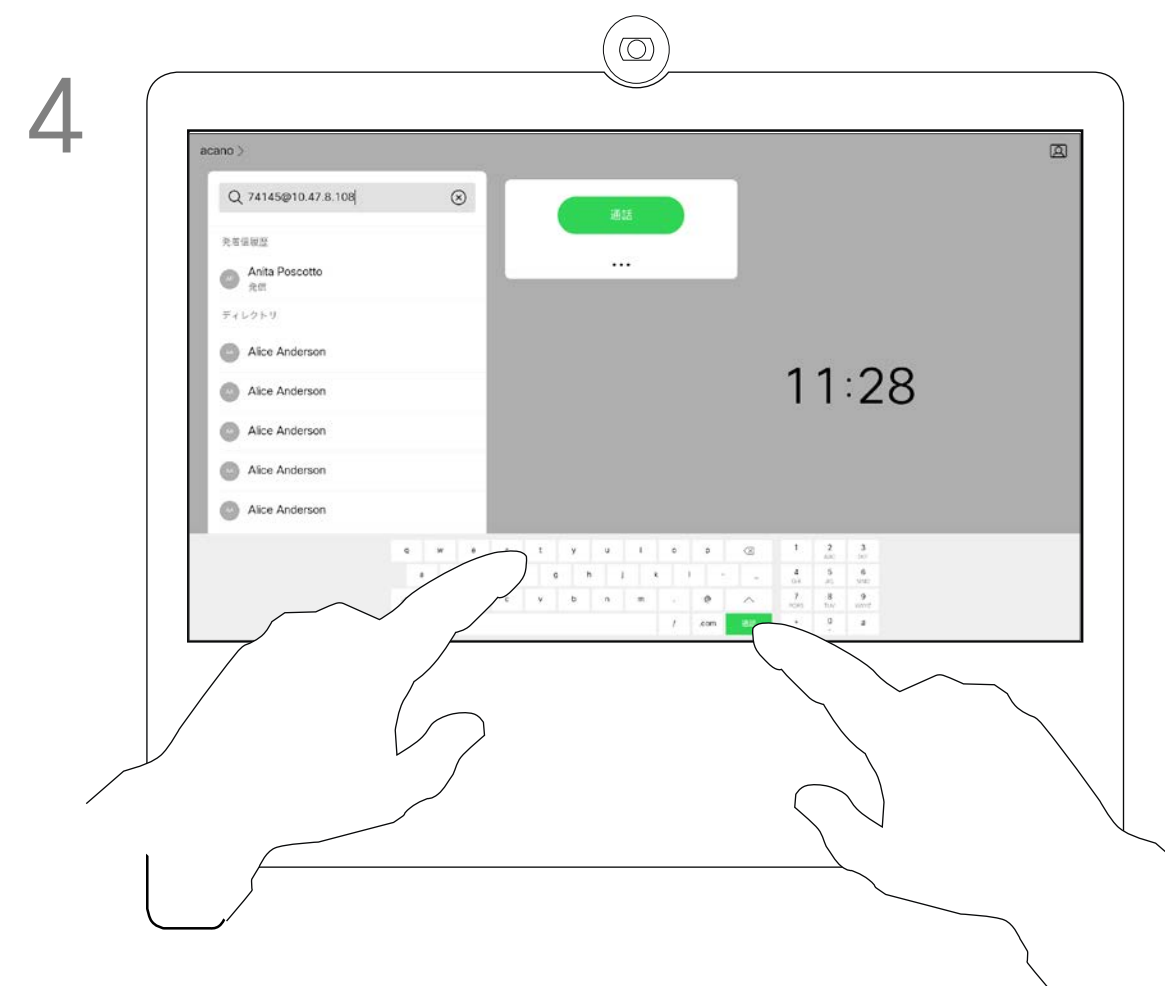
コールを発信する前に、編集するエントリを検索します。エントリをタップします。コールメニューが開きます。



緑色の 通話ボタンのすぐ下にある 詳細([...])アイコンをタップします。



[編集して通話] をタップします。



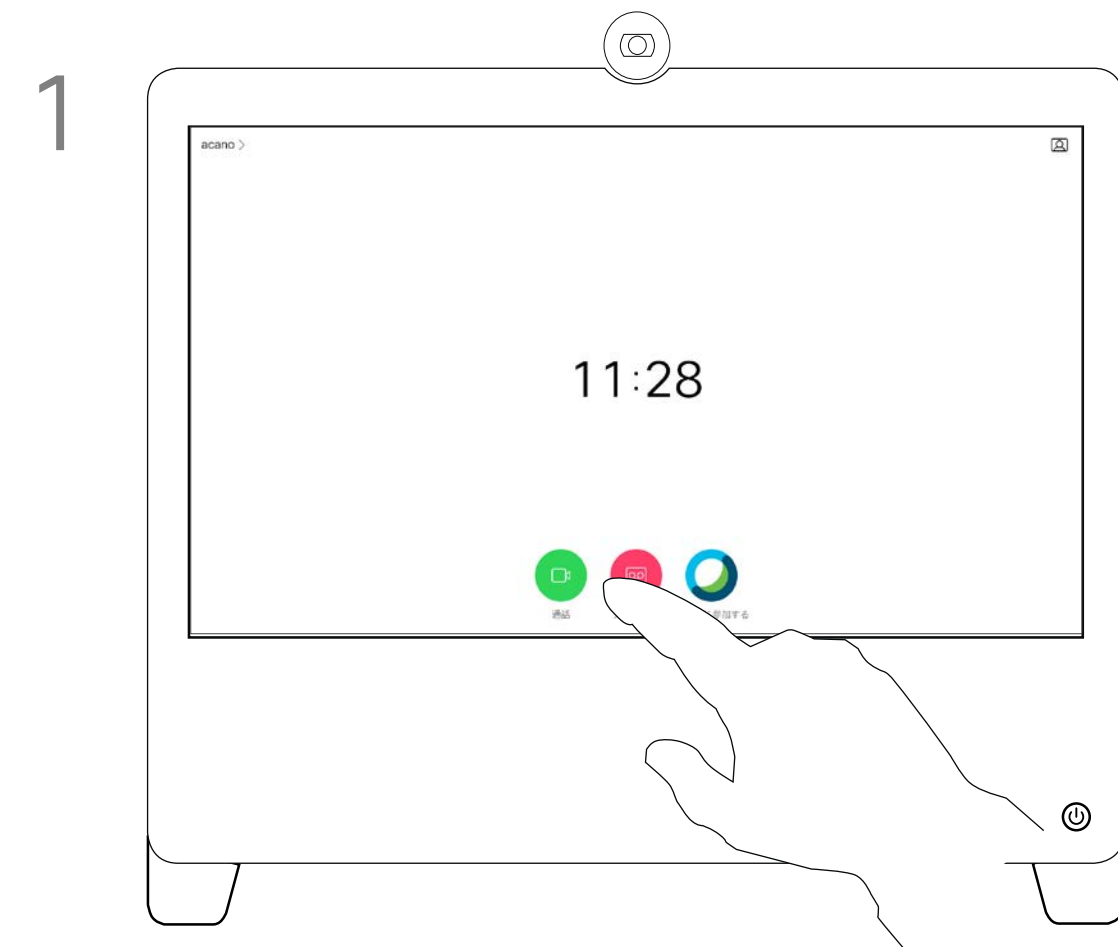
キーボードを使って編集し、緑色の 通話 ボタンのどちらかをタップして発信します。

連絡先リストの入力方法については、前のページを参照してください。

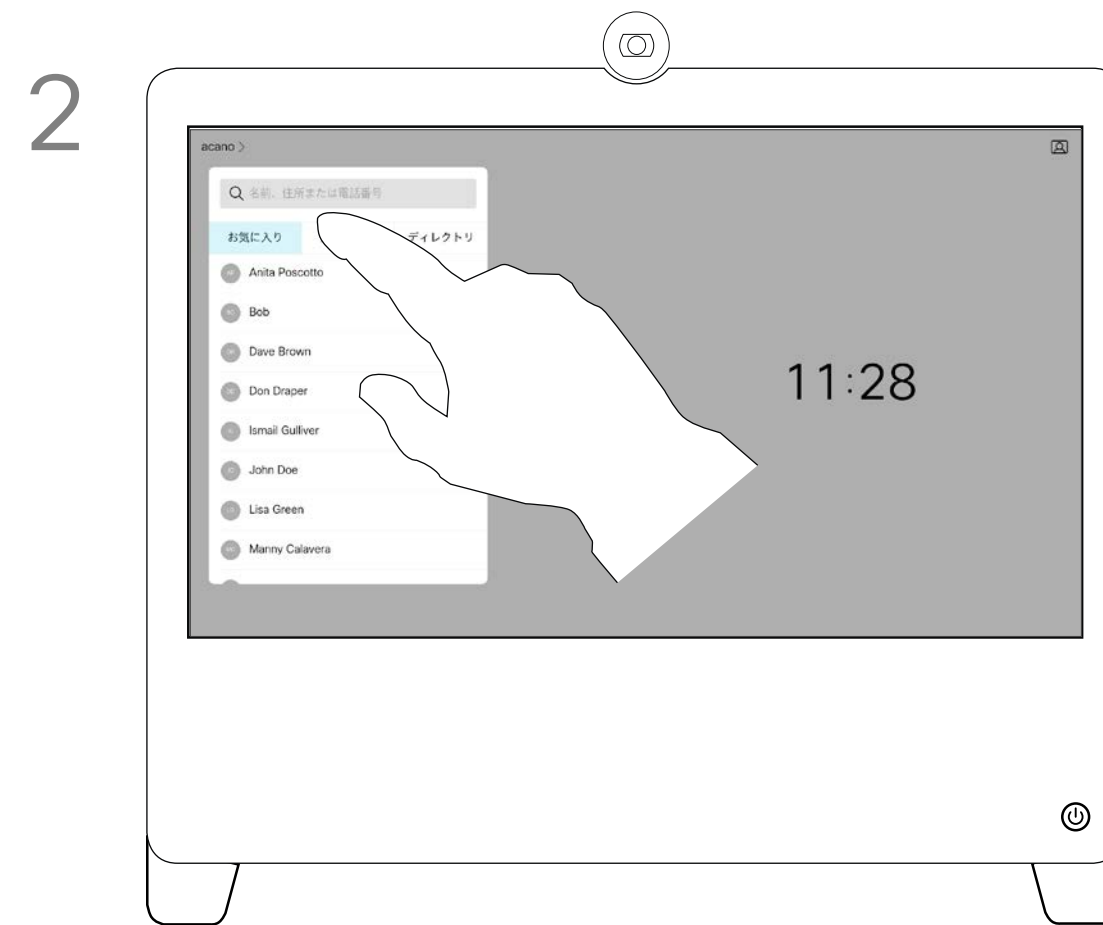
発信する前に、[連絡先] 一覧のいずれかのエントリの編集が必要な場合があります。また、プレフィックスやサフィックスを追加したり、それ以外では適切なエントリに変更する場合があります。

# 名前、番号、またはアドレスを使用してコールを配置する

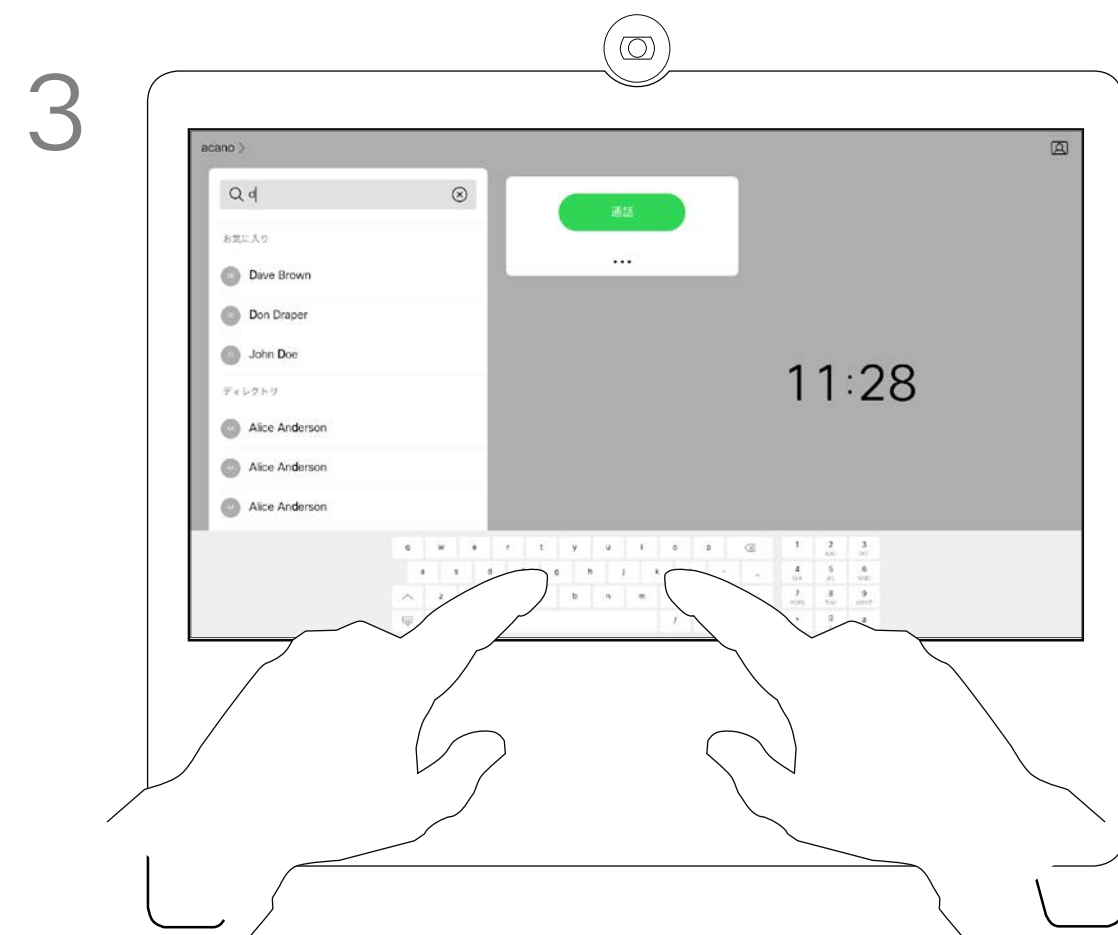
## 発信について



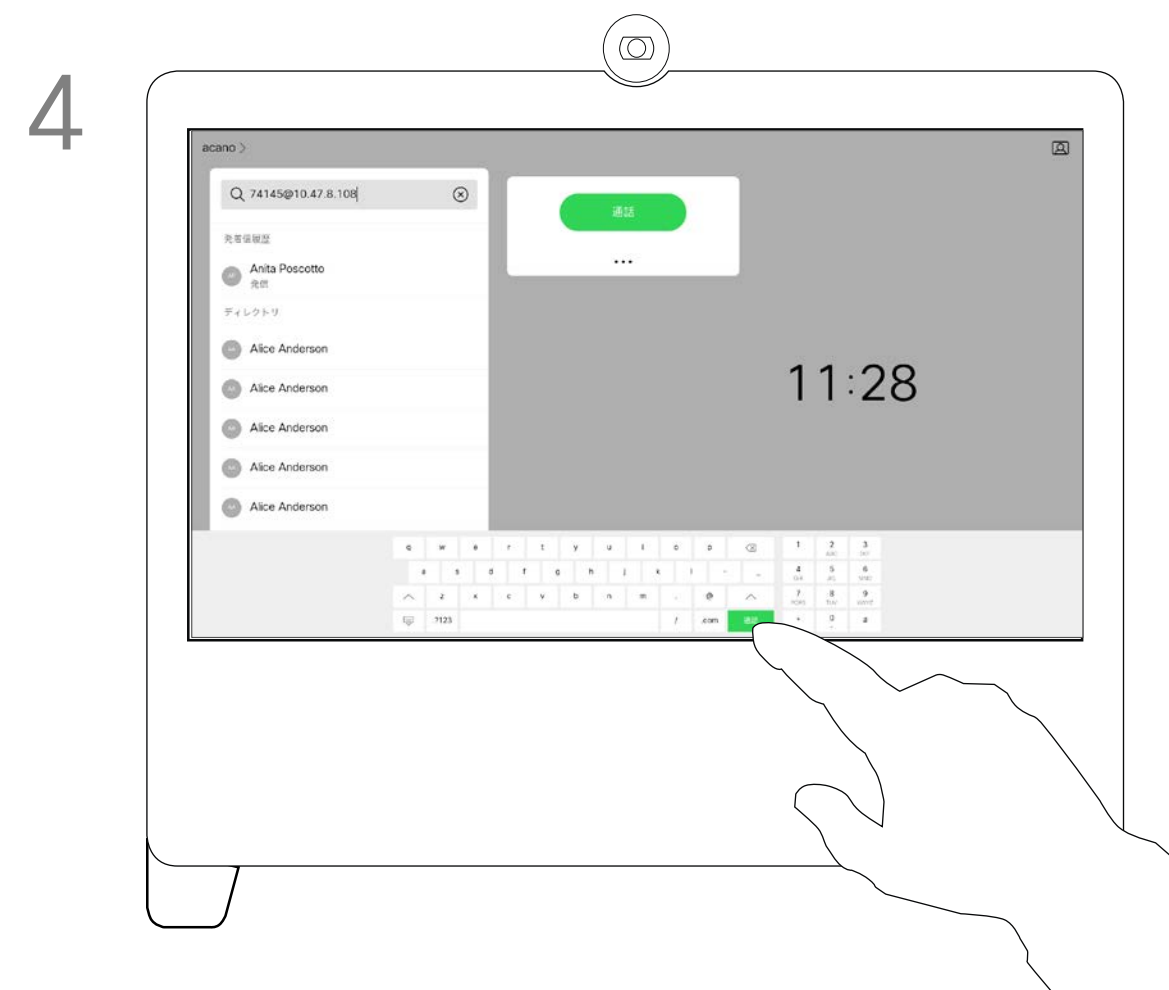
緑色の 通話 ボタンをタップします。



検索とダイヤルフィールドをタップします。これにより、キーボードが開きます



名前、番号、またはアドレスを入力します。入力したとおりに、一致するものや候補が表示されます。一覧で求める連絡先が表示された場合はそれをタップします。それ以外の場合は入力を続けます。



通話先を入力し終えるか見ついたら、緑色の通話ボタンのちらかかをタップして発信します。

連絡先リストに登録されていないユーザでも、仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号をキー入力することで、そのユーザを呼び出すことができます。

以前にコールしてきた人やコールした人は、**発着信履歴**リストに表示され、任意のコールをお気に入りリストに転送できます。これについては**連絡先セクション**で説明しています。

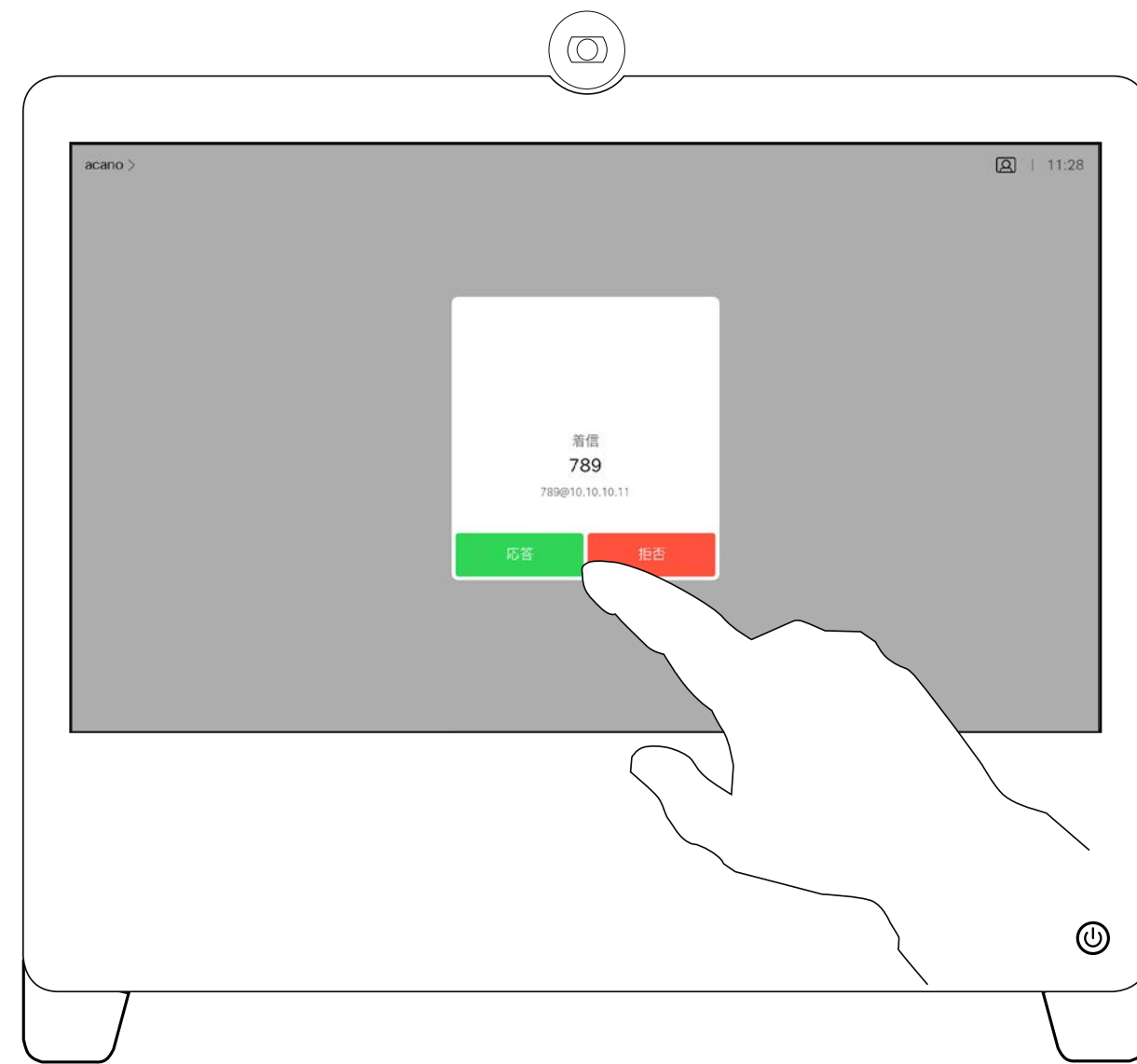
通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりする際に、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

これに必要なキーパッドを呼び出すには、**トーン信号** (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

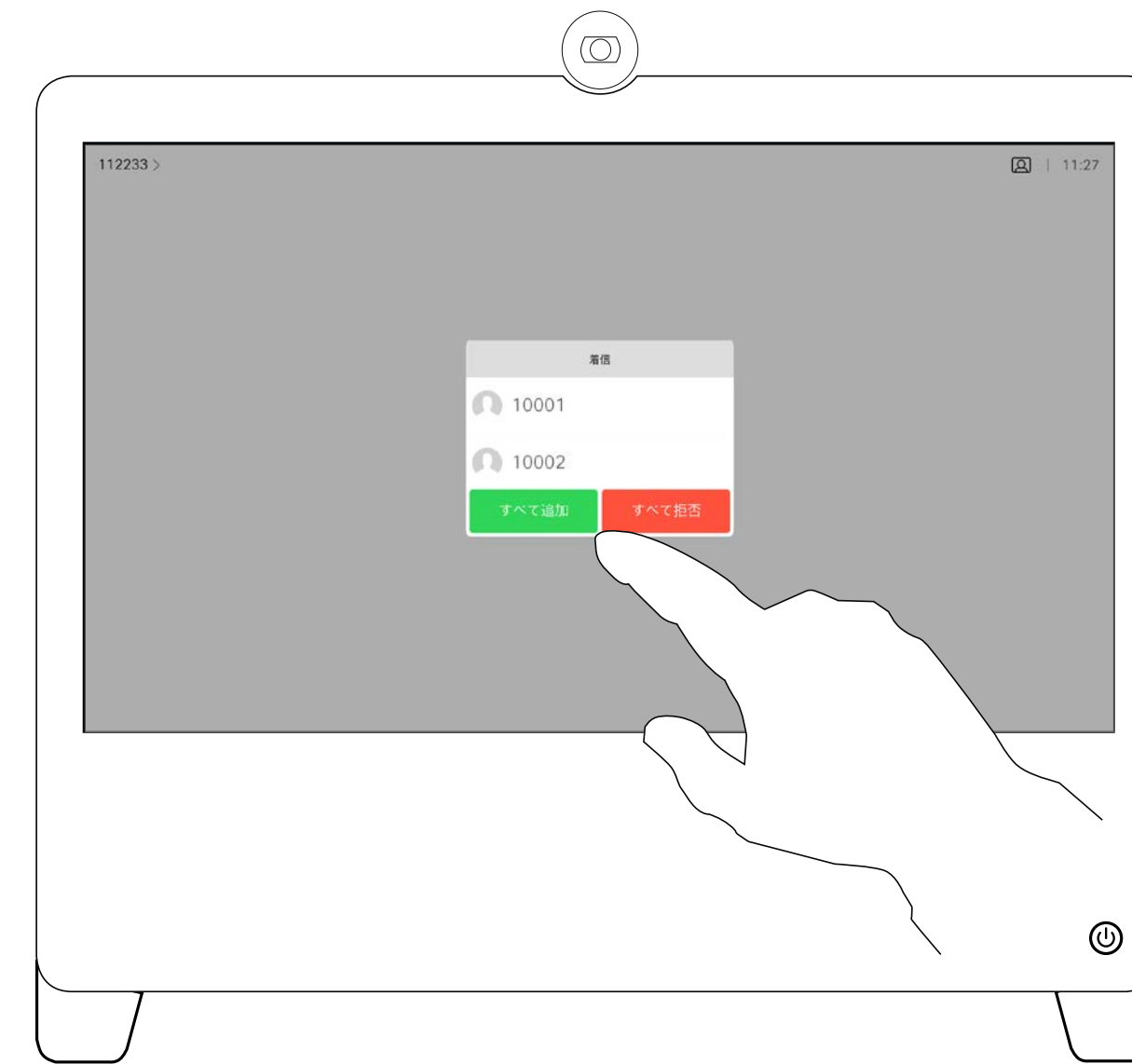
発着信履歴のクリアは、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

# ビデオ通話 着信通話

## 着信があった場合



着信通話を受け入れる(応答する)か拒否するかに応じてタップします。



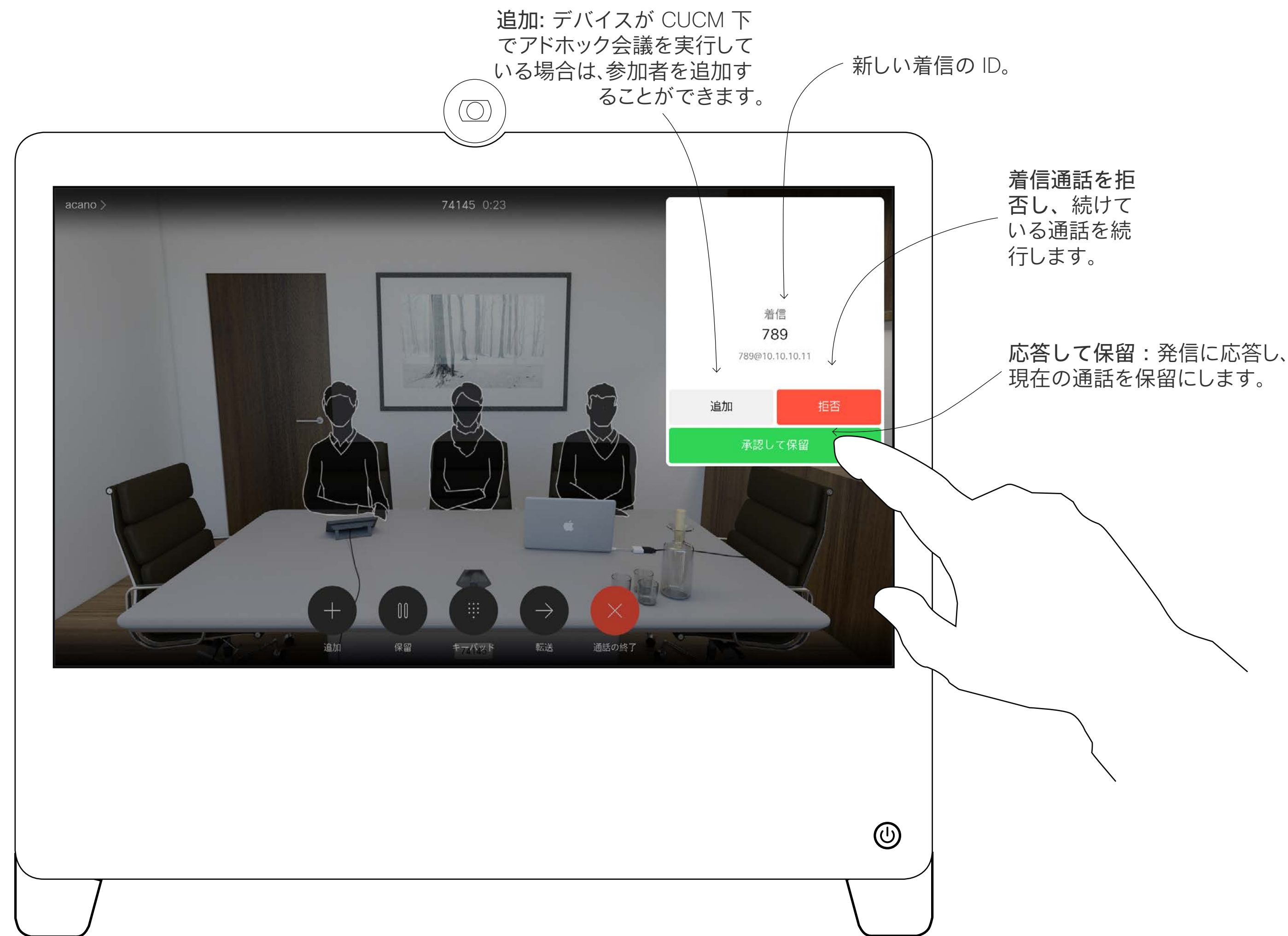
ビデオインフラストラクチャで許可されている場合、複数の着信コールを受信できます。すべてを既存の通話に追加するか、あるいはすべて拒否するかを選択できます。

- ・ ユーザからコールがあれば、そのコールを受け入れる、拒否する、あるいは無視するかのいずれかになります。
- ・ 通話を拒否すると、通話中の情報が発信者に送信されます。
- ・ コールを無視すると、発信者はこのことを、不在として認識します (コールに回答しなかった場合)。
- ・ ビデオインフラストラクチャを使用すると、複数の着信を受信できます。貴社のビデオサポートチームにご照会ください。

# ビデオ通話 別のコール中にコールを受信する

## オプションについて

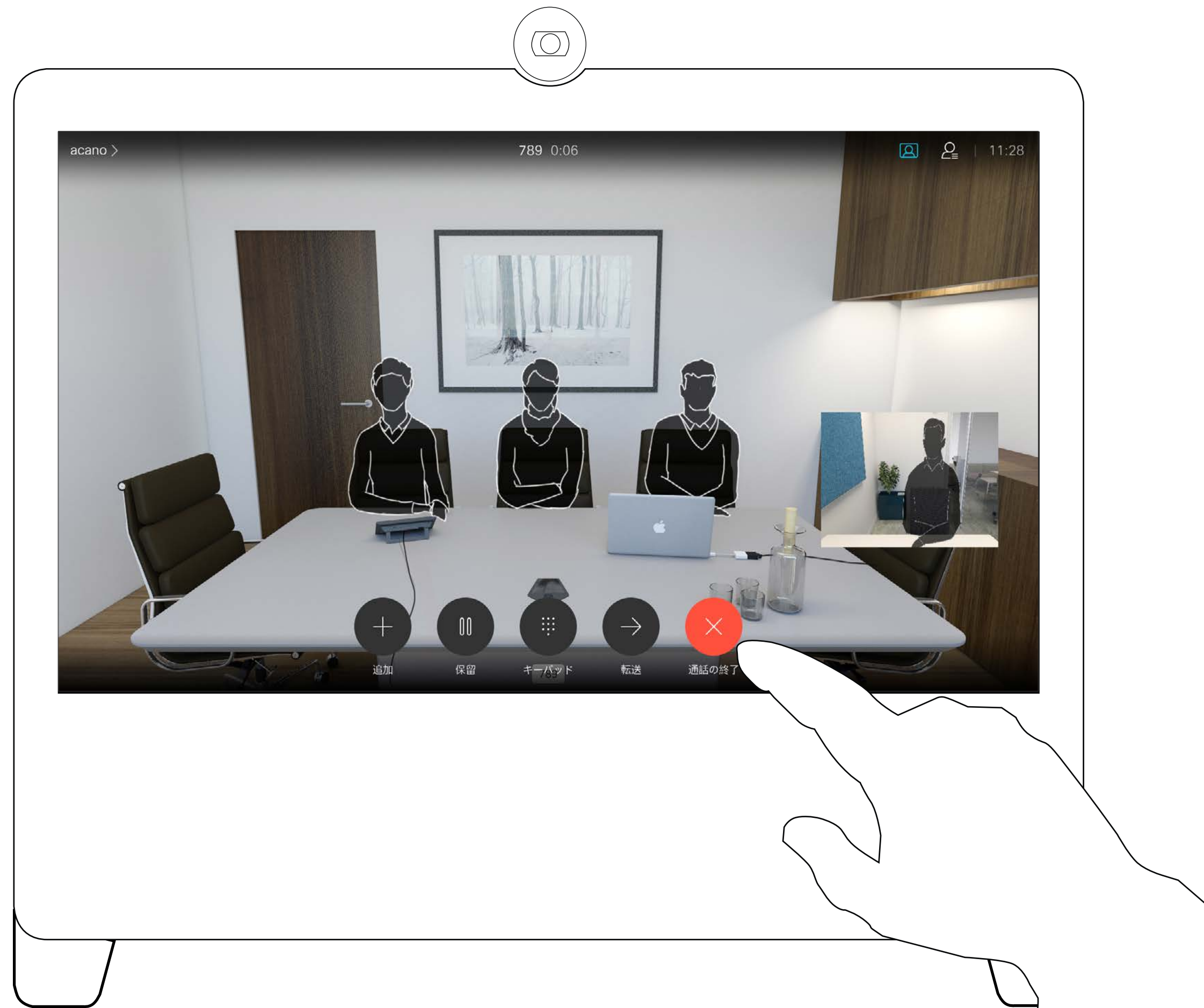
特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。



ビデオ通話  
通話から自分を切断する

自分で切断するについて

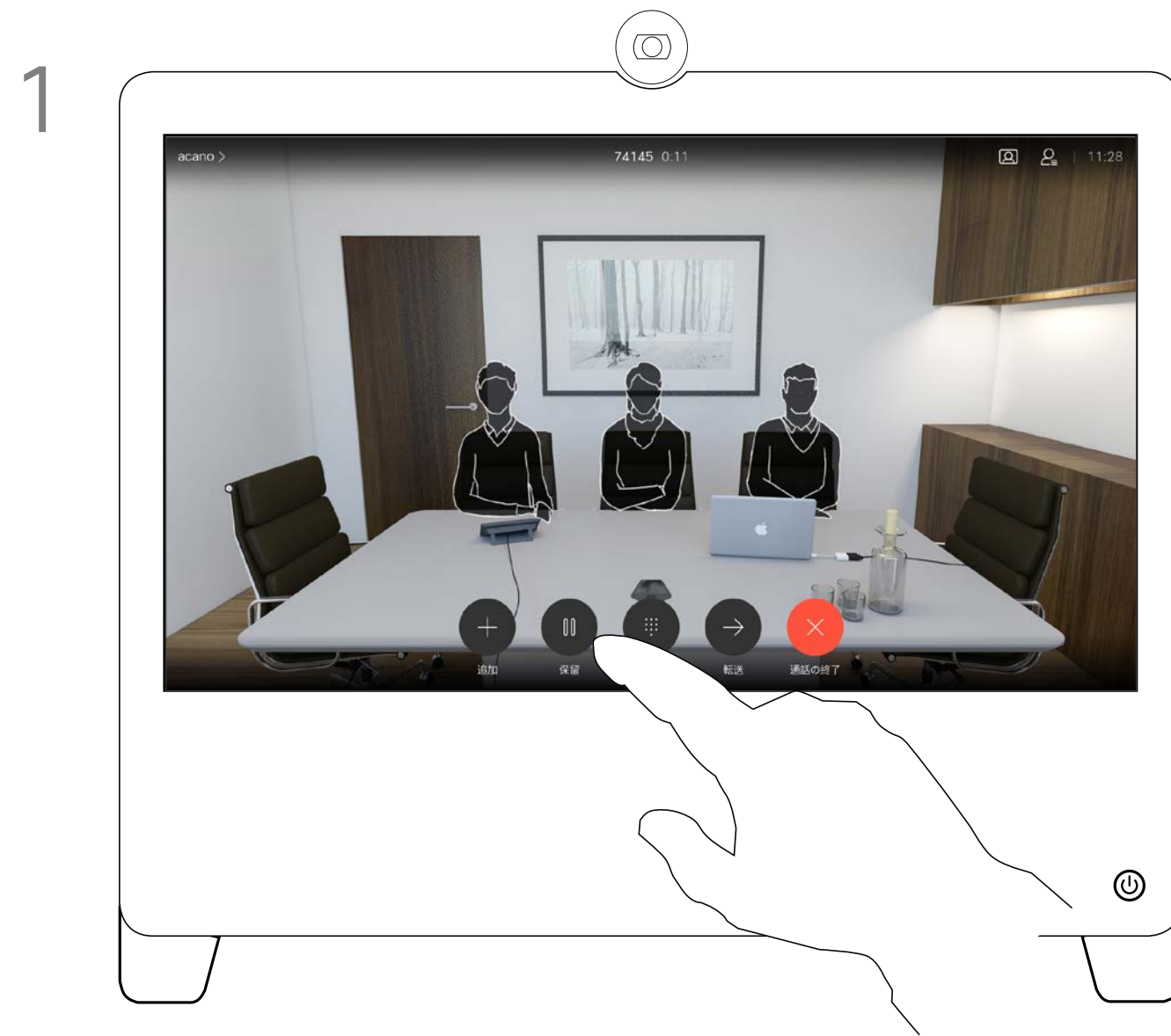
通話中に 通話の終了 をタップすると、通話から切断されます。2 者だけがコールした場合は、このコールは終了します。



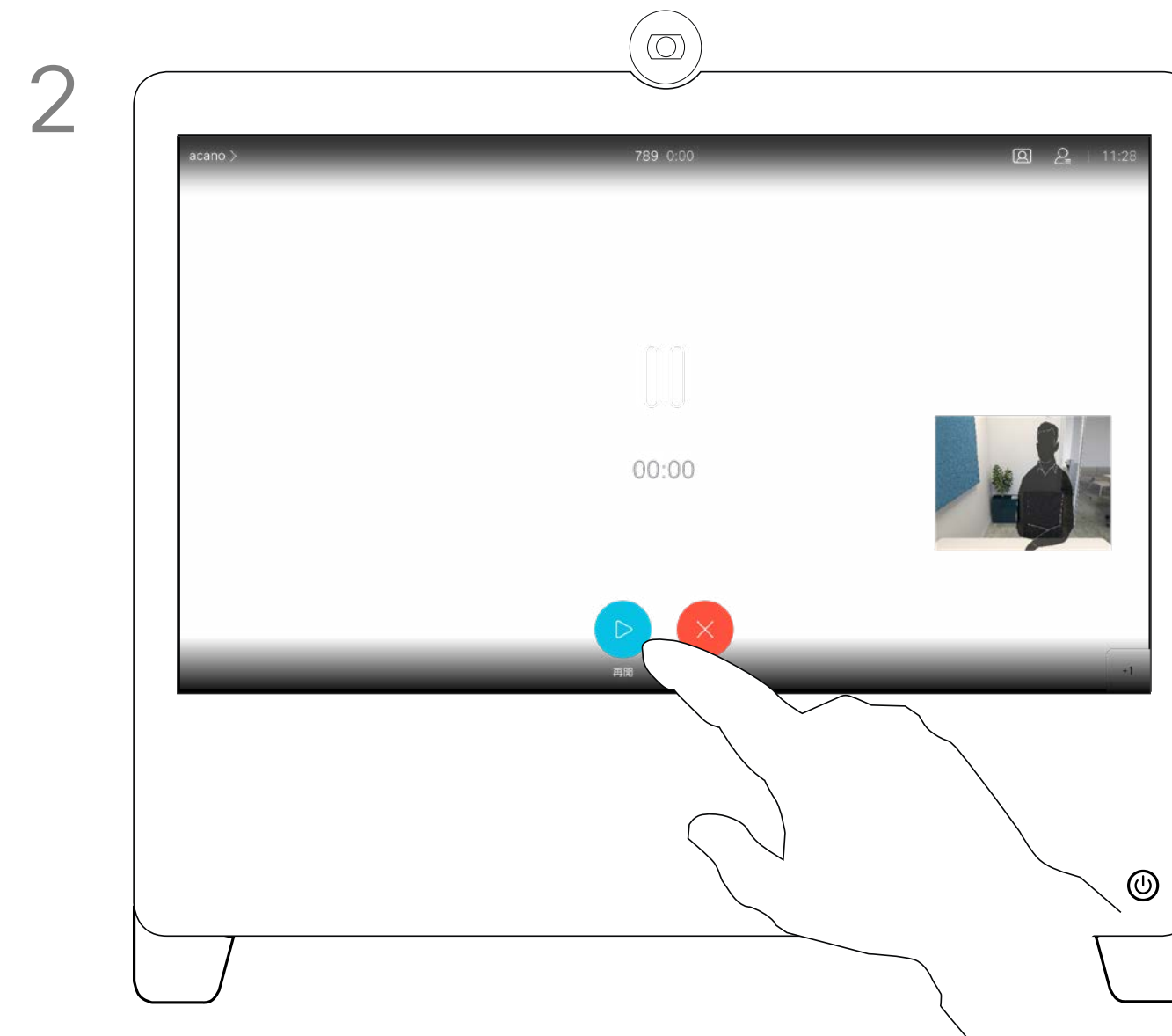
通話を切断するには、通話の終了をタップします。

# コールを保留にし、保留中のコールを再開する

## 保留について



通話中に 保留をタップします。



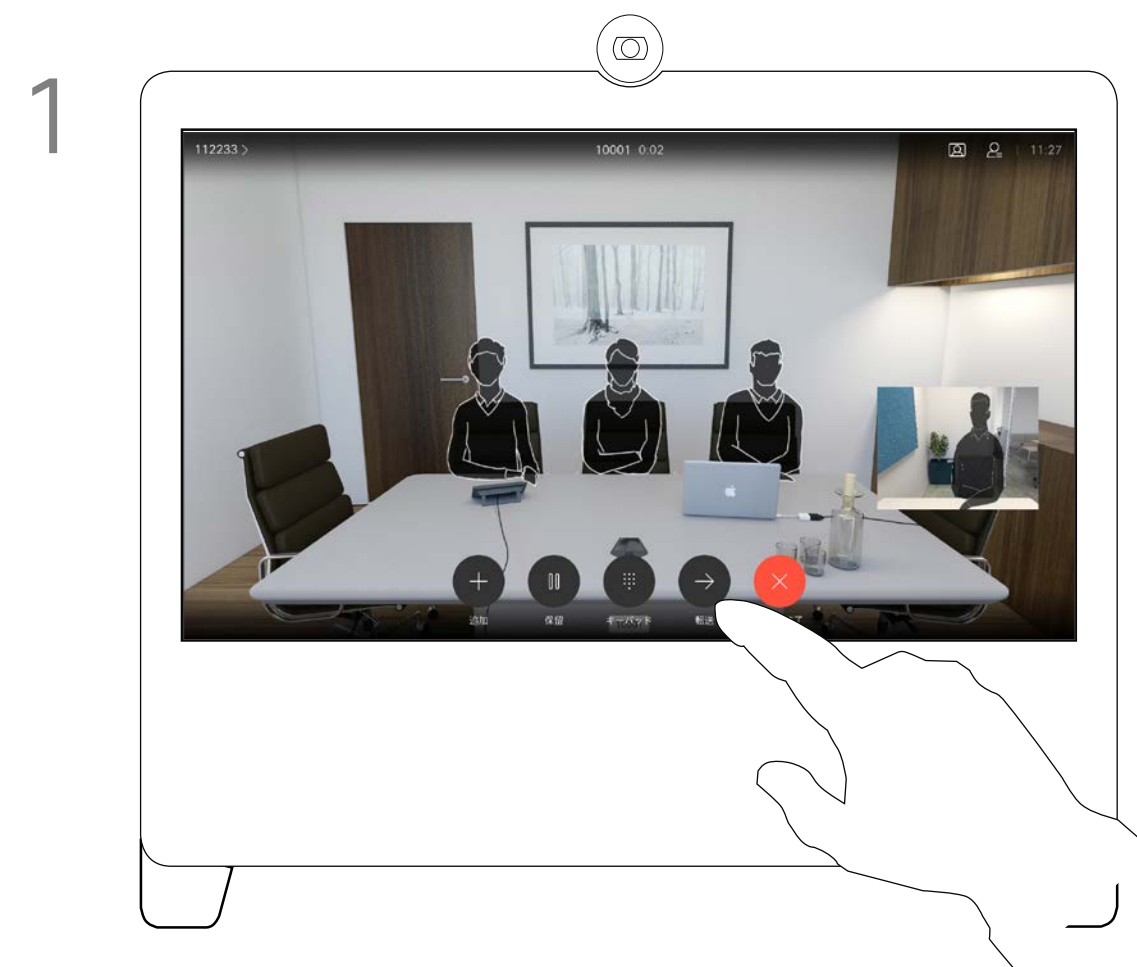
再開をタップして、通話状態にあった相手に戻ります(元の操作に戻ります)。

ユーザを保留にすることは通常、ユーザを別のユーザに転送する際の最初のステップとして使用されます。また、ユーザを調べる必要がある場合や、ビデオ送信を停止する場合などミュートする代わりに使用することもできます。

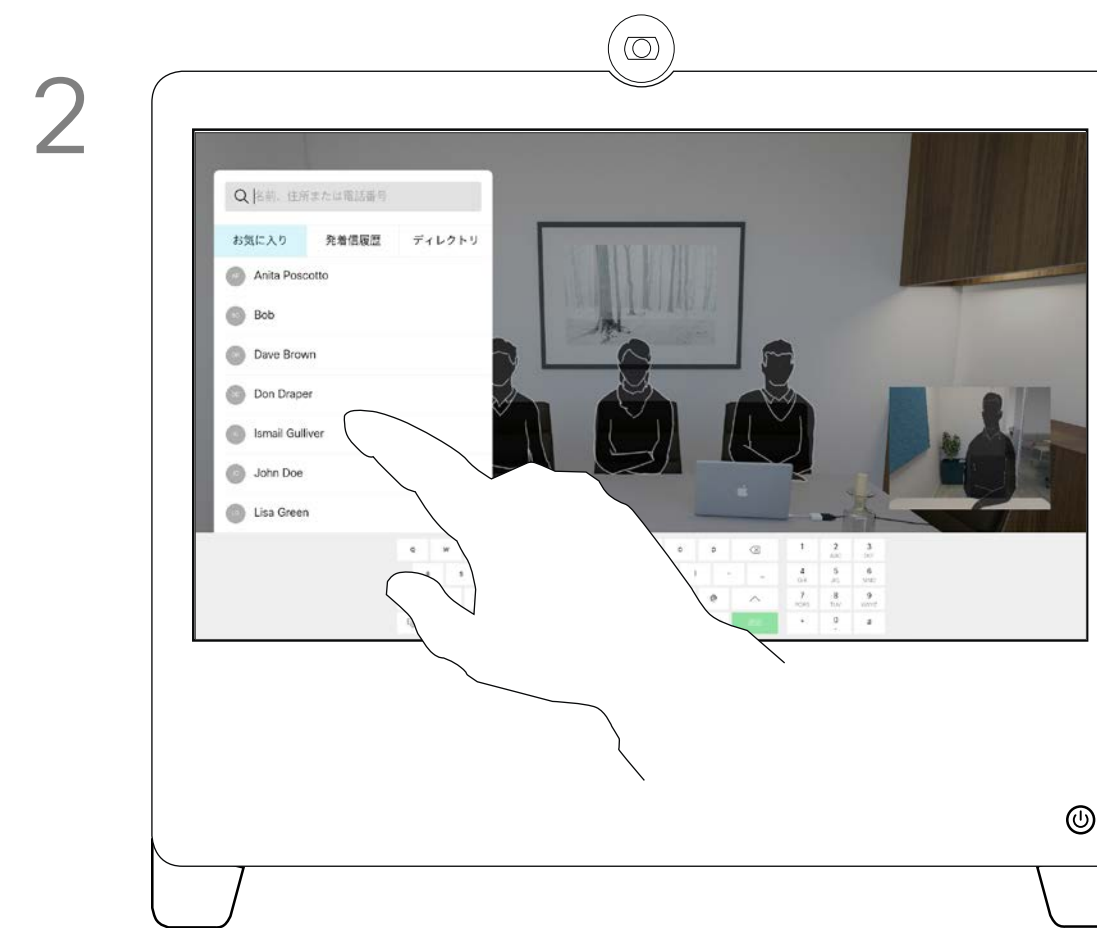
# ビデオ通話 継続中のコールを転送する

## 転送について

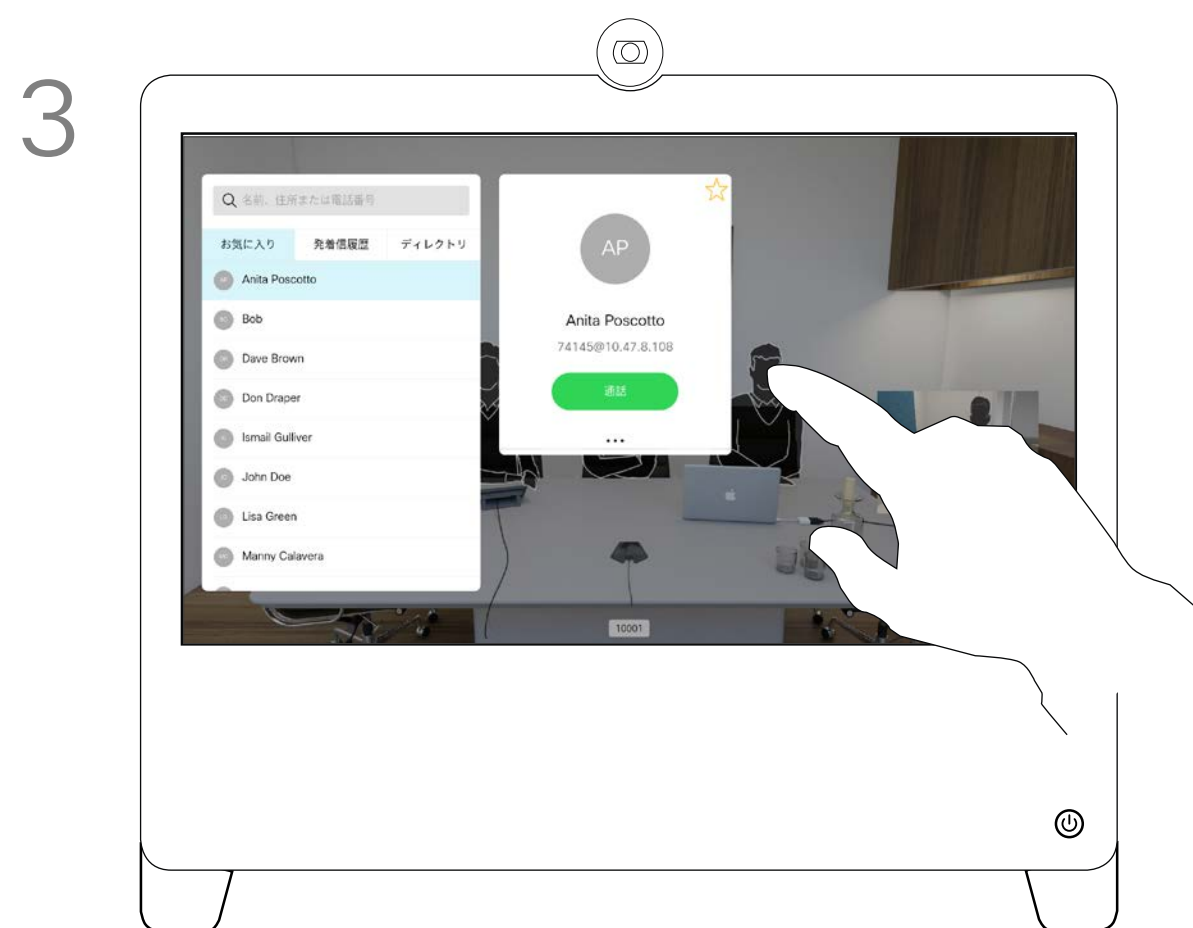
継続中のコールを別の人に転送することができます。転送は常に提案されており、コールを転送する担当者に連絡して、コールを実際に転送することができます。



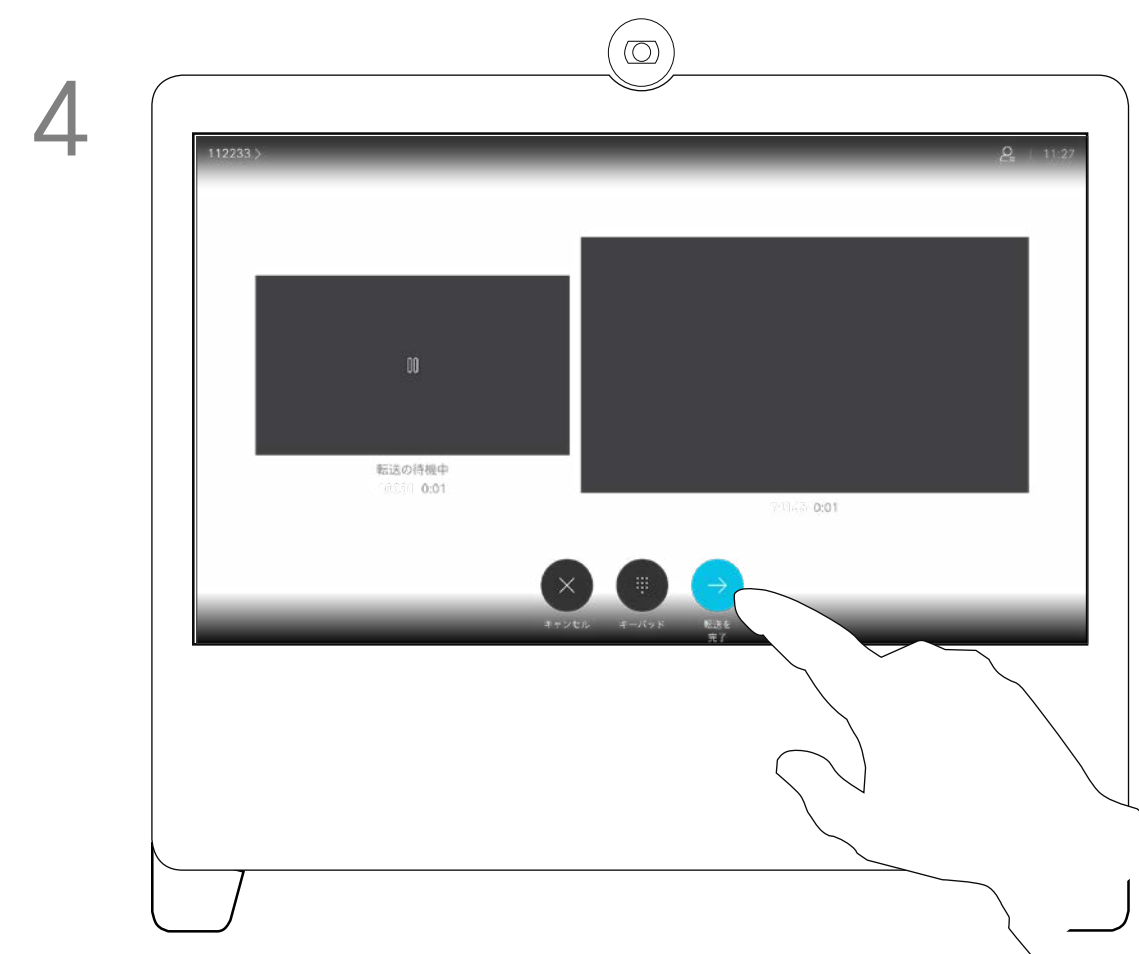
転送ボタンをタップします。これにより、現在の通話が保留になります。



いつもと同じ方法で、発信先を探します。



緑色の通話ボタンをタップします。相手と話して転送が行われたことを確認します。転送先では保留中のままになります。

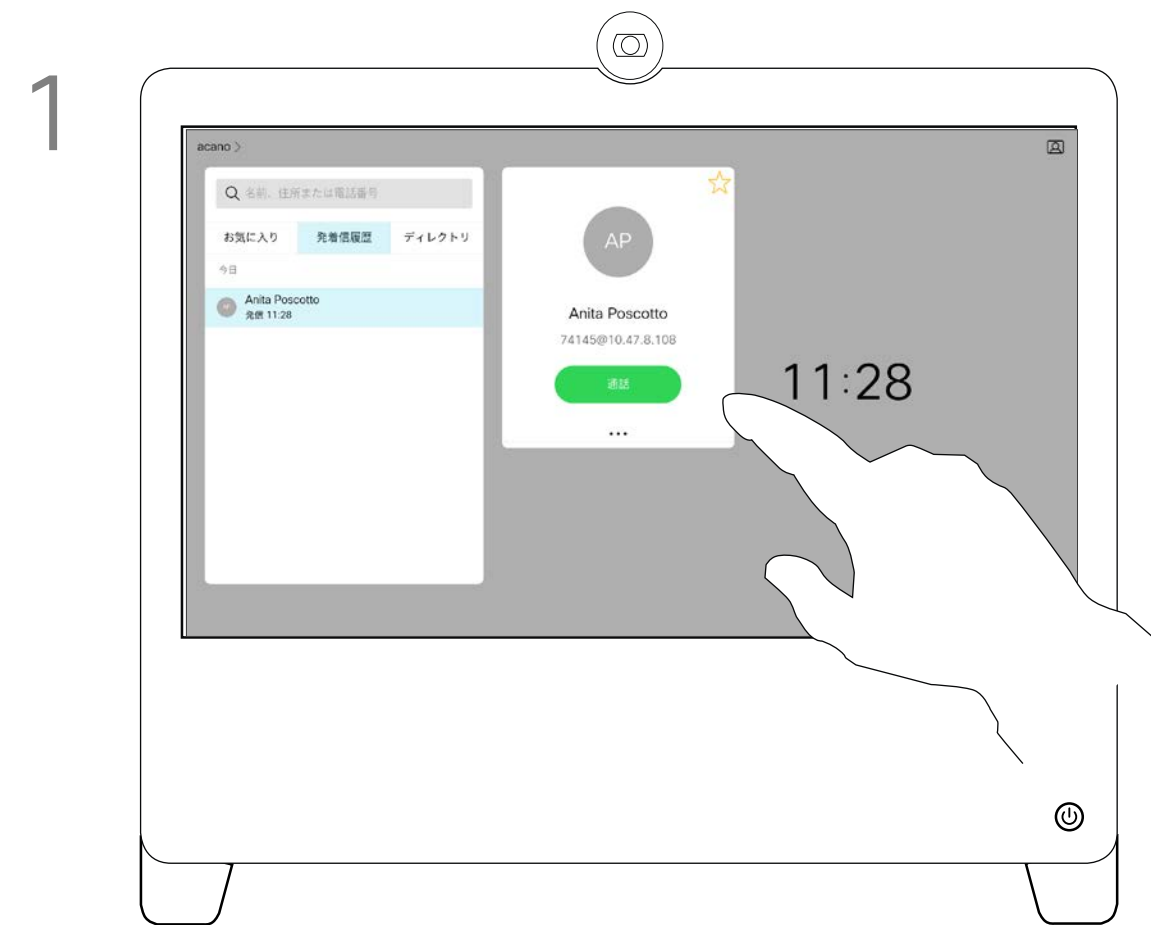


転送を完了をタップします。



# ビデオ通話 帯域を変更する

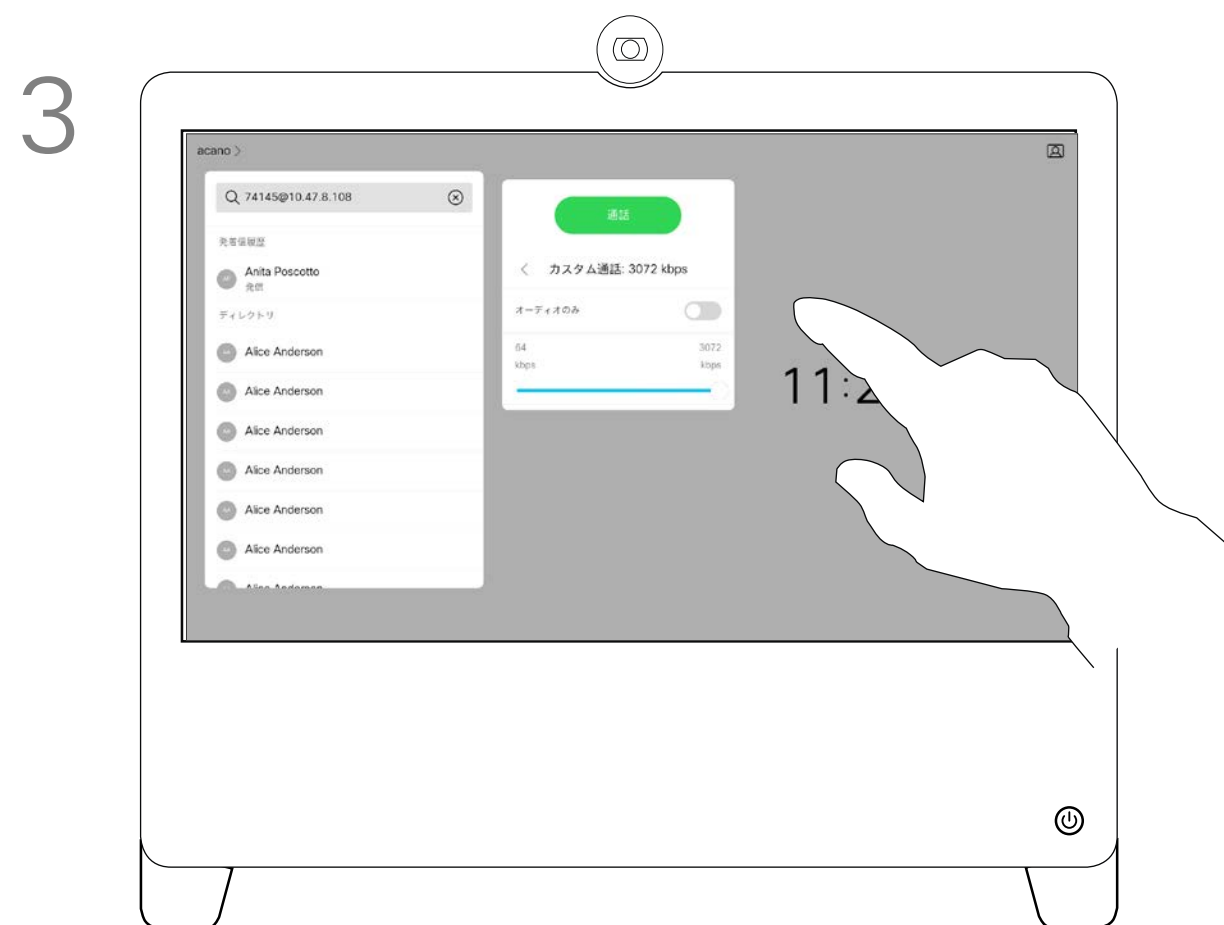
## 帯域について



1 通話ボタン(図示せず)をタップして、帯域を変更するエントリ(図示せず)を特定します。このエントリをタップすると、次の図のように、通話メニューが開き、緑色の通話ボタンの下にある詳細 (...) アイコンをタップします。



2 カスタム コールをタップします。



3 必要な設定にスライダを移動します。



4 緑色の通話ボタンをタップして発信します。

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語です。これは kbps(キロビット/秒)で測定されます。

コールレートが高くなるほど、品質は向上しますが、帯域幅の消費が大きくなります。

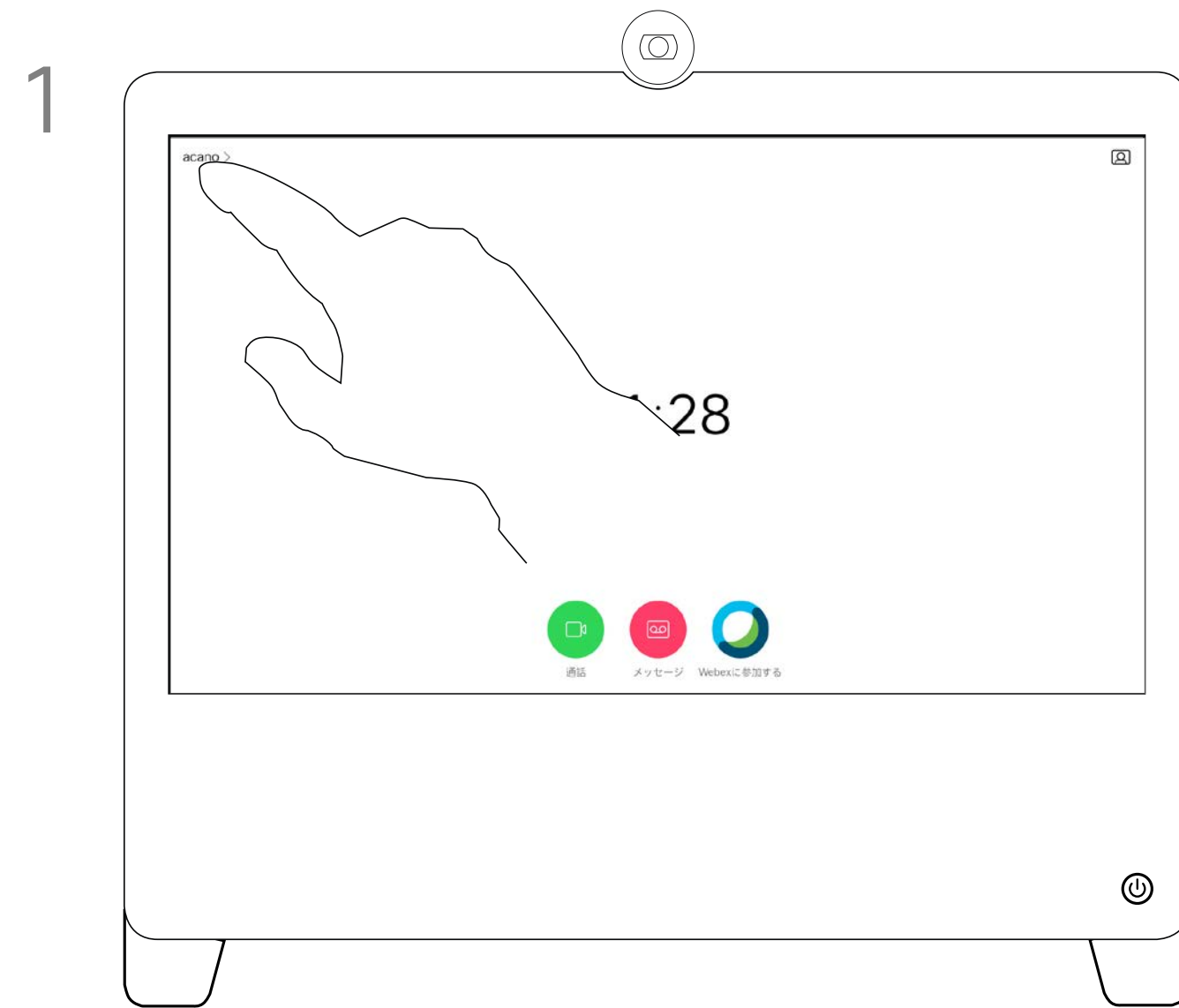
デバイスには、デフォルトのコールレートが付いています。これは通常ビデオ サポート チームが設定します。通常の条件下では、必要に応じて、デバイスによりコールレートが自動調整されます。これは、デバイスや接続のサポートより高いレートで他のユーザを呼び出す場合に、ビデオコールを回避するために実行されます。

何らかの理由によって、自動帯域設定に失敗した場合、最終手段として手動で調整することも可能です。

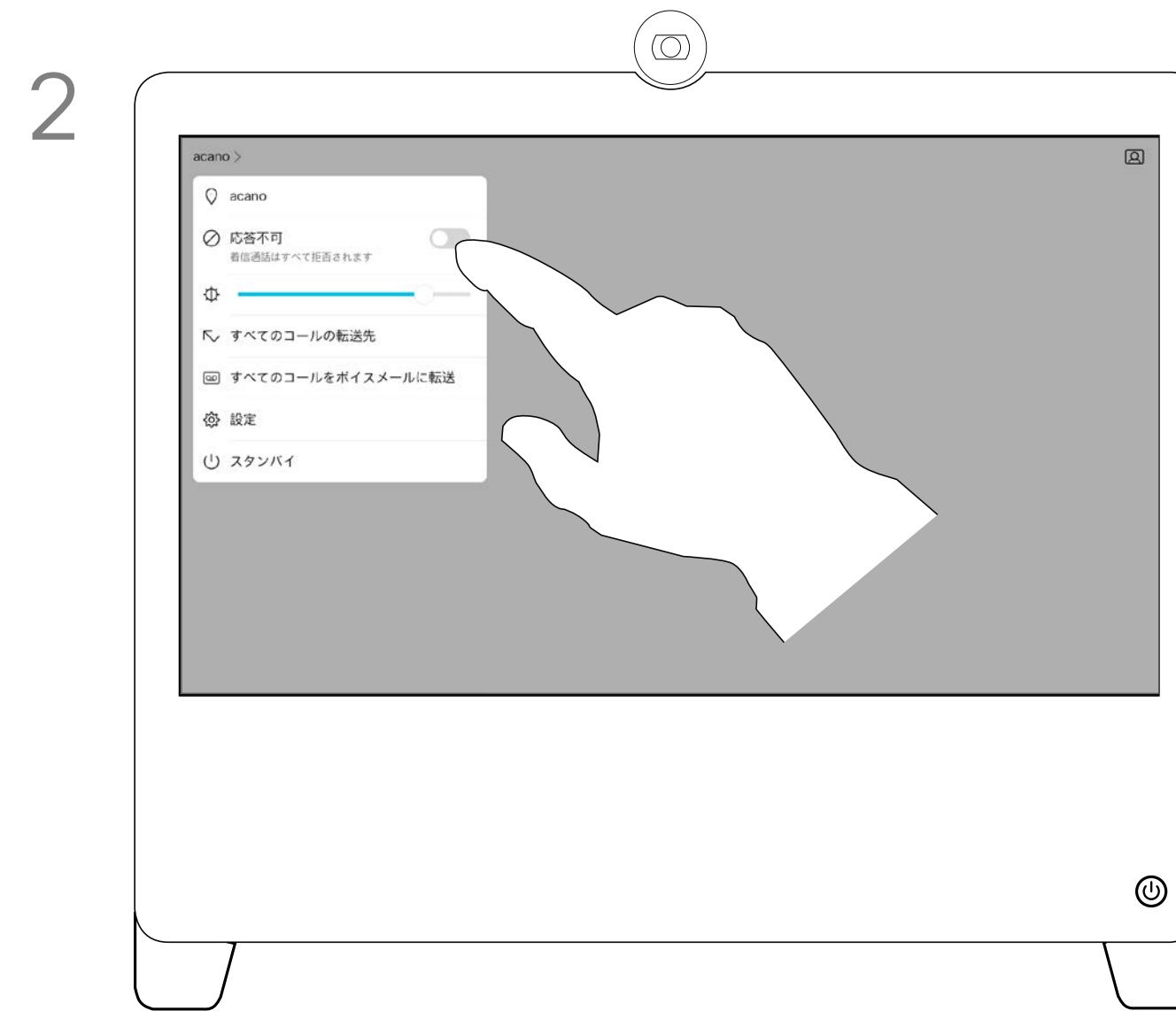
コールレートは通話中の変更はできませんが、左の図のように、コールを発信する直前に変更できます。

# ビデオ通話 応答不可を有効にする

## 応答不可について



図のように、左上をタップします。



応答不可をタップして、機能を有効にします。もう一度タップして非アクティブ化します。

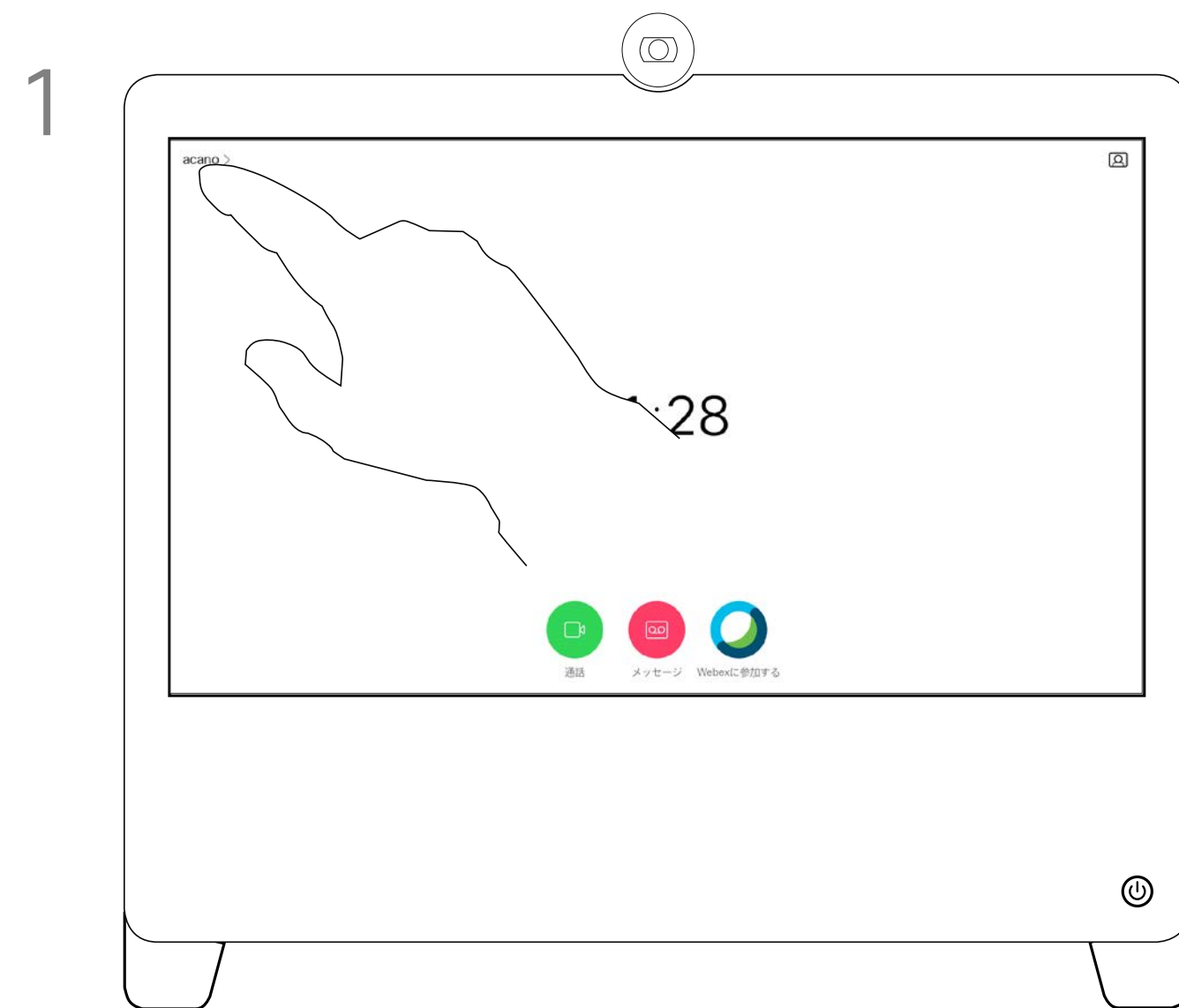
着信コールに応答しないようにデバイスを設定することができます。そのまま使用して、他のユーザを呼び出すことができます。

ビデオサポートチームがこの機能のタイムアウトを設定していて、その後デバイスが着信コールに応答して通常どおり応答するようになっている可能性があります。デフォルトのタイムアウト設定は60分です。

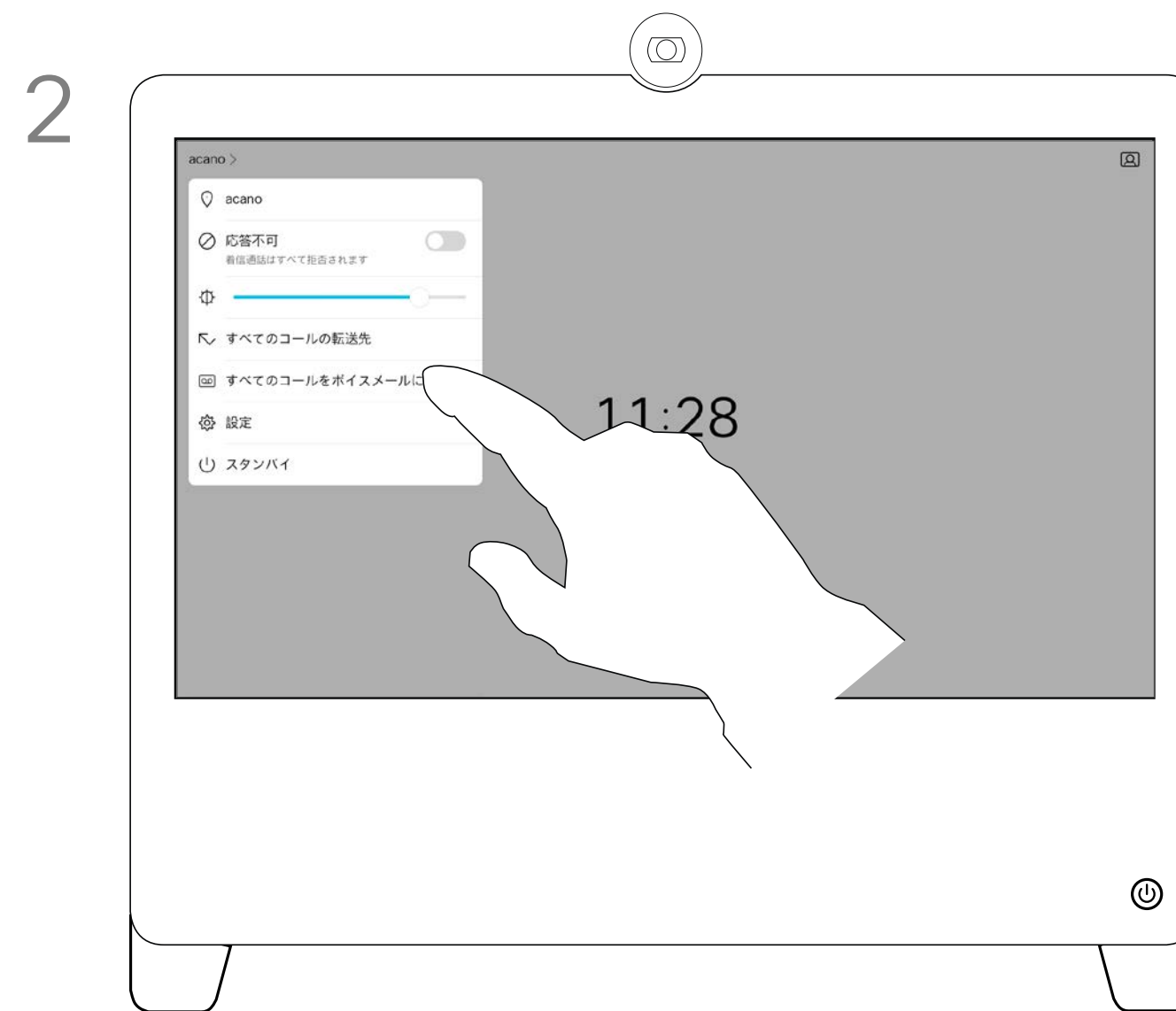
ビデオサポートチームによって、この機能へのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

# ビデオ通話 すべての通話の自動転送

## 通話の転送について



図のように、左上をタップします。



受信者を指定してすべての通話を転送するか、ボイスメールに転送するかを選択できます。

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

すべてのコールを転送をタップすると、いつもの 通話メニューが表示され、受信者を指定できます。

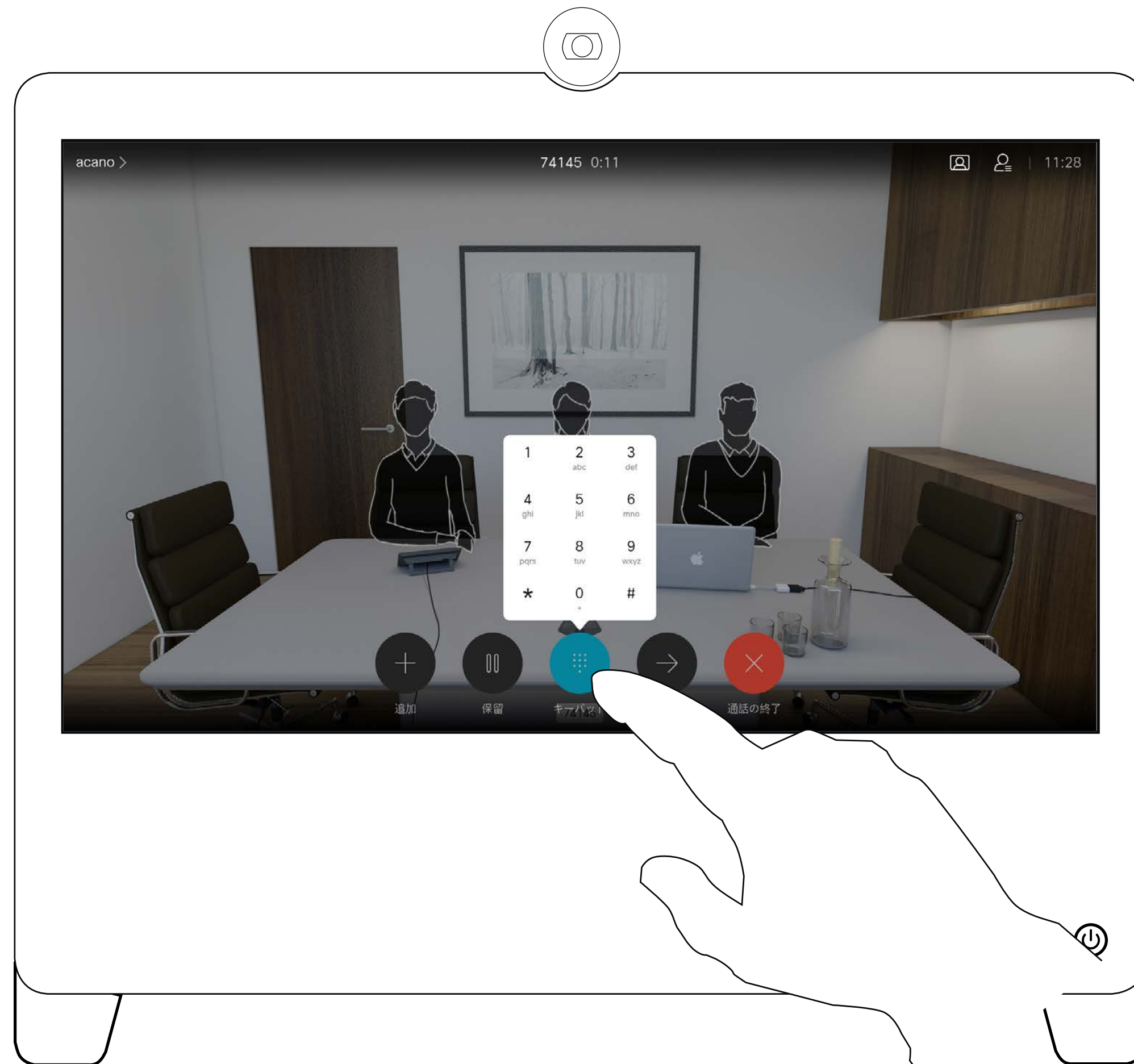
ビデオ サポート チームによって、この機能へのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

ビデオ通話  
通話中にキーパッドを表示する

通話中のキーパッドの使用

通話中に、内線にアクセスできるようにするか、または何か(たとえば、PIN コードを入力)に入れるようにするのに、番号を送信するように求められることがあります。

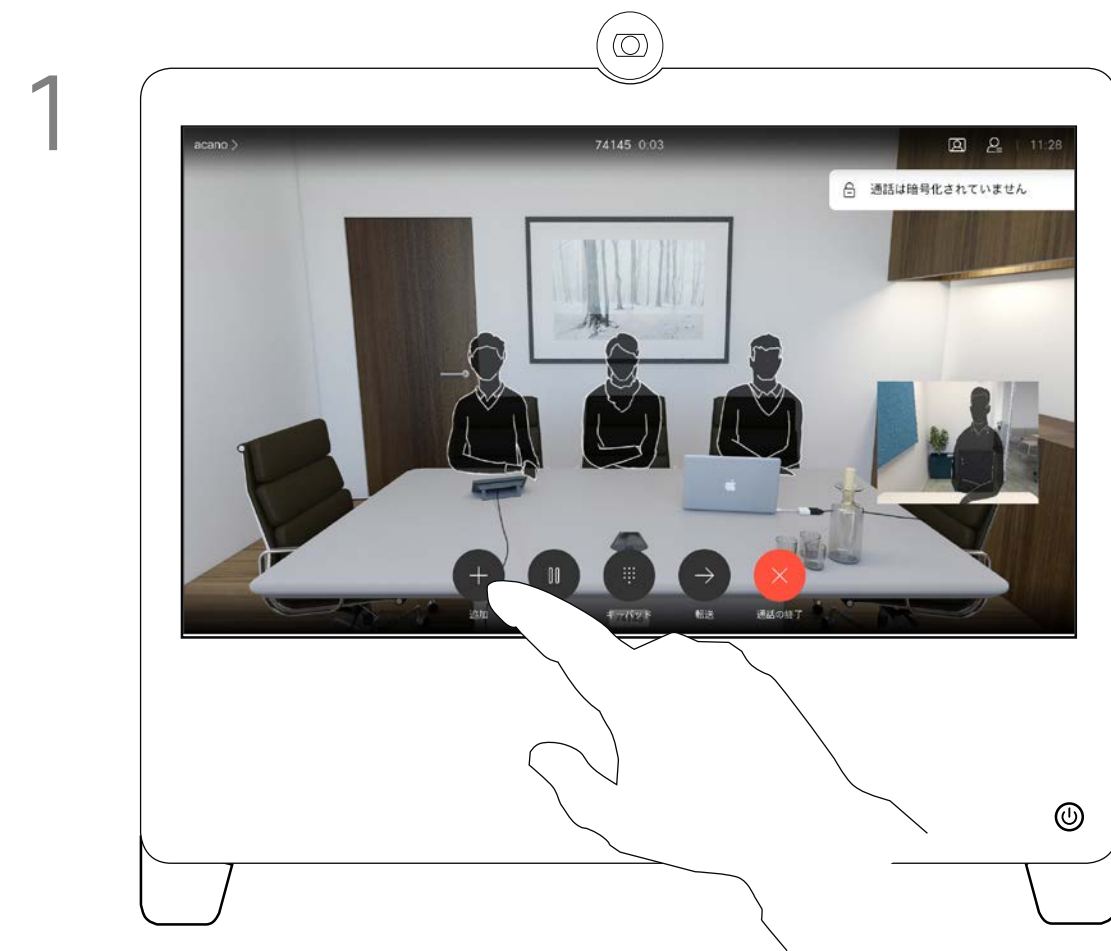
これを入力するには、タッチ画面のキーパッドを呼び出す必要があります。



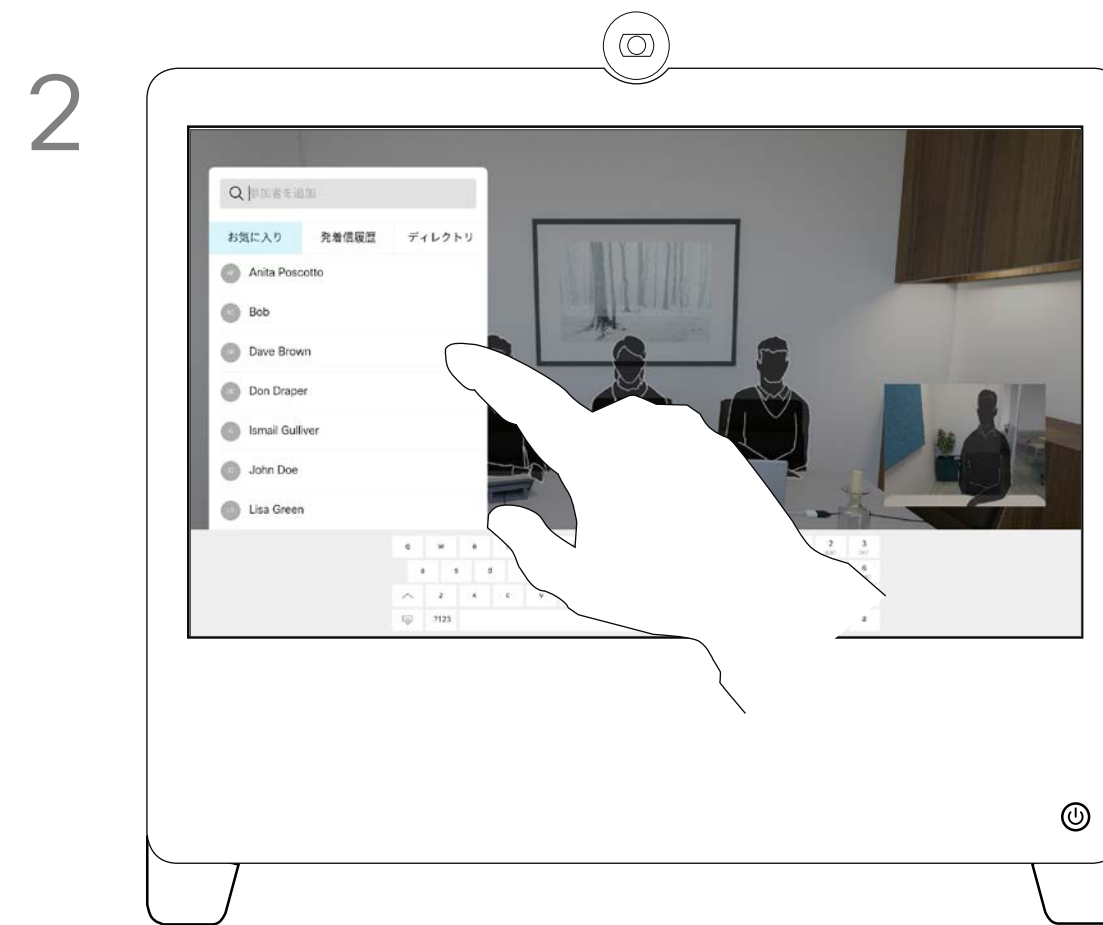
通話中に、タッチトーン をタップして、ダイヤルパッドを開きます。

# ビデオ通話 既存の通話への参加者の追加

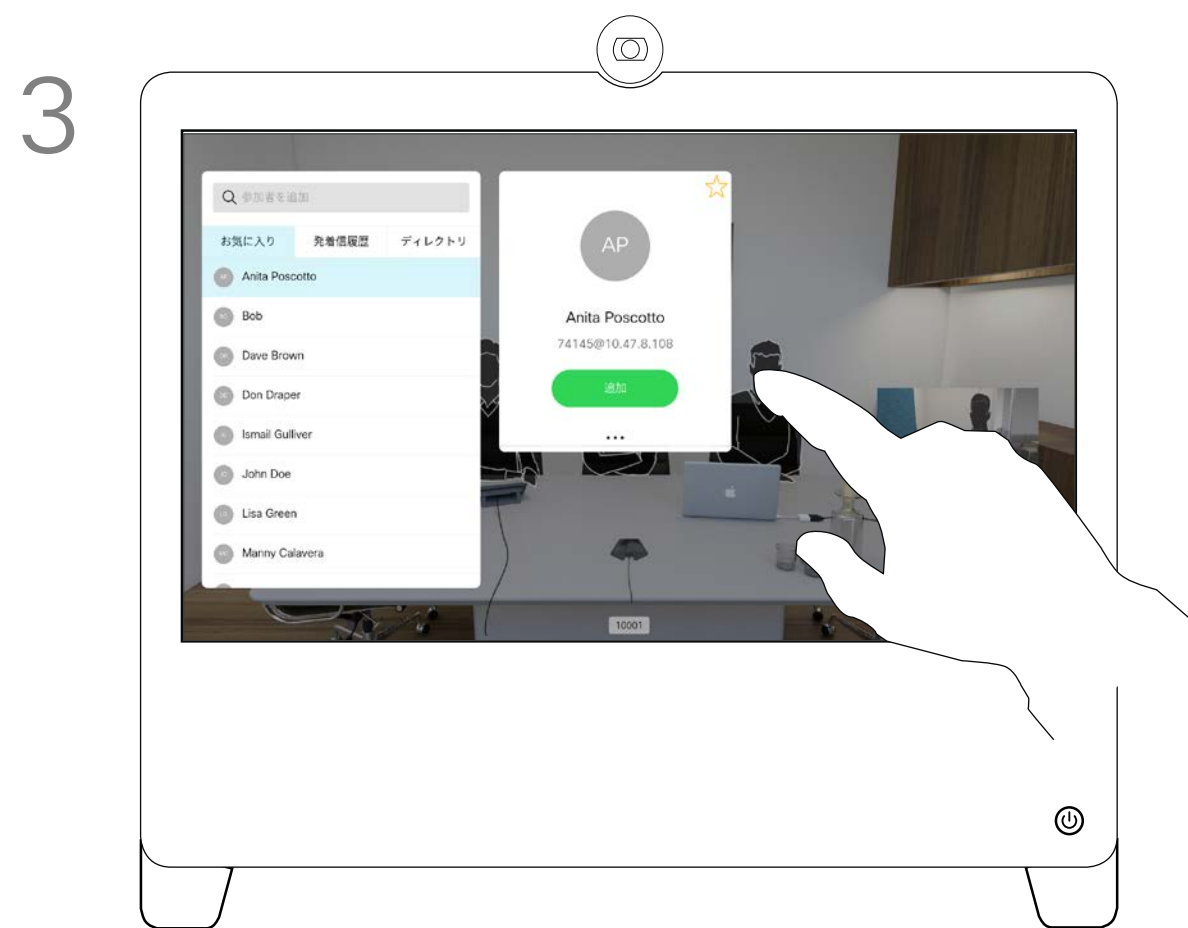
## ビデオ会議について



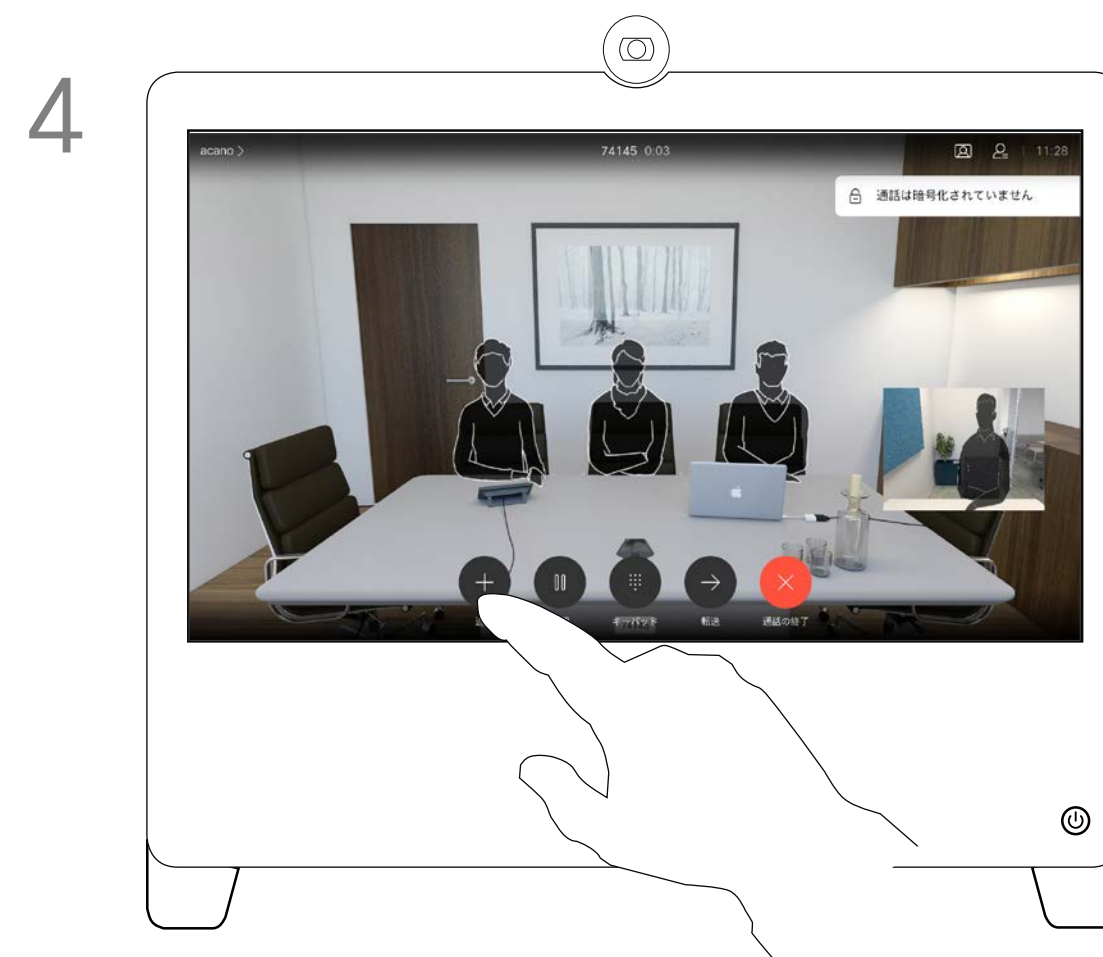
通話中に 追加をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。発信する前に、通話の設定を変更することができます。



既存のコールにコールが追加され、会議を確立しました。ビデオ インフラストラクチャの許容する範囲で、この手順を繰り返すことができます。

ビデオデバイスネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が装備されている場合があります。

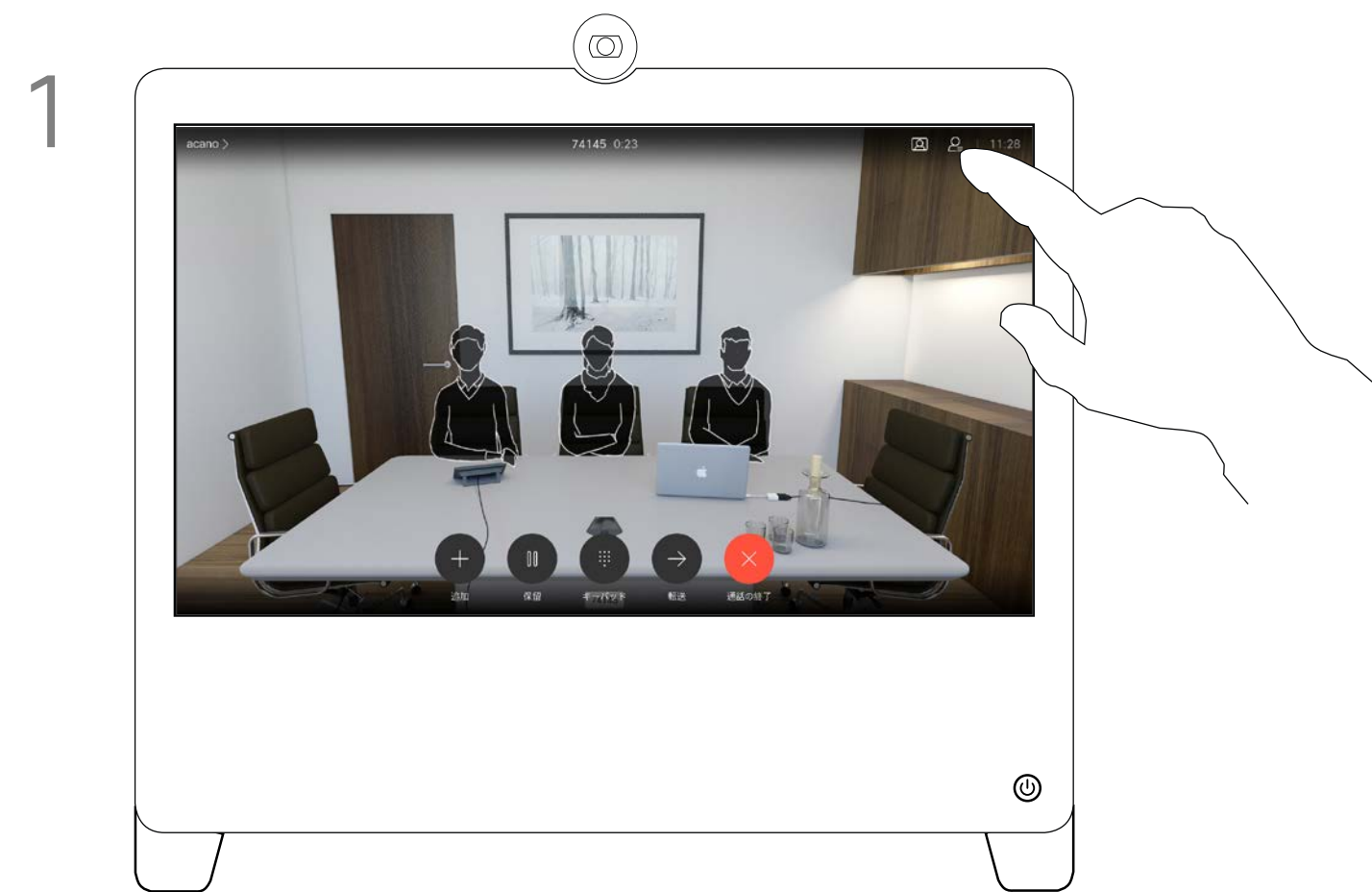
ビデオデバイスでサポートされる参加者の最大数は、デバイスの設定とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへお問い合わせください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。

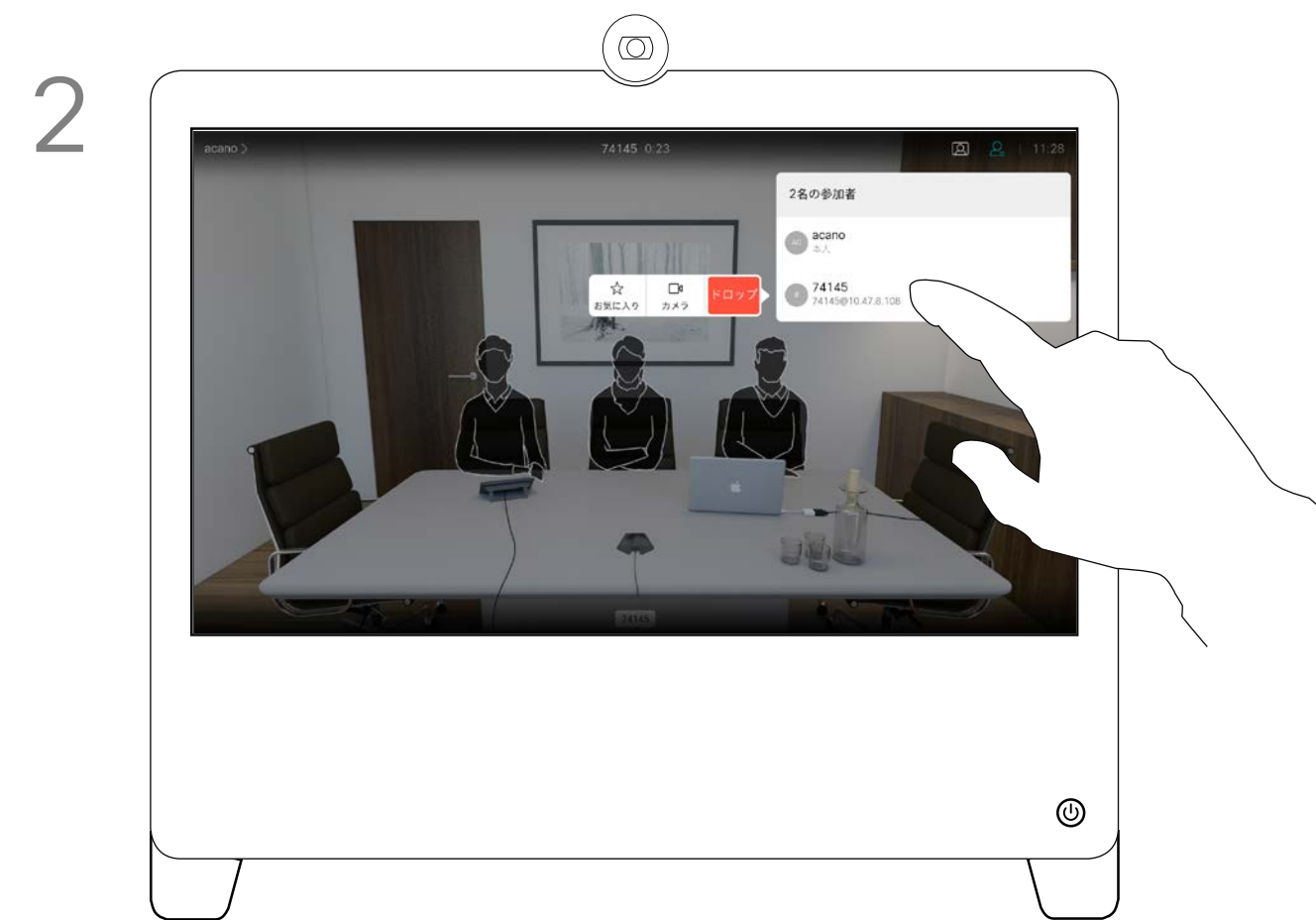
会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。他の参加者が会議から切断できるのは自分だけです。

# ビデオ通話 会議から参加者を切断する

## ビデオ会議について



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



ミーティングからドロップする参加者をタップします。



ドロップをタップします。

DX70 または DX80 からビデオ会議を実施できるかどうかは、お使いのデバイスで使用できる場合とできない場合があります。

# インテリジェント近接通信

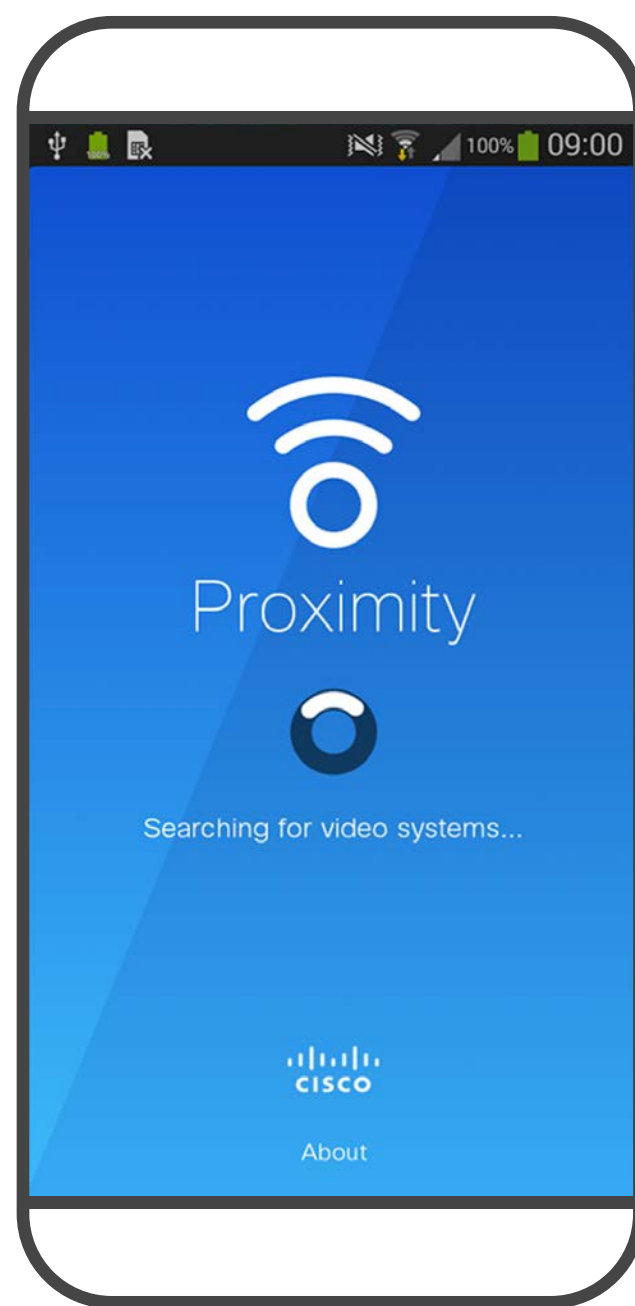


# Cisco Proximity の超音波信号

Cisco ビデオデバイスは、近接機能の一部として超音波を発生しています。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合もありますが、75dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接通信信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン [http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code\\_24-securite/index-eng.php#a2.2.2](http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2) (英語) をご覧ください。



120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

個人使用の Cisco ビデオデバイスの場合、超音波の音圧レベルは 70 dB 未満で 20 cm 以上の距離にあります。スピーカーから 20 cm 以上です。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音についてミーティングスペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が近接通信の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いいため、近接通信の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なります。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであっても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンドノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることとなります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたというレポートはありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオコーデックをサードパーティ製のスピーカーシステムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

## 近接通信について

インテリジェント近接機能を使用すると、コンピュータからビデオデバイス上のワイヤレスでコンテンツを共有できます。スマートフォンやタブレットでは、共有コンテンツを自分の画面に直接表示することもできます。

また、自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。

次の条件に従ってください。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X ユーザーは、<https://proximity.cisco.com/> に移動してください。

ビデオサポートチームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

インテリジェント近接通信は、ユーザの接続時に超音波を利用します (詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

インテリジェント近接通信は、会議室のドアが閉じられた状態では、ミーティング室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオエンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。

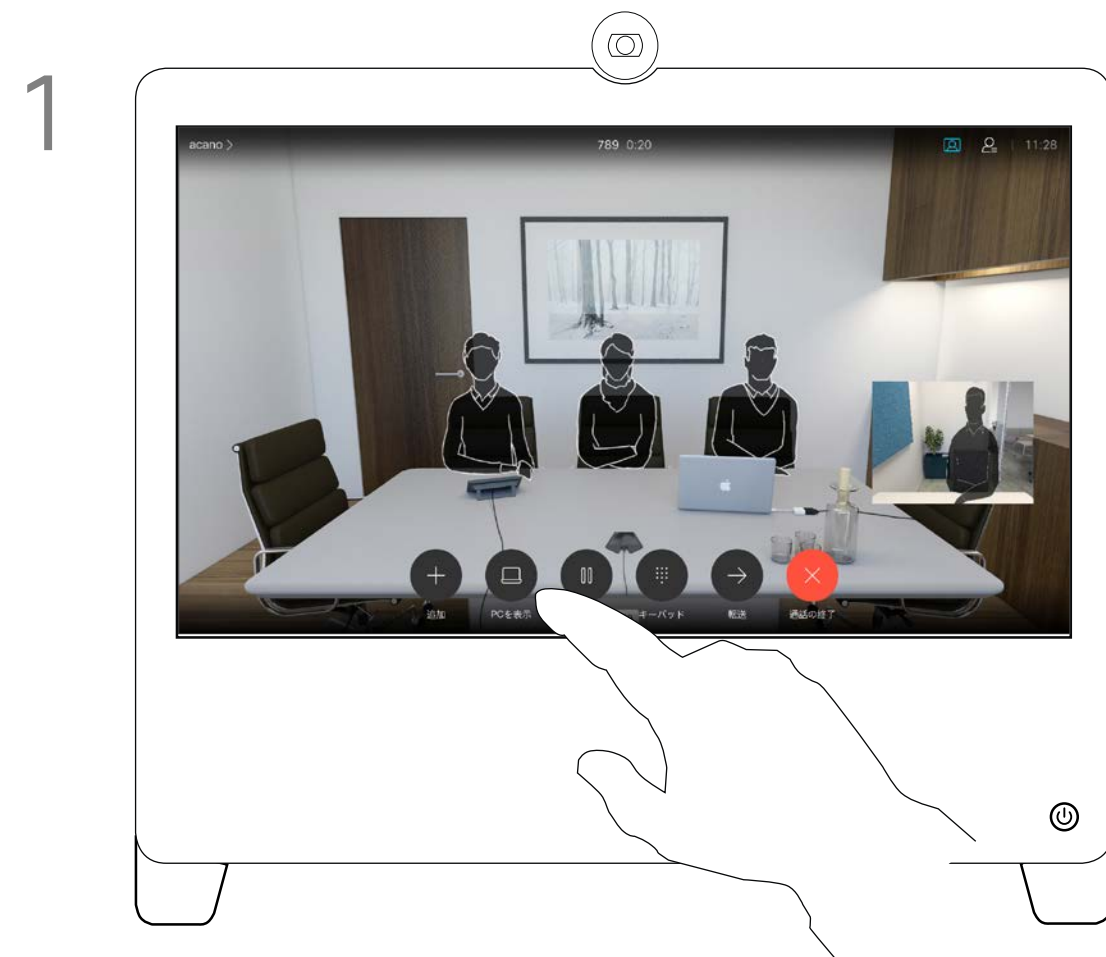




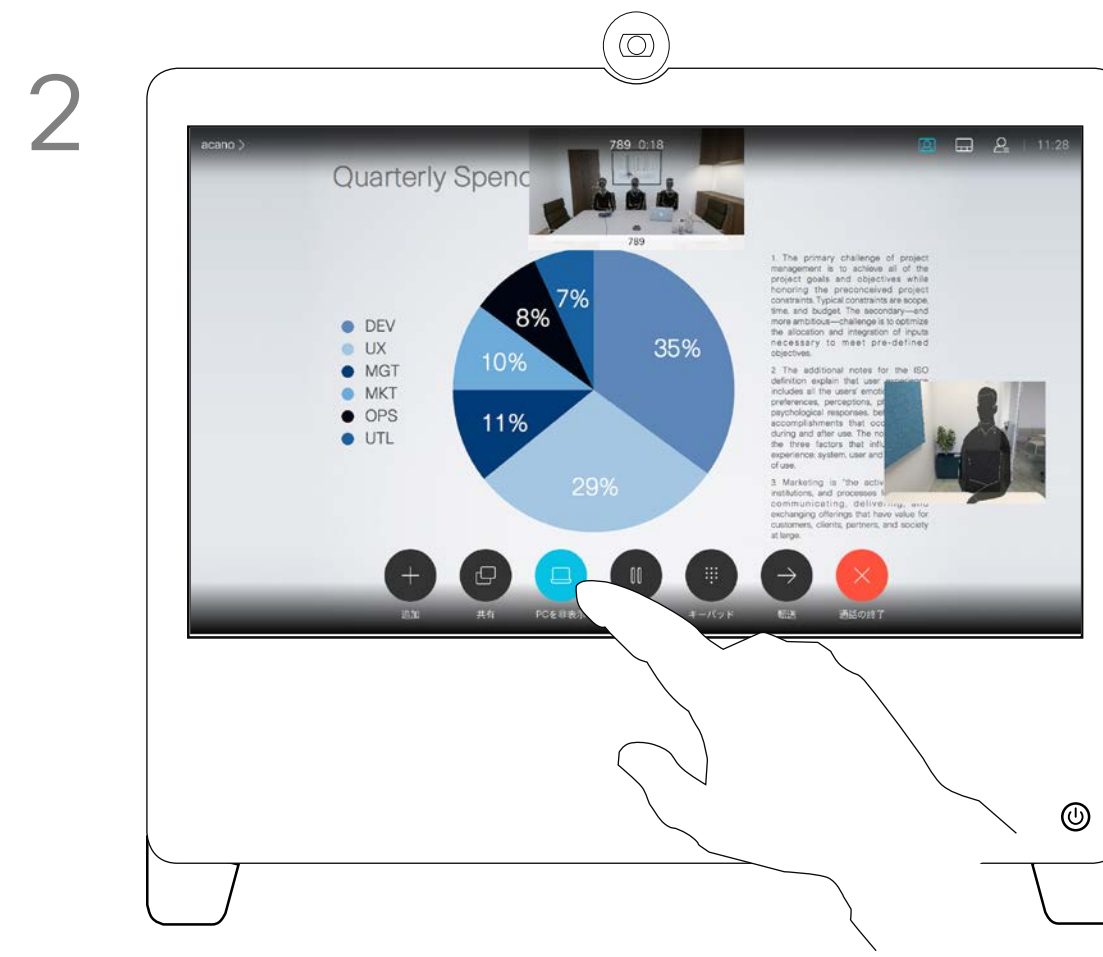
# コンテンツ共有

# コンテンツ共有 通話でのコンテンツ共有

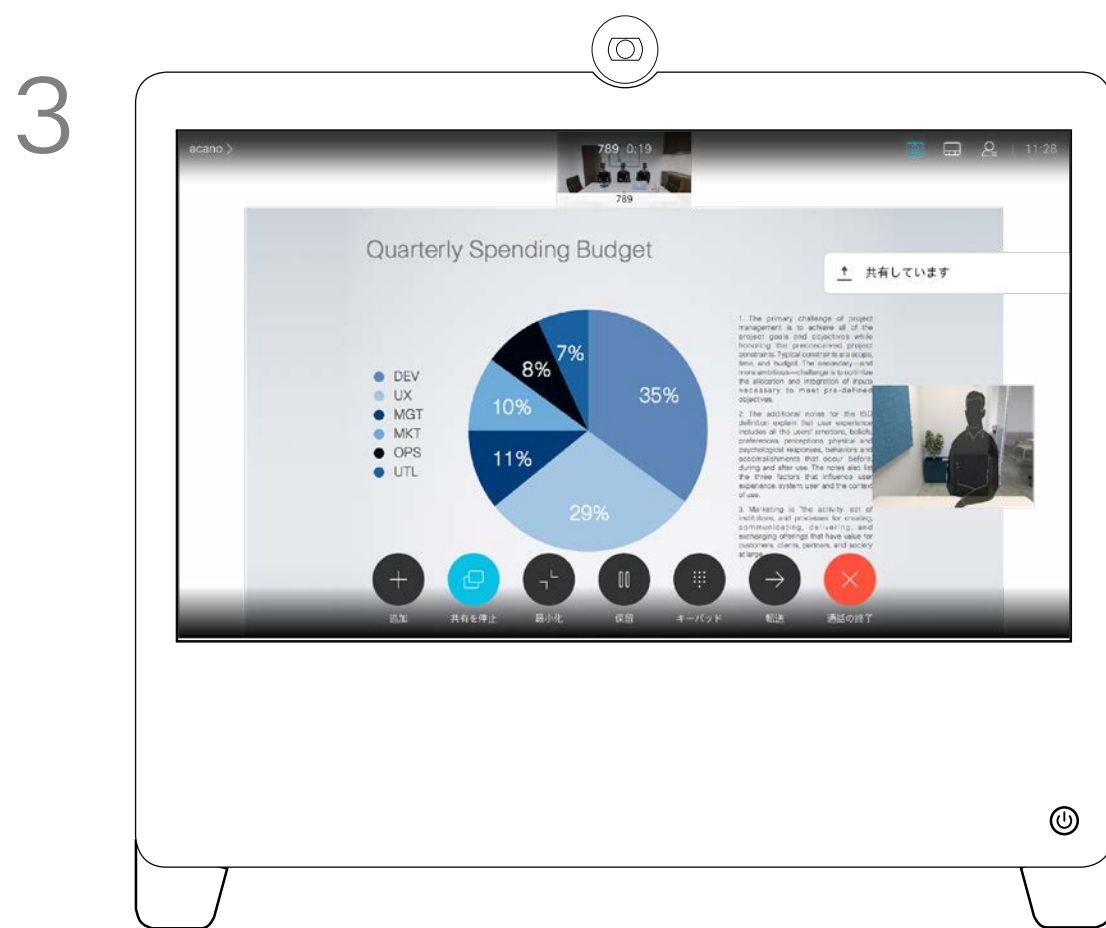
## コンテンツ共有について



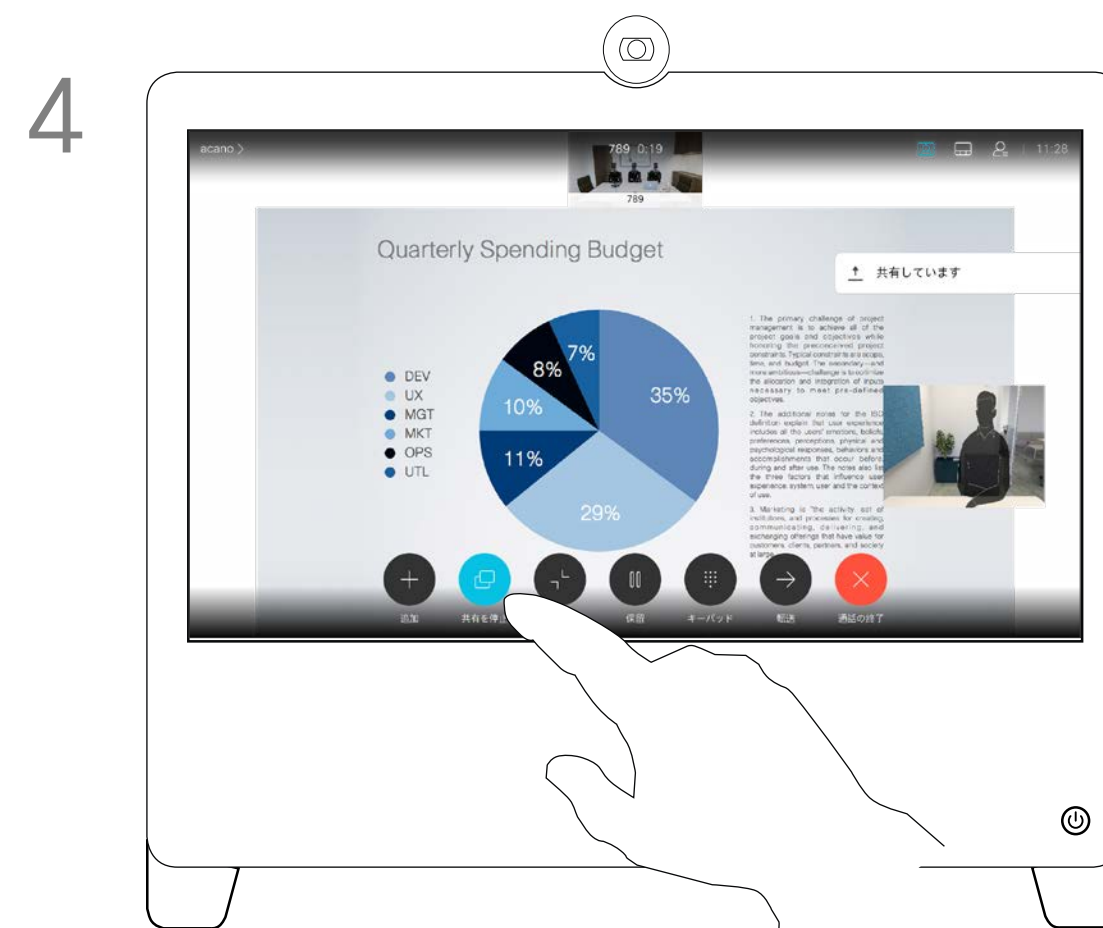
通話中に、ソースを接続して、オンになっていることを確認します。PC の表示をタップすると、PC の画面がデバイスにローカルで表示されます。これを行ったときに画面に表示される内容は、他の参加者には表示されません。



他の参加者と自分の PC の画面を共有したくない場合は、PC を非表示にする をタップすると元の状態に戻ります。コンテンツを共有する場合は、図のように 共有をタップします。



PC 画面のコンテンツが他の参加者と共有されています。



コンテンツの共有を停止するには、図のように 共有を停止をタップします。

ビデオデバイスは、ビデオコールまたはビデオ会議でプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。詳細については、次のページを参照してください。

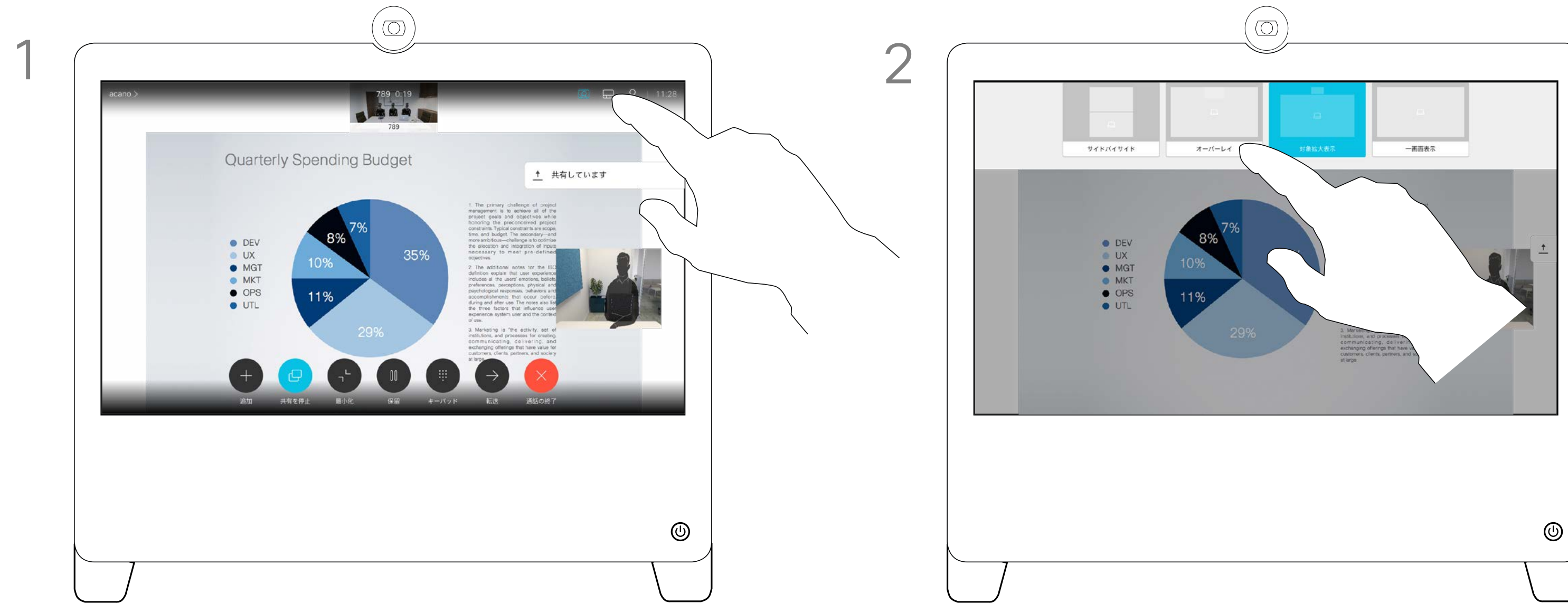
ヒント デバイスカメラは、ドキュメントカメラとして動作します。表の前面にあるドキュメントやその他の物理オブジェクトをデバイスの前面に表示するには、次のように傾けます。

カメラはその操作を認識し、自動的にイメージを上下反転します。したがって、期待どおりのイメージが相手に表示されます。



# 通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更

## プレゼンテーション レイアウトについて



1 レイアウトをタップして、図のようにレイアウトオプションを呼び出します。

2 好みのレイアウトをタップして選択します。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。一般的なオプションは、プレゼンタの表示または非表示に加え、プレゼンタを PiP (ピクチャインピクチャ) または PoP (ピクチャアウトサイドピクチャ) での表示を指定します。

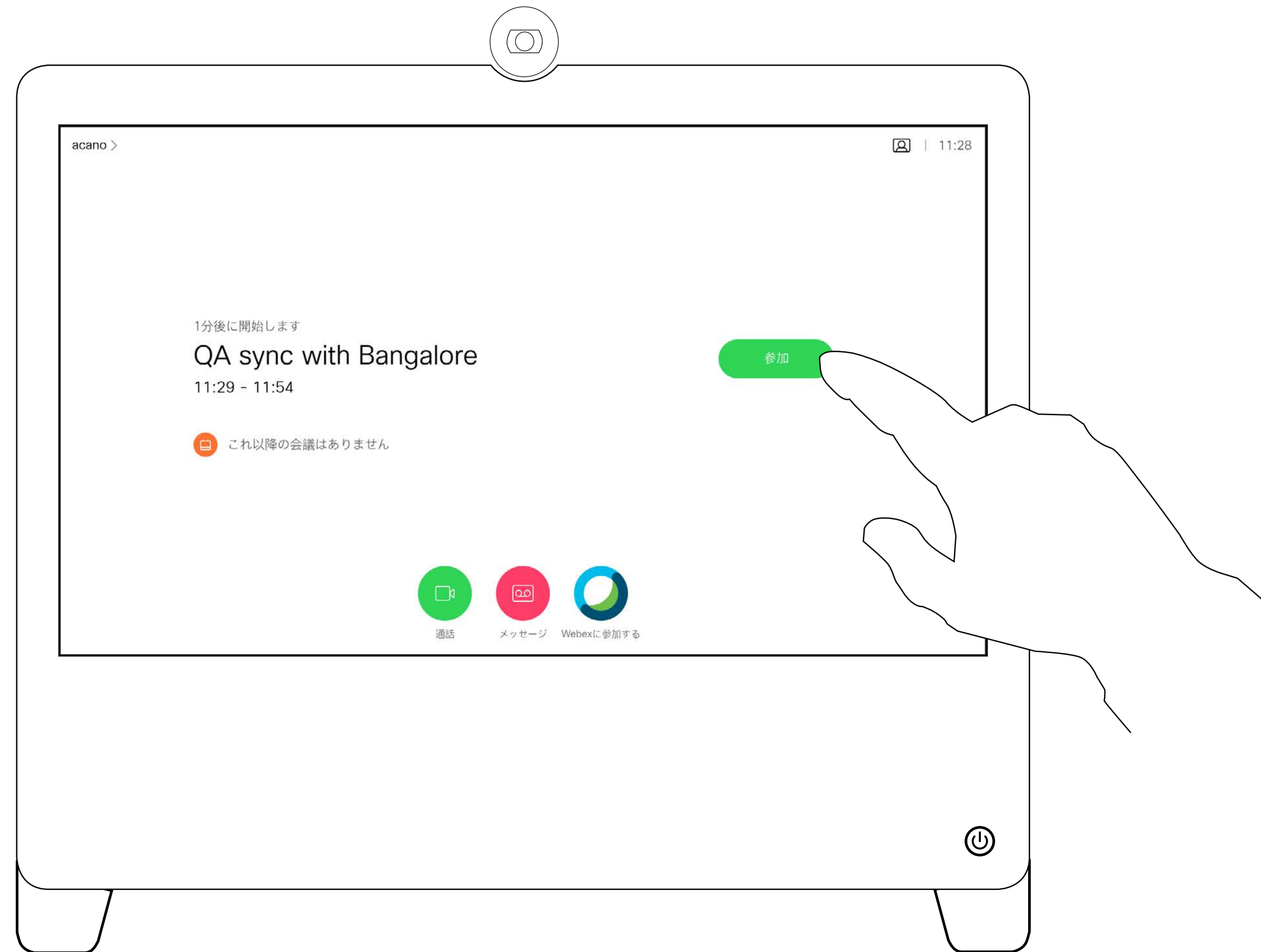
デバイスで使用可能なレイアウトオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、表示されるレイアウトは常に選択可能なものです。



# ミーティングのスケジュール

ミーティングのスケジュール  
**ミーティングのスケジュールに参加する**

ミーティングへの参加



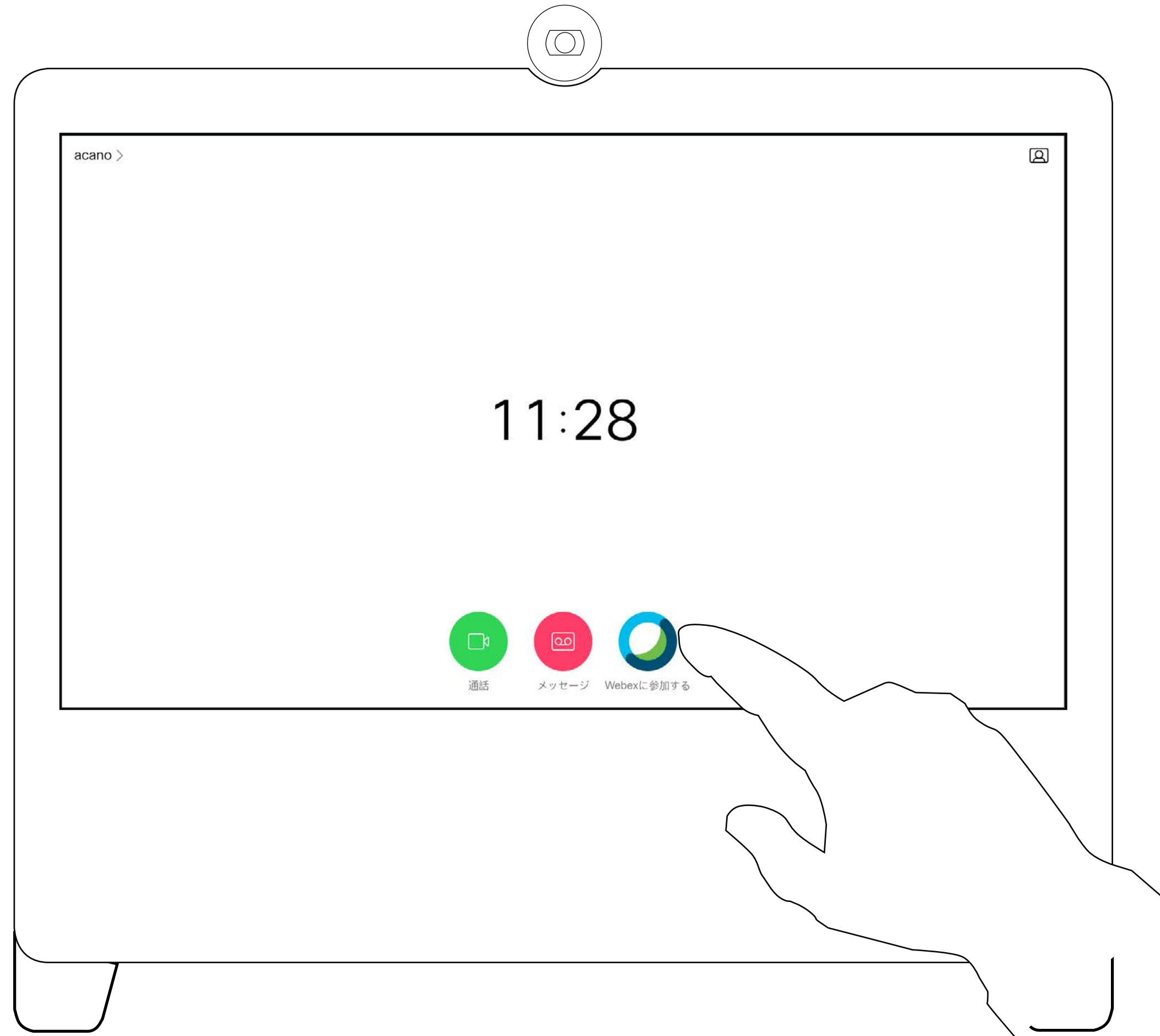
ビデオデバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。スケジュールされたミーティングは左の図のように表示されます。

ミーティングに参加するには **参加** をタップします。

ミーティングがすでに始まっていても参加できます。

[デバイス] 画面にスケジュールされたミーティングが表示されると、デバイスはスタンバイからウェイクアップします。

ミーティングのスケジュール  
**Webex 会議への参加**



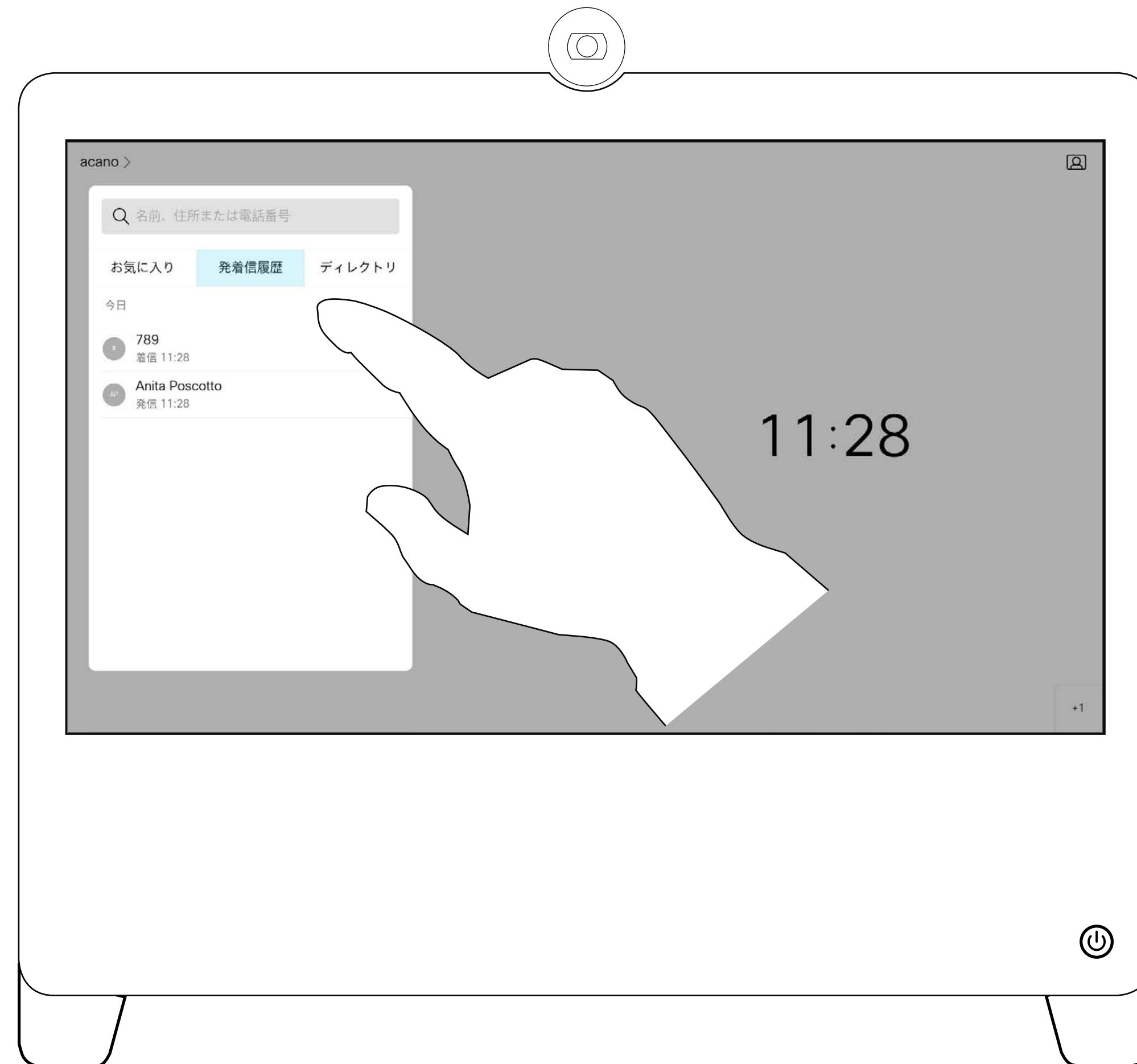
タップで Webex に参加受信した招待にあるミーティング番号を入力するよう求められます。  
 参加をタップしてミーティングに参加します。



# コンタクト

コンタクト  
お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ

連絡先リストについて



連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

**お気に入り。**これらの連絡先が追加されました。通常、これらのエントリは、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。

**ディレクトリ**は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

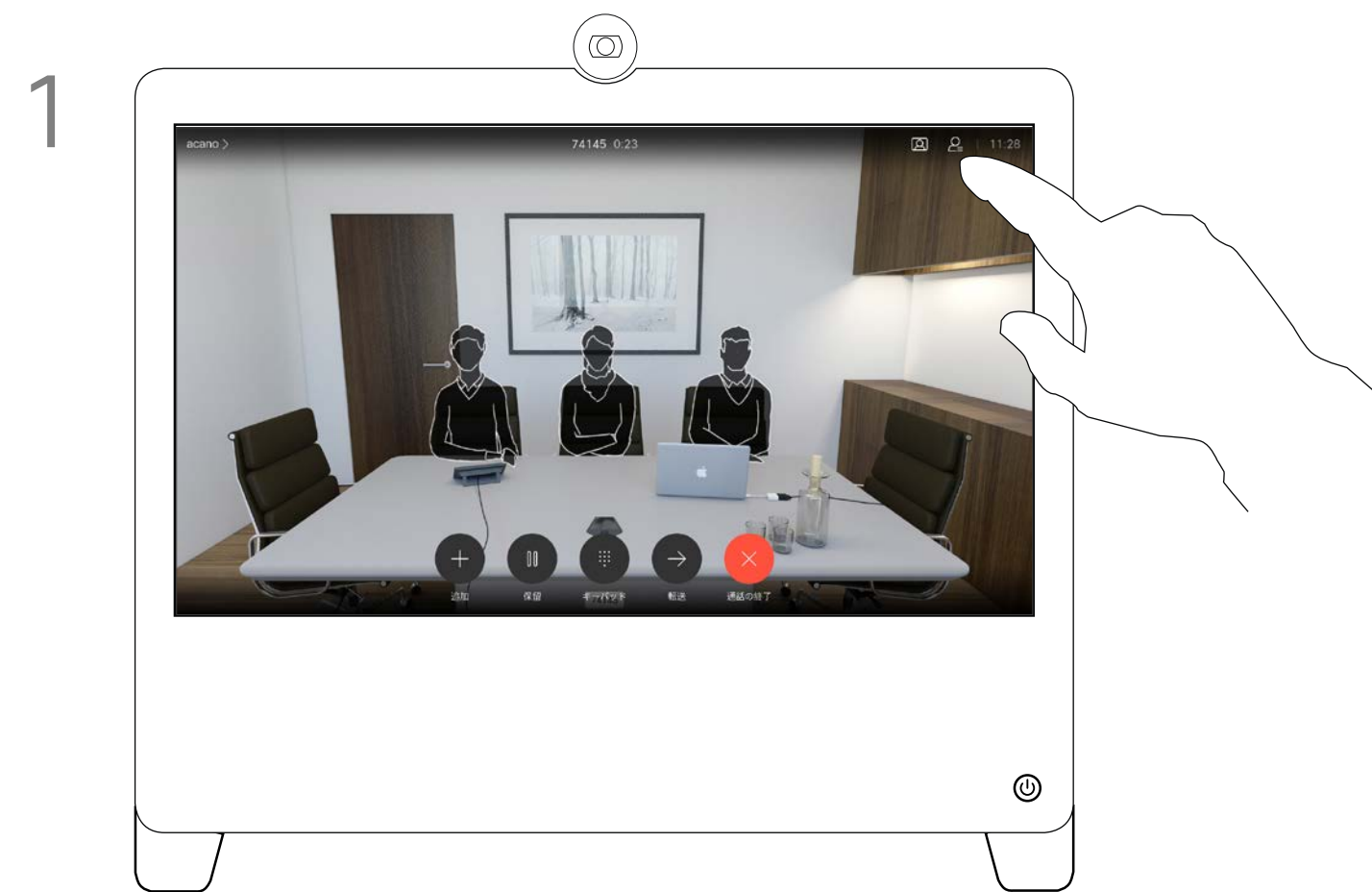
**発着信履歴**は、発信、受信、不在着信のリストです。

発着信履歴からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

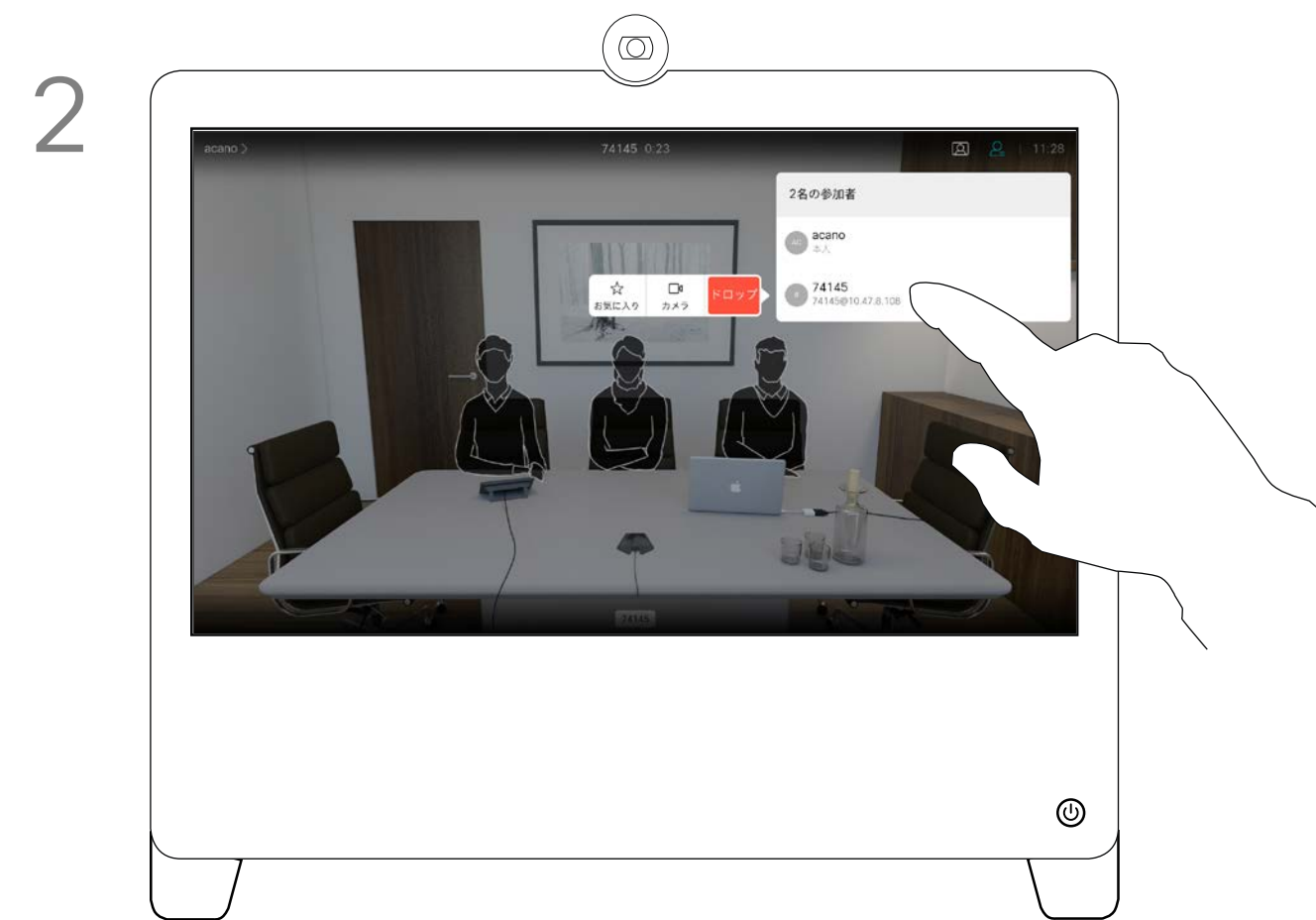


# コンタクト 通話中に [お気に入り] に追加する

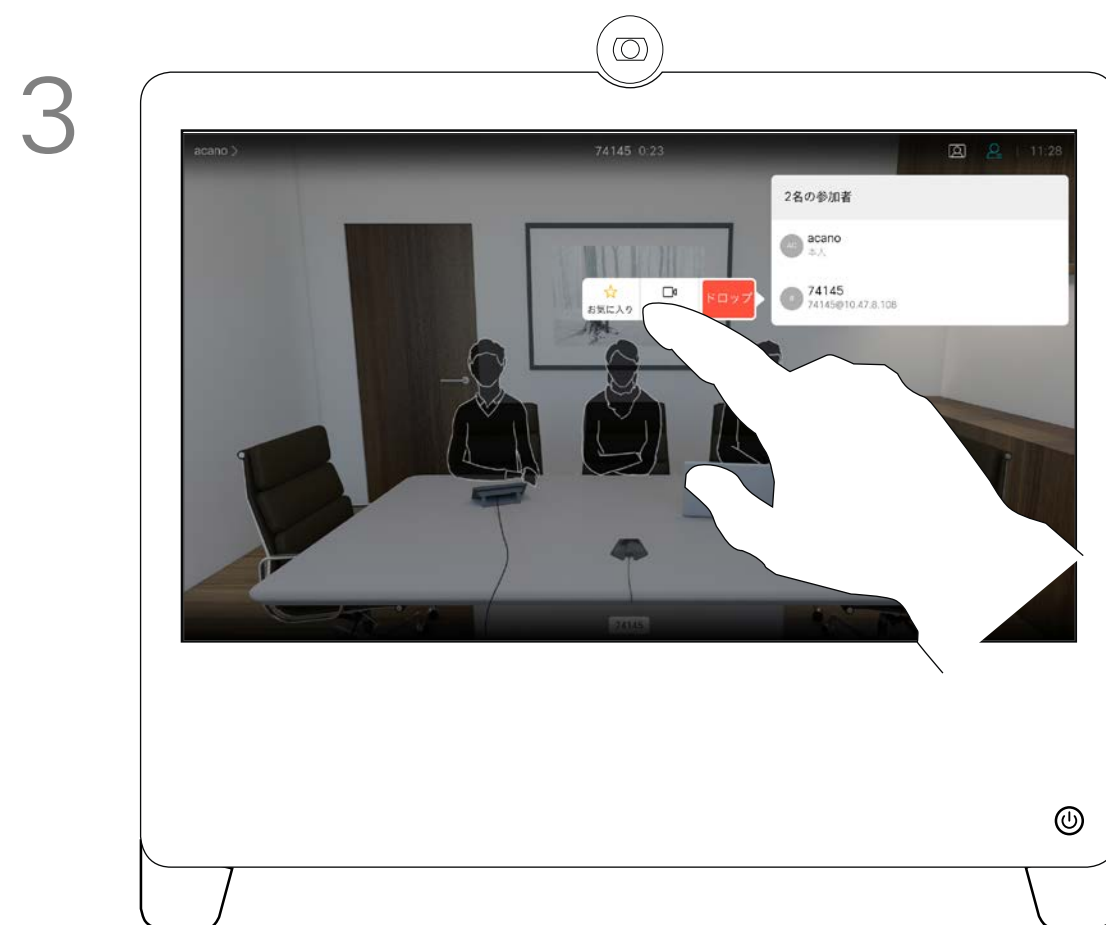
## お気に入りについて



通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



[お気に入り] に追加する参加者をタップします。小さなメニューで、その参加者をドロップする(その参加を終了する)か、参加者をお気に入りのリストに追加することができます。



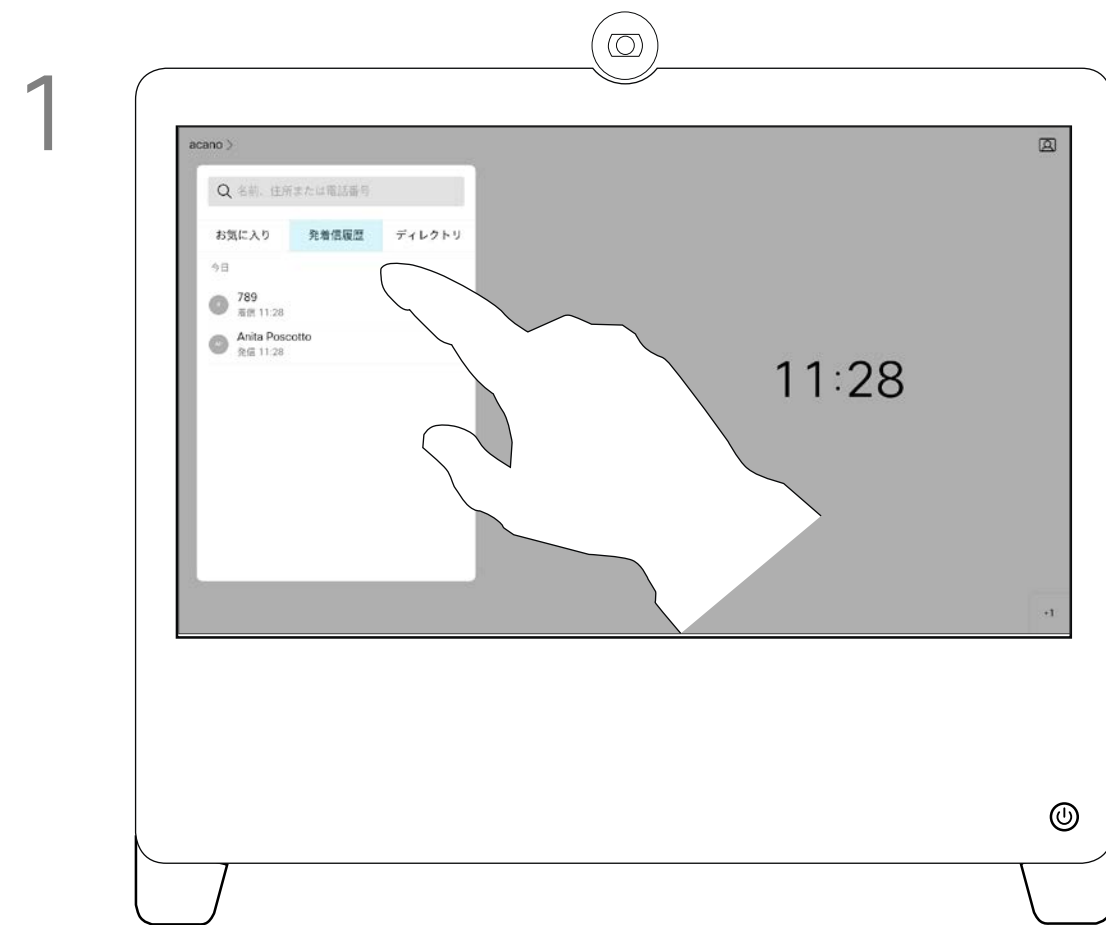
お気に入りをタップします。

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

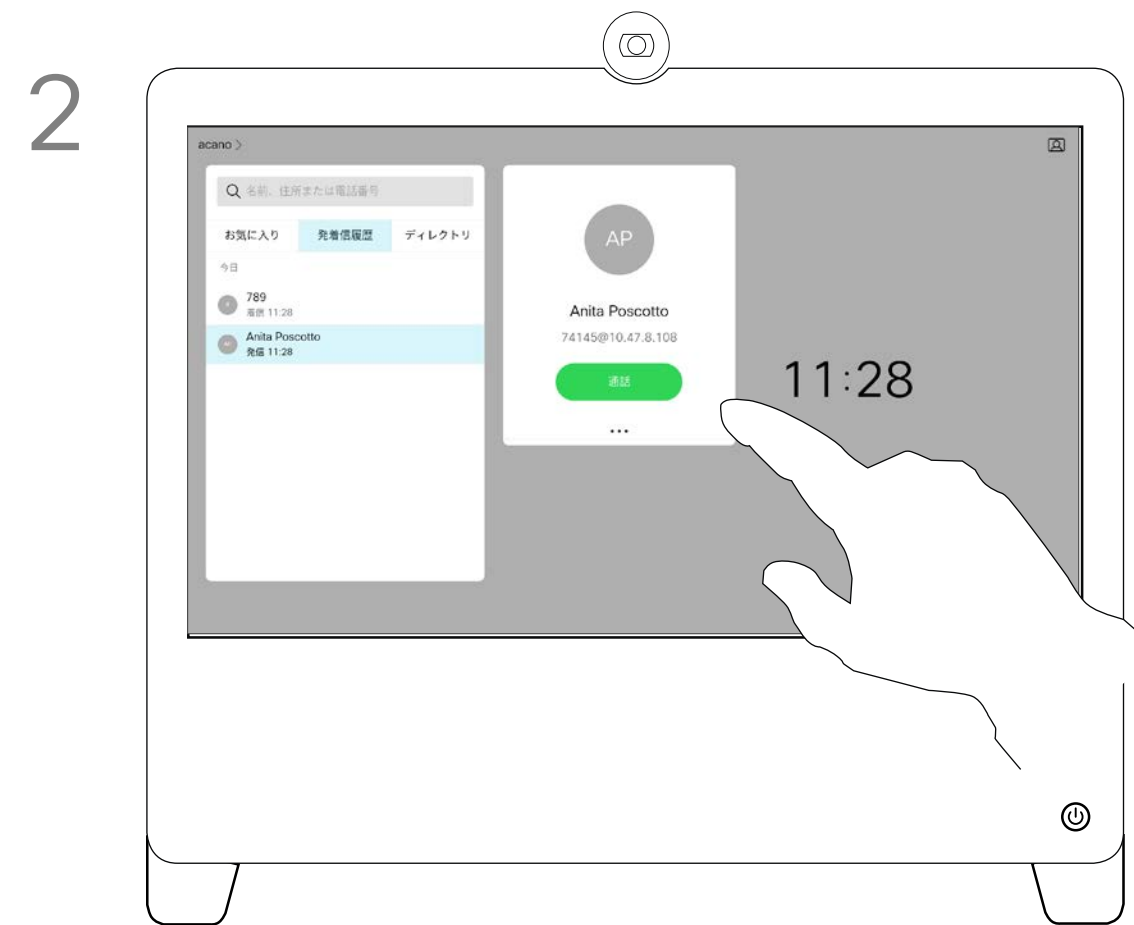
お気に入りは、発着信履歴またはダイレクトリストから選択するか、手動で入力します。

# コンタクト 誰かを非通話時にお気に入りに追加する

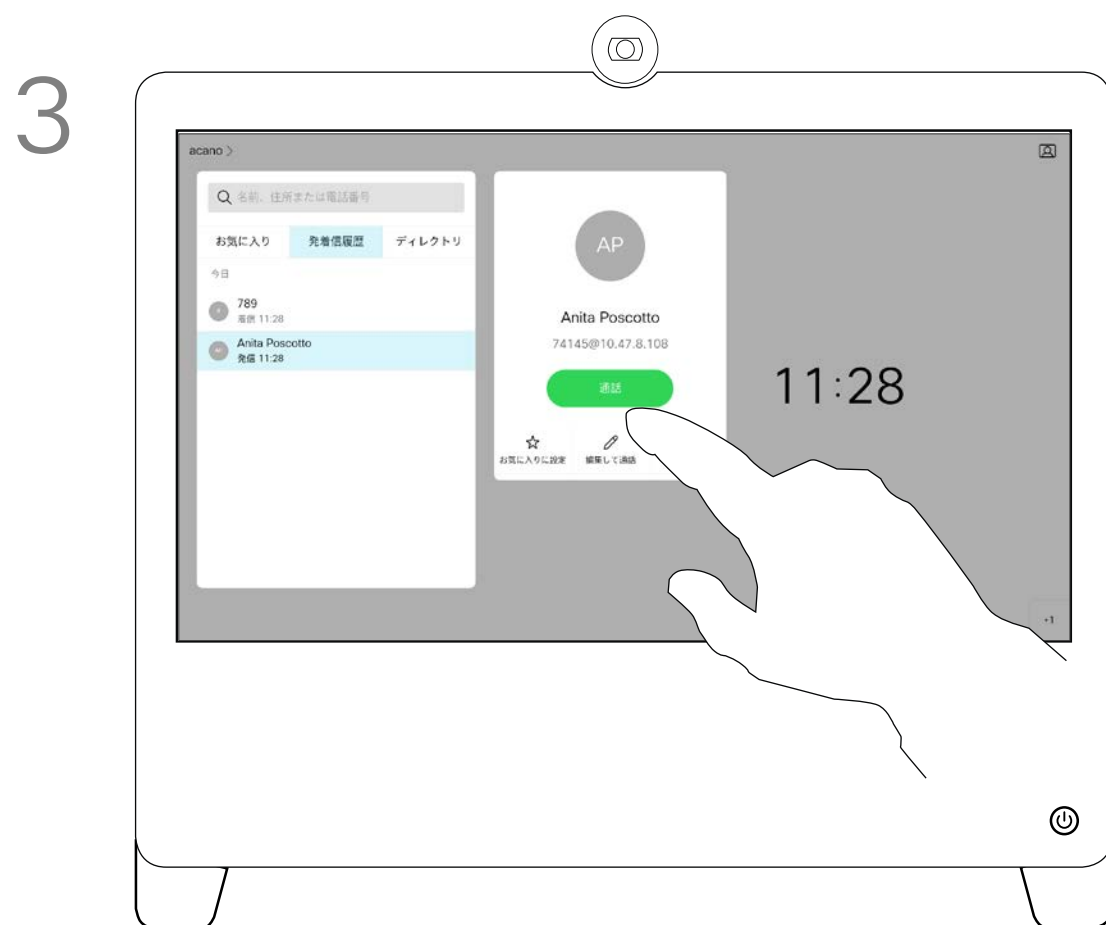
## この機能について



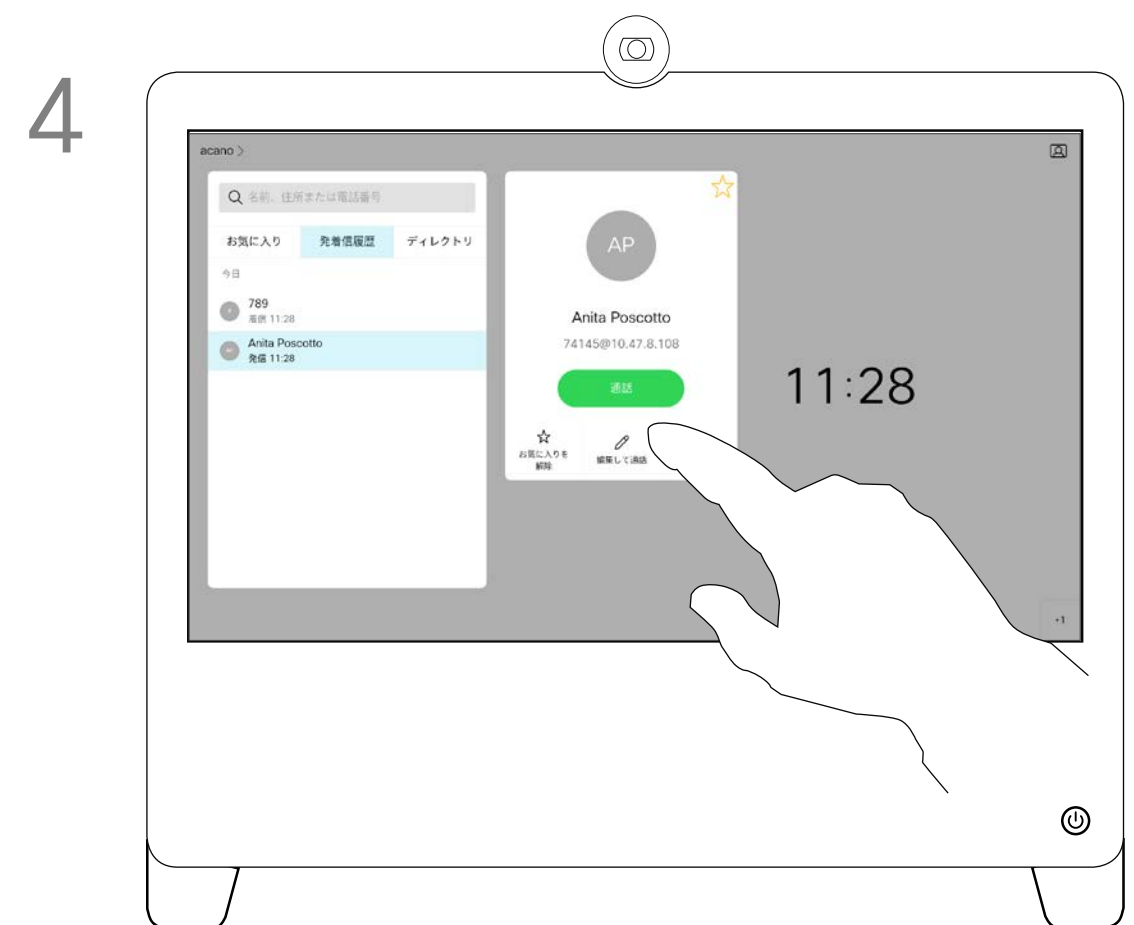
通話中でない場合は、通話 (非表示) をタップして、図のように連絡先リストを開きます。発着信履歴またはディレクトリをタップして、[お気に入り] に追加するエントリを探します。



お気に入りリストに追加する参加者をタップします。上記の画面が開きます。詳細 (...) アイコンをタップします。アイコンは、緑色の通話ボタンの下にあります。



お気に入りとしてマーク をタップします。エントリが [お気に入り] に追加されます。メニュー以外の場所をタップして終了します。



図のように、[お気に入り] が金色の星印で表示されます。[お気に入り] リストからエントリを削除するには、連絡先リストのお気に入りに移動して、この手順を繰り返します。

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

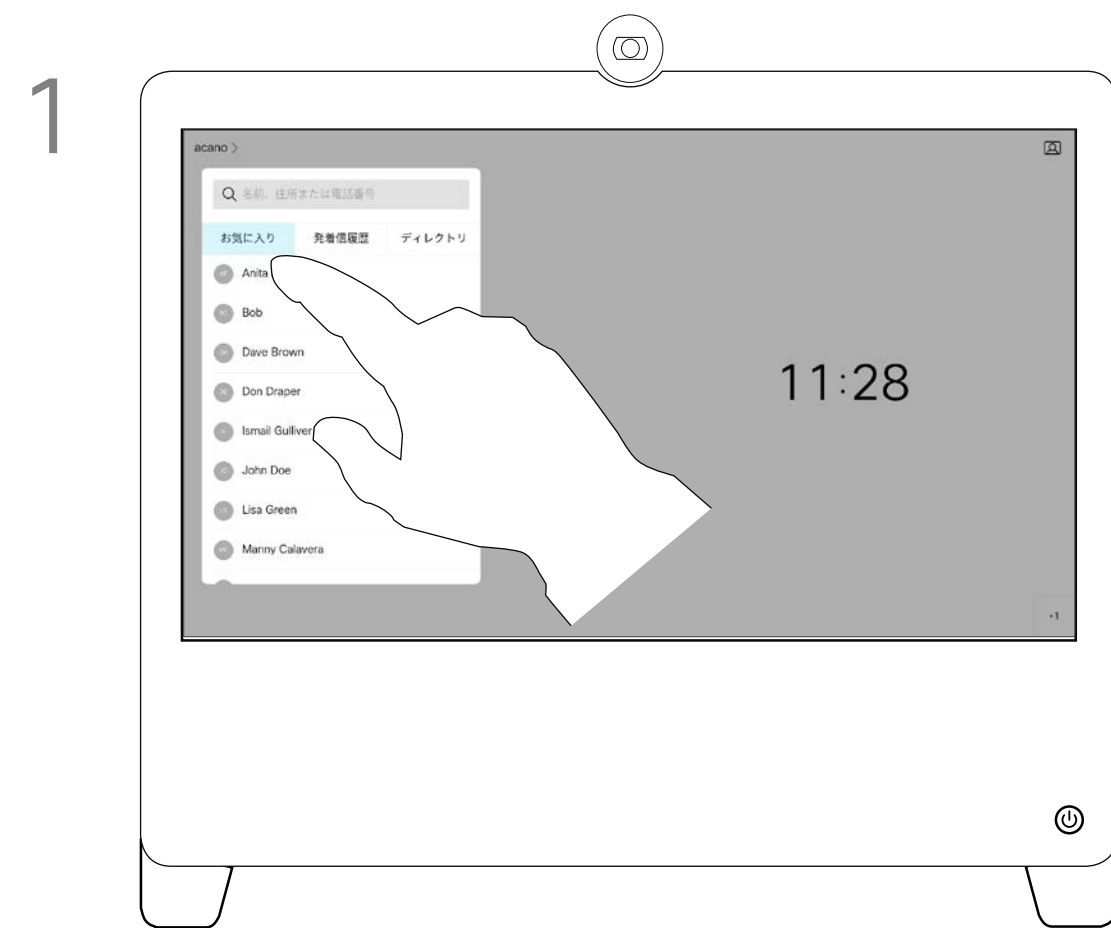
お気に入りまたはディレクトリリストから選択するか、手動で入力します。

[お気に入り] リストに手動でエントリを追加するには、ページに「名前、番号、またはアドレスを入力します」の説明に従って、[検索またはダイヤル11](#)欄に名前またはアドレスを入力します。

# コンタクト 既存のお気に入りを編集する

この機能について

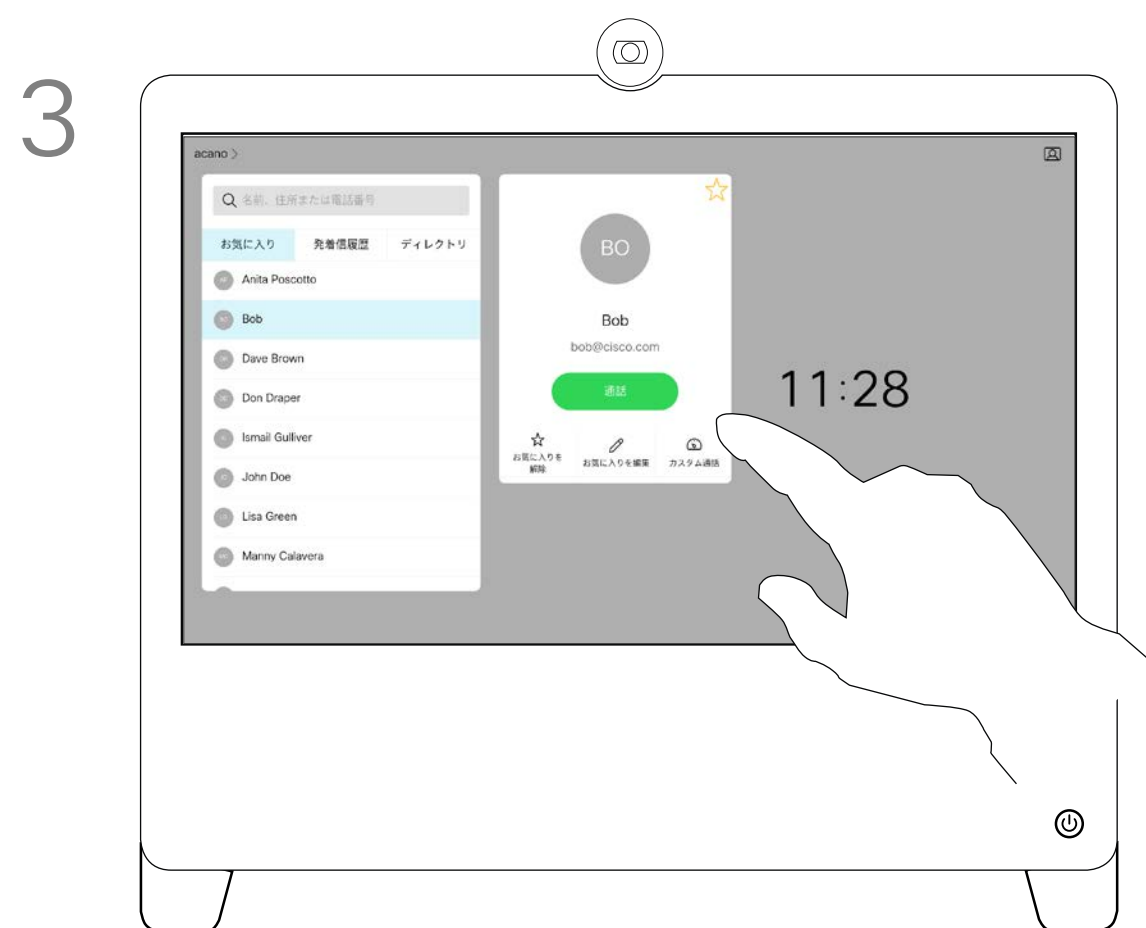
この機能を使用すると、お気に入りをいつでも更新することができます。



図のように、発信(図なし)をタップして、[連絡先] リストを呼び出します。お気に入りのリストにアクセスするには、お気に入り をタップします。



[お気に入り] をタップして編集します。次に、詳細( ... )。



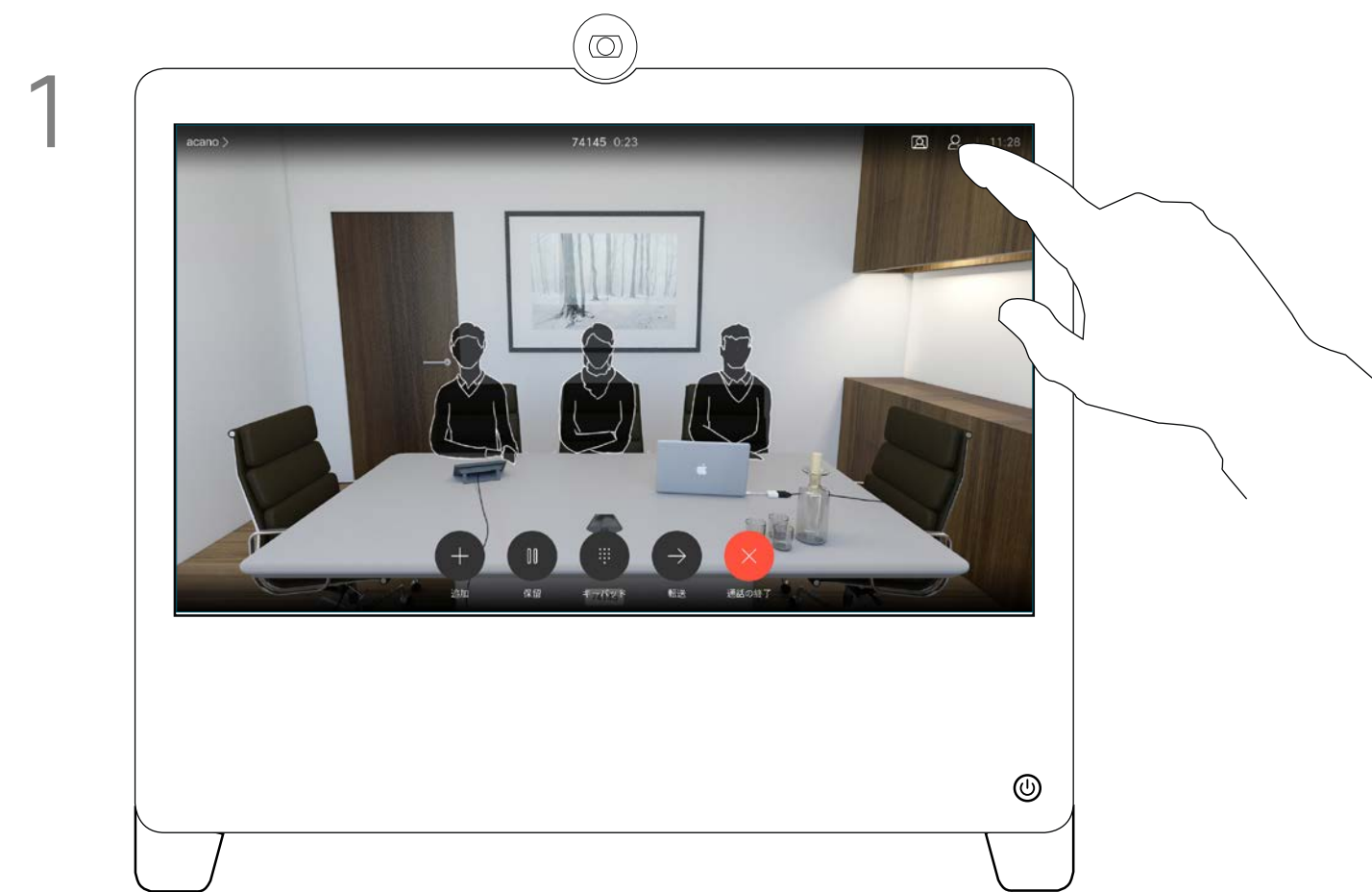
お気に入りの編集をタップします。



お気に入りのエントリを編集して、保存をタップして変更を適用し、終了します。変更を適用しない場合は、キャンセルをタップします。

# カメラ制御 遠端カメラ制御

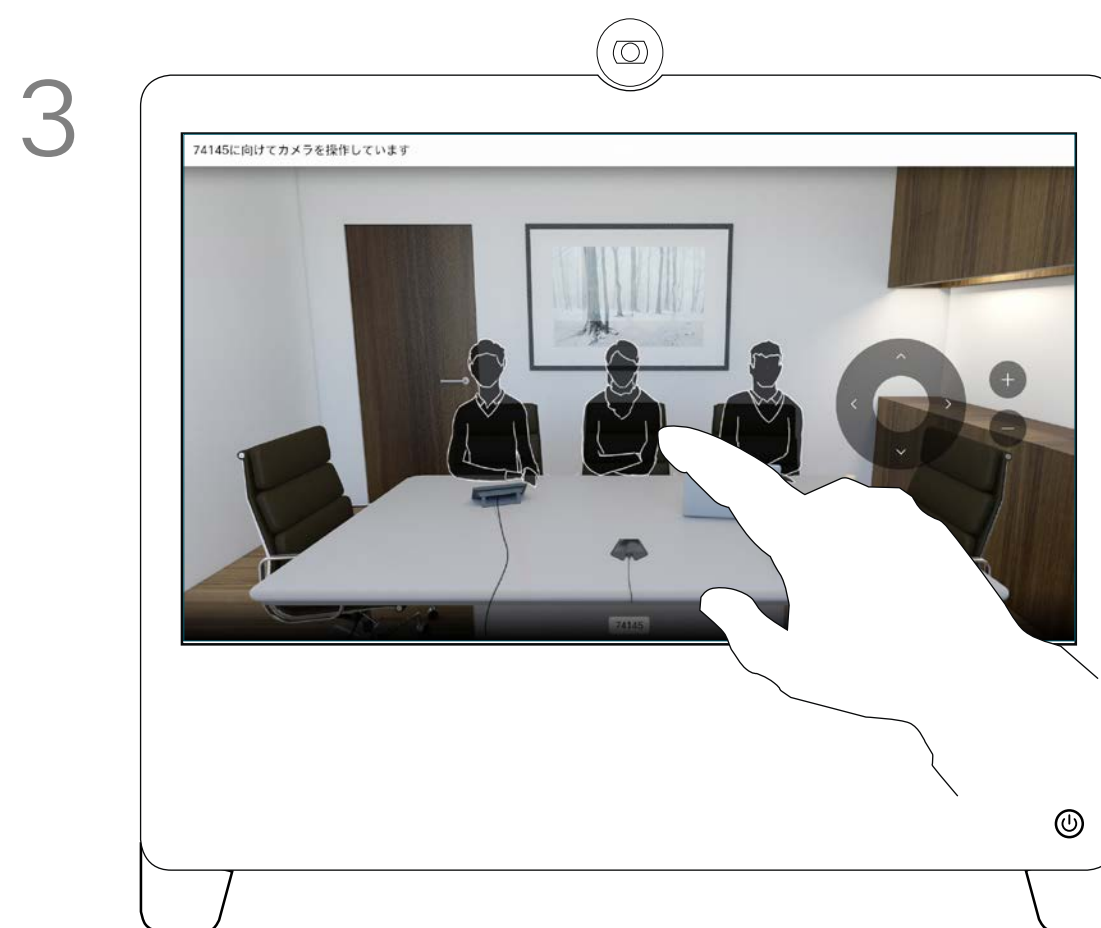
## カメラ操作について



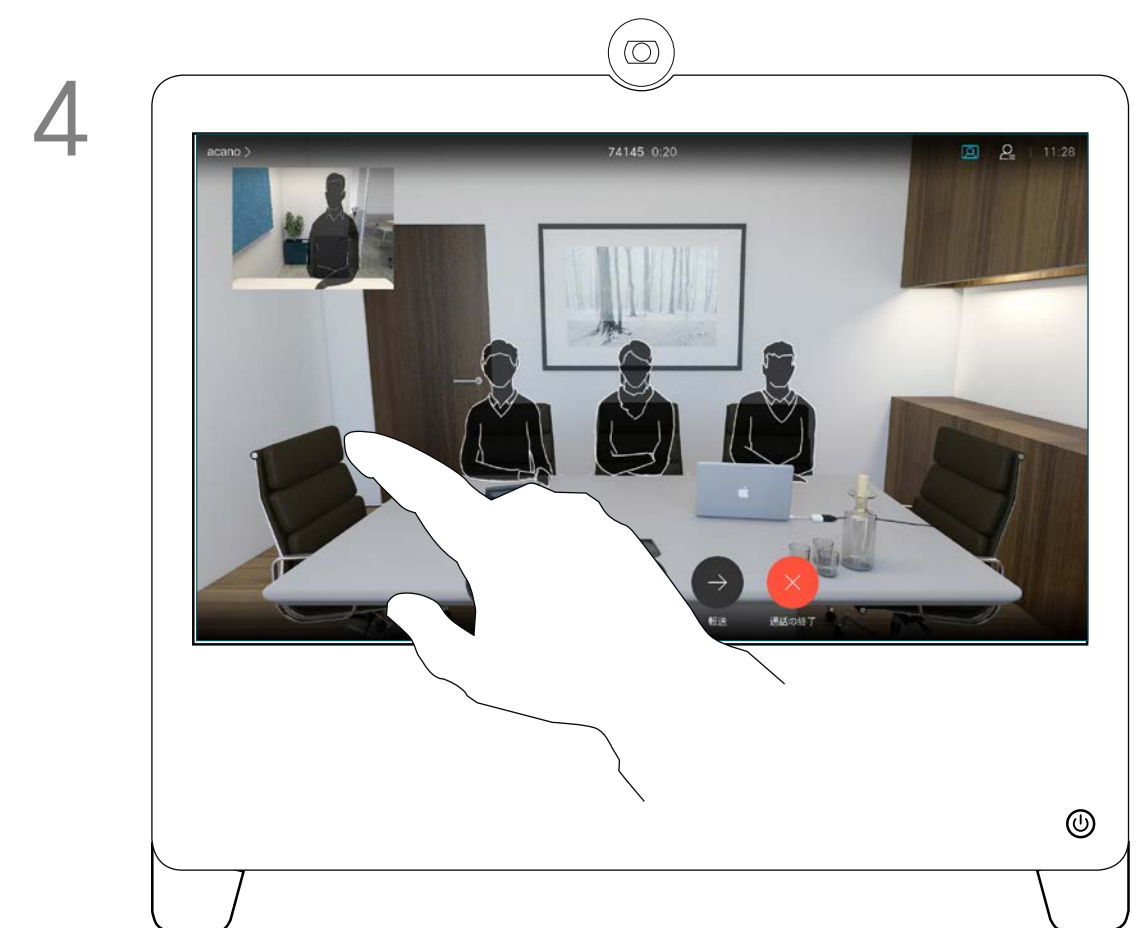
参加者アイコンをタップします。



カメラを制御する参加者をタップし、カメラをタップします。



パン、傾斜、およびズーム コントロールを必要に応じて使用します。



完了したらコントロールの外部の場所をタップします。

ビデオ通話中に、他の 1 つまたは複数のビデオ システムで遠隔から操作できるカメラが使用されていることがあります。

これらのカメラを自身のビデオ システムから制御することができます。これは遠端カメラ制御(FECC)と呼ばれます。

遠端システムによってカメラトラッキングがアクティブ化されている場合(この場合、カメラがプレゼンターを追跡し、表示します)、FECC のオプションは提供されません。



# カメラ制御 (Camera Control)

カメラ制御 (Camera Control)

# 自画面のオン/オフを切り替えます

## 自画面とは

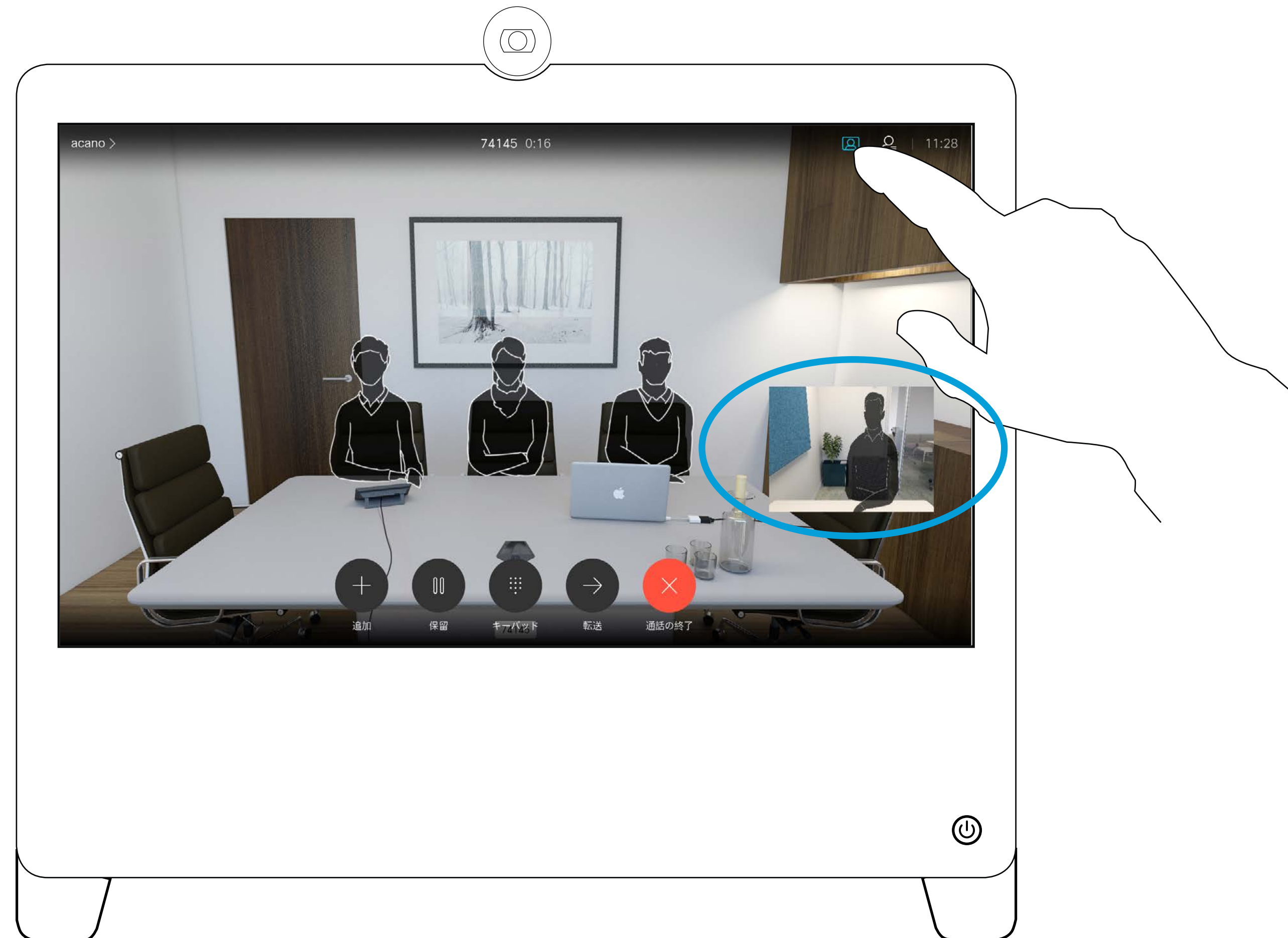
セルフビューには、ビデオデバイスから他のユーザに見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

セルフビューは、PIP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示し続ける場合です。

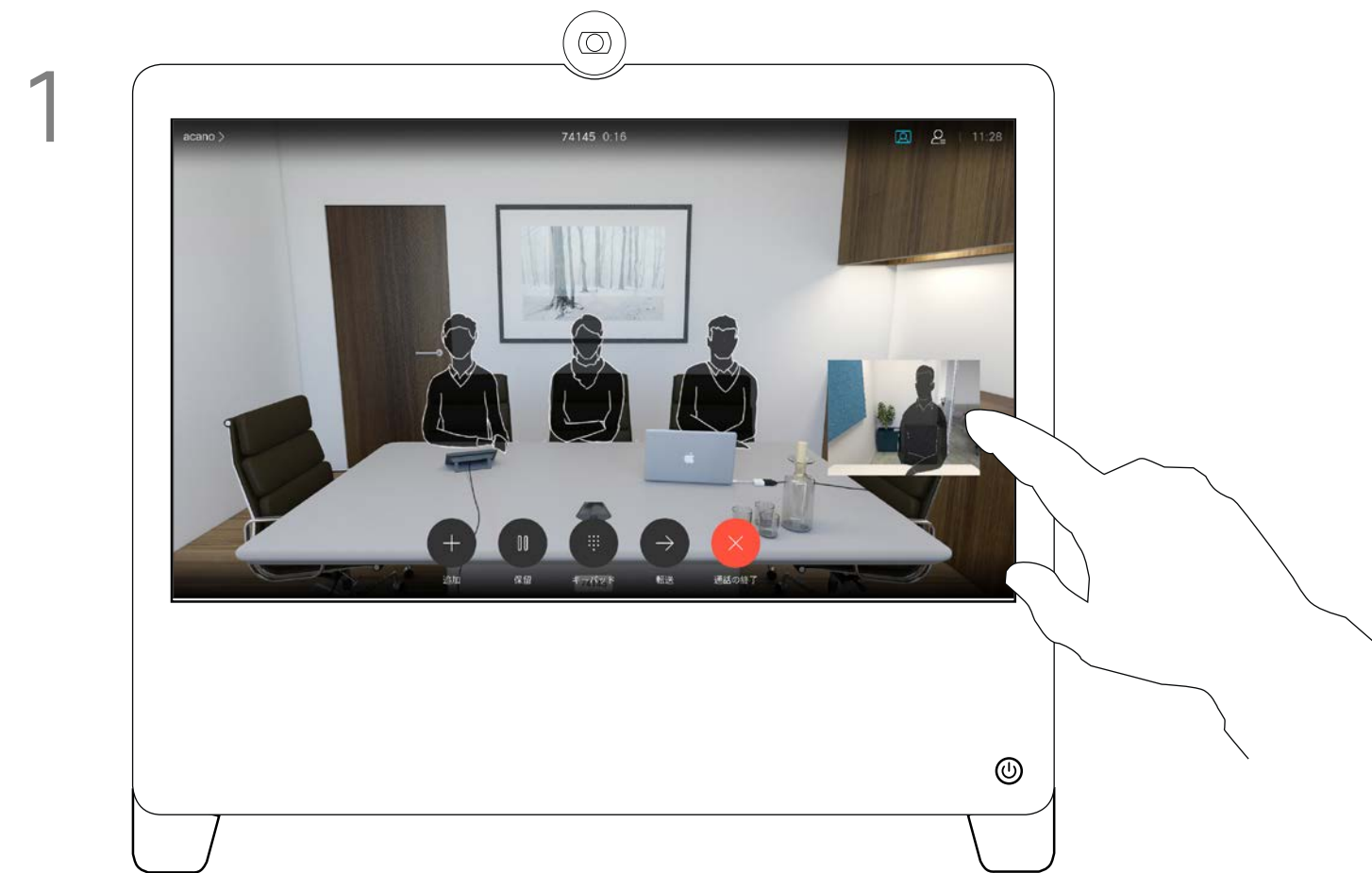
左に示すようにタップして自画面をアクティブ化または非アクティブ化します。

セルフビューの位置により、画面上の画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このため、移動できます(詳細については、次のページを参照してください)。

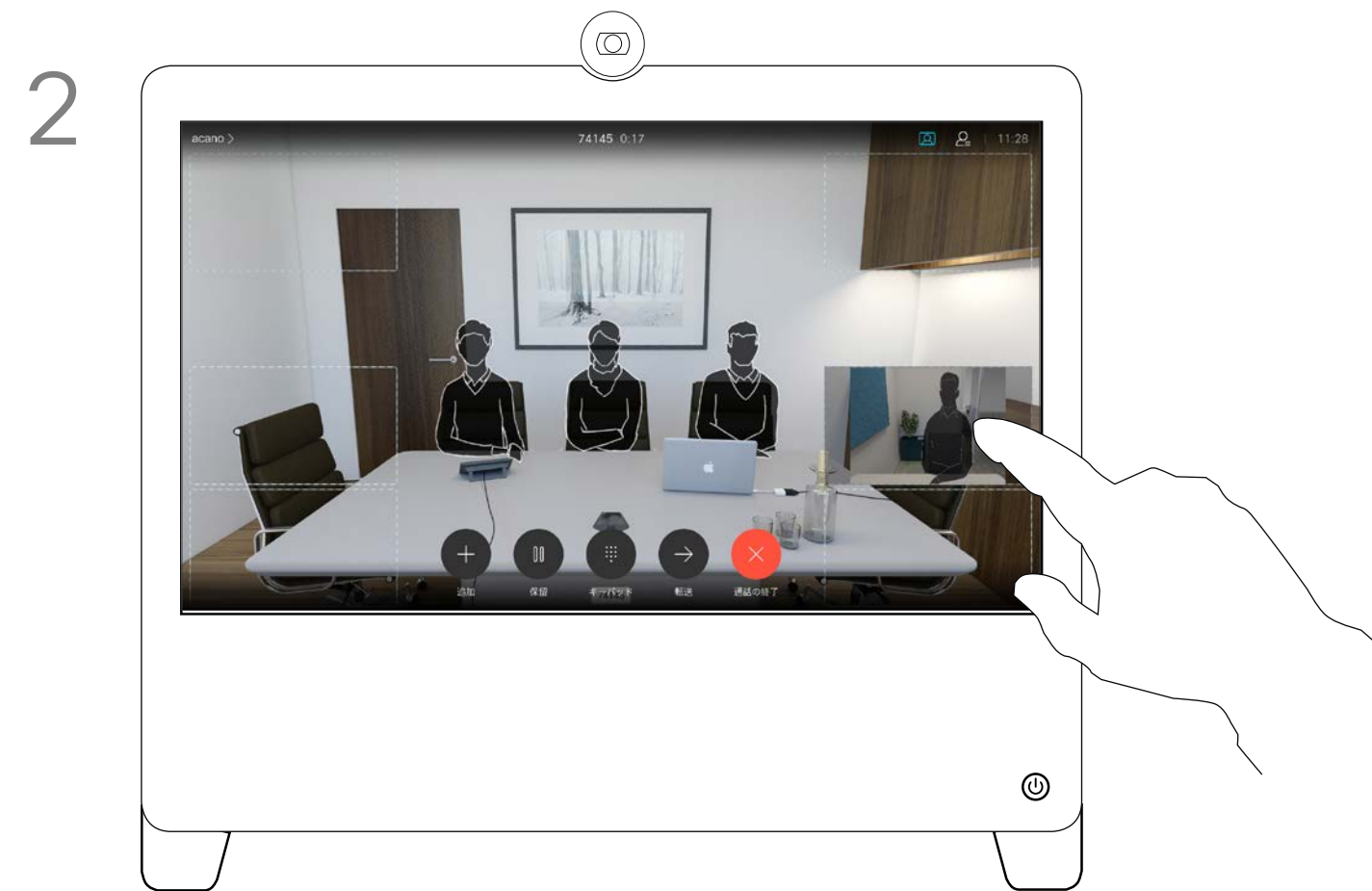


## カメラ制御 (Camera Control) 自画面 PiP の移動

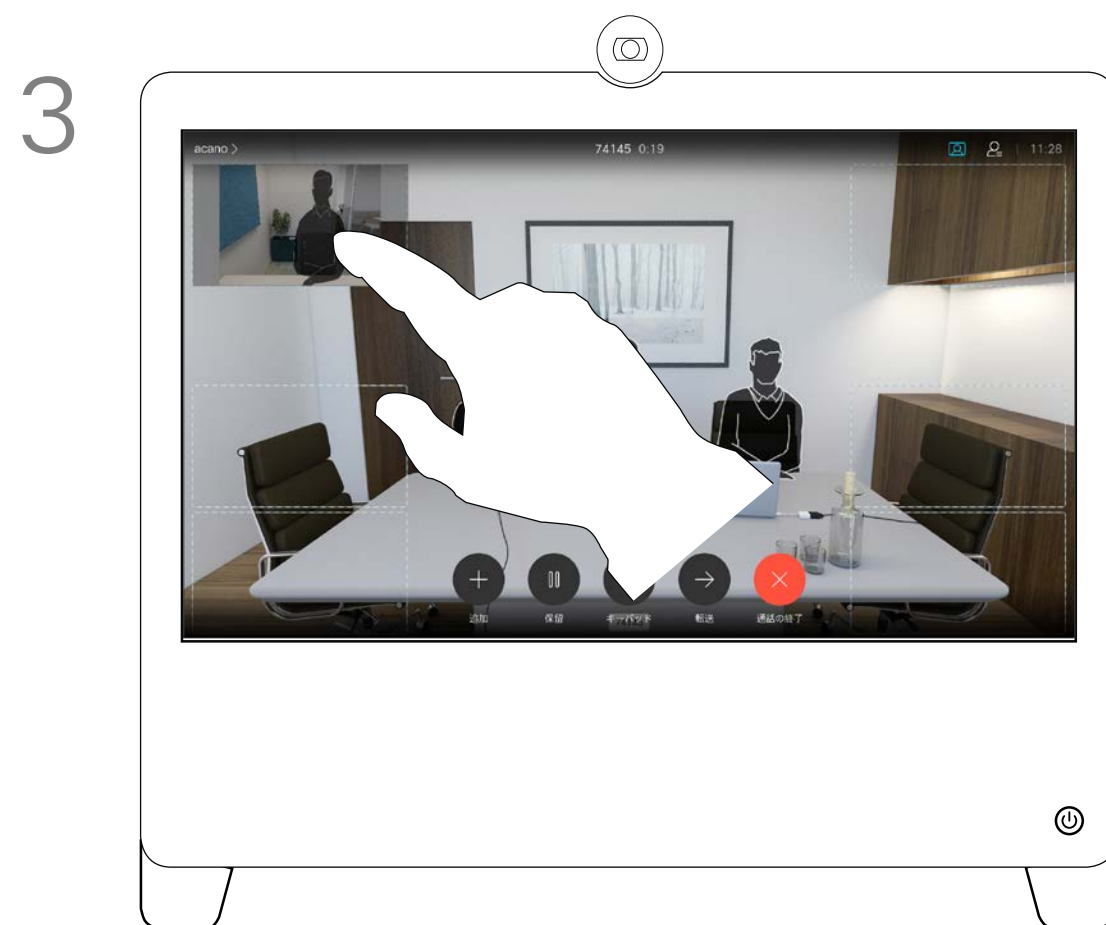
### セルフビューを 移動する理由



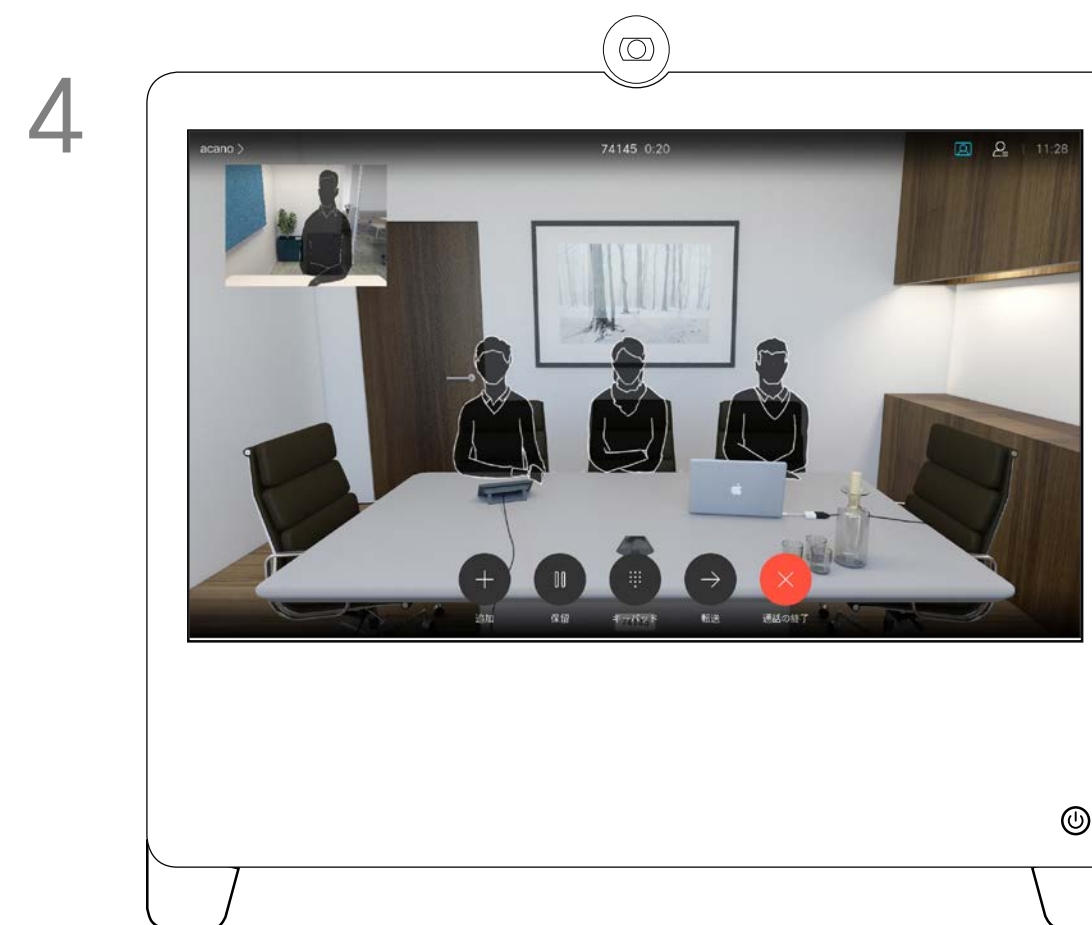
セルフビュー画像をタップして長押しします。



セルフビューの画像の代替位置が表示されるよう  
になりました。画像をタップし続けます。



画像を新しい位置にドラッグします(ここでは左上隅に  
表示します)。



画面から指を離して、画像を公開します。セルフビュー  
の画像が新しい位置に移動しました。

セルフビューには、ビデオデバイスから他のユーザに見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

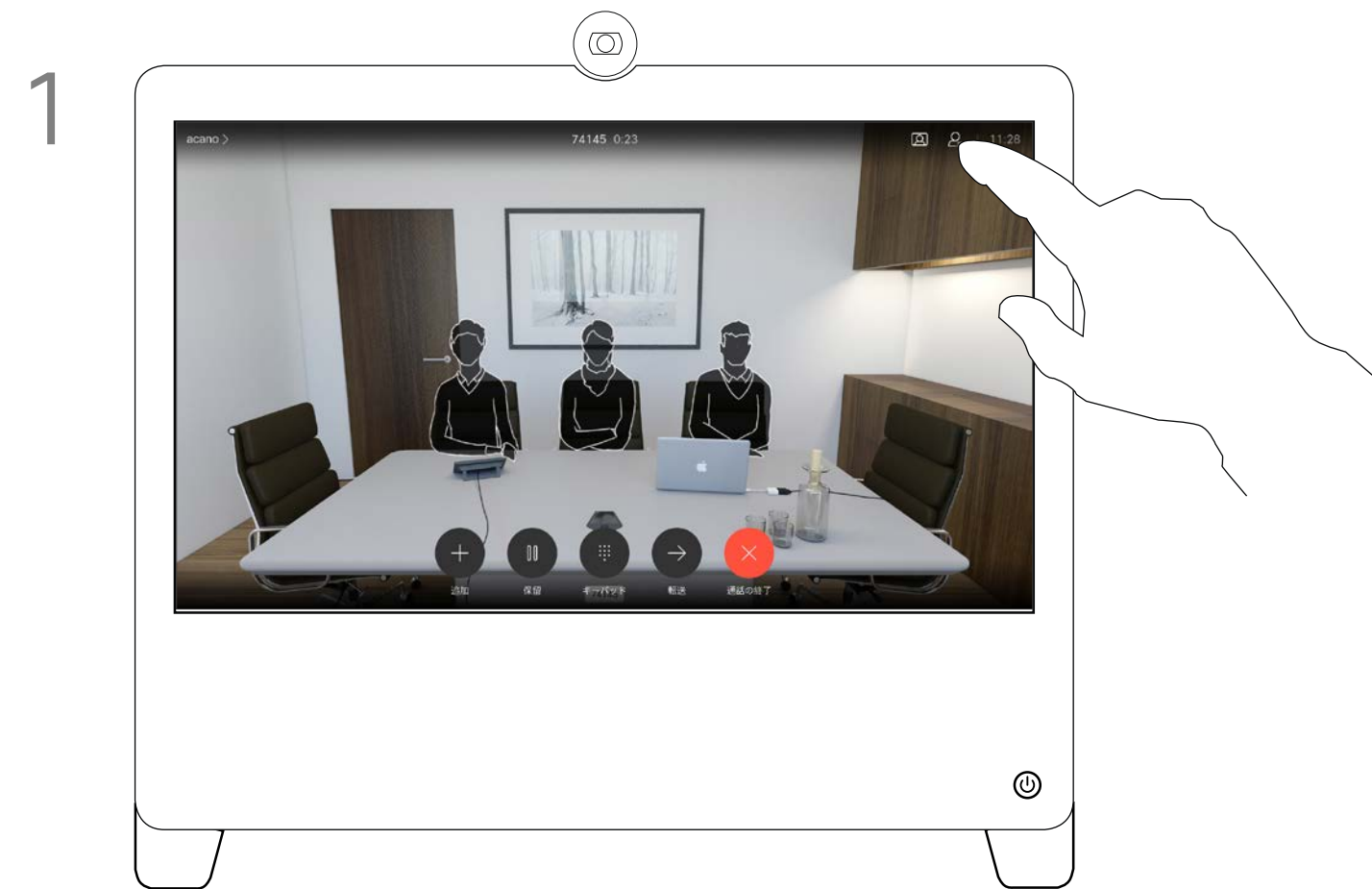
スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示し続ける場合です。

セルフビューの現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。これを行うには、セルフビューを移動します。

カメラ制御

# Far-End Camera Control(遠端カメラ制御)

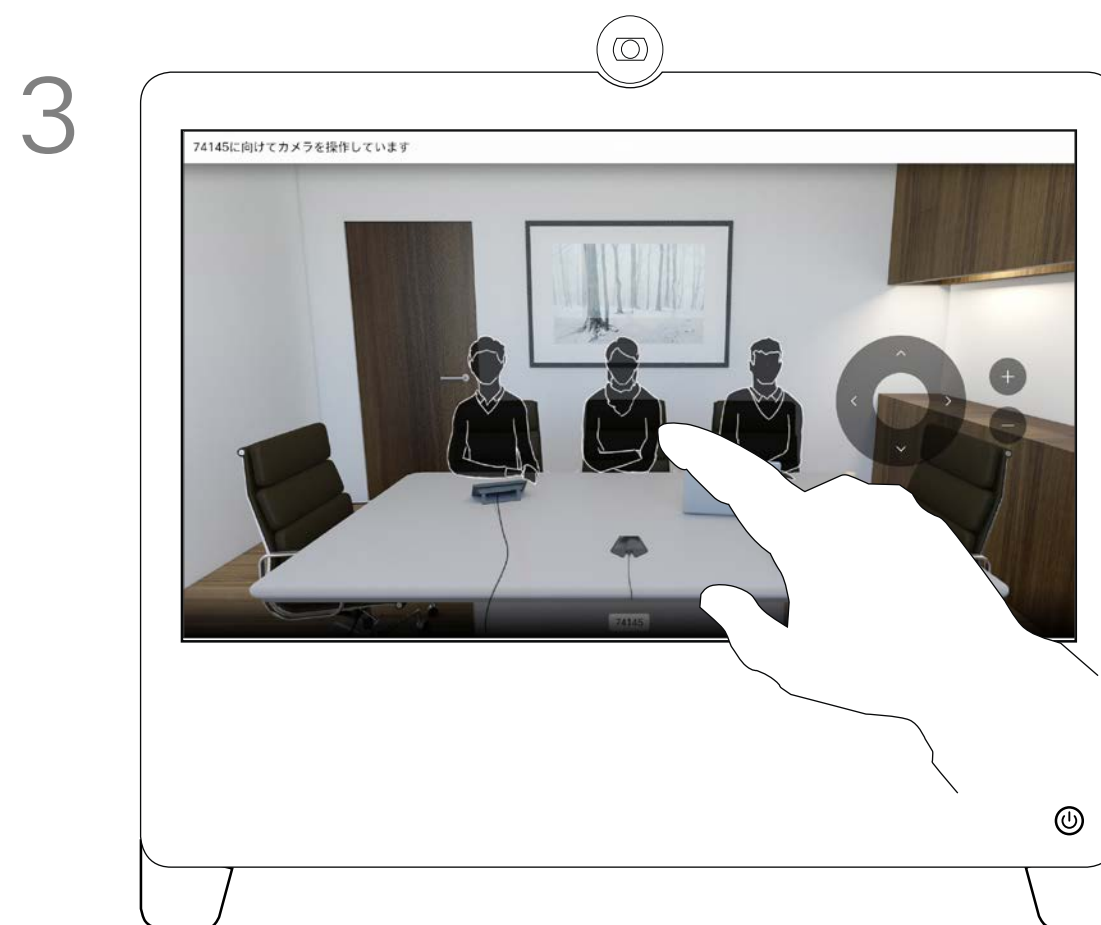
カメラ操作について



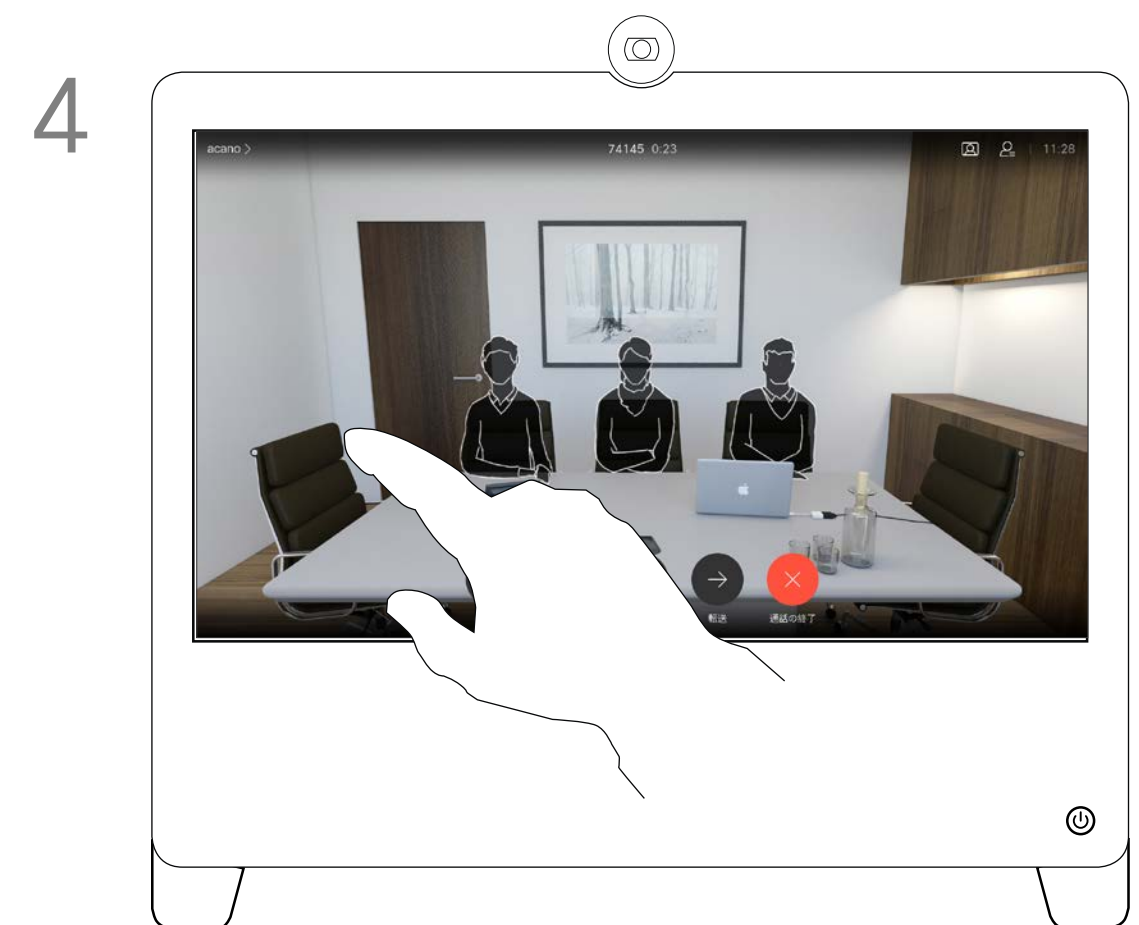
参加者アイコンをタップします。



カメラを制御する参加者をタップし、カメラをタップします。



必要に応じて、パン、チルト、ズーム制御を使用します。



完了したらコントロールの外部の場所をタップします。

ビデオコール中に、他のビデオデバイス  
のうちの1つ以上がリモートで制御可能  
なカメラを使用している場合があります。

その後、自分のビデオデバイスからこれ  
らのカメラを制御することができます。こ  
れは、Far-End Camera Control(FECC;  
遠端カメラ制御FECC)と呼ばれます。

相手側のデバイスでカメラトラッキング  
が有効化されている場合 (カメラがトラッ  
クしていて、そのユーザが表示されます)  
、遠端カメラの制御を使用することはでき  
ません。





設定

# 設定 設定

## 設定へのアクセス

設定メニューから、デバイス情報を確認して、設定をいくつか変更することができます。使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。

- ビデオアドレス情報、IP および MAC アドレス、SIP プロキシ、および現在のソフトウェアバージョンを提供します。
- Bluetooth を有効化および無効化します。
- 呼出音を選択し、呼出音の音量を設定します。
- コール サービスを選択します。
- 有線またはワイヤレス(Wi-Fi)接続から選択します。
- デバイスを再起動します。
- 工場出荷時リセットを実行して、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。これを行うと、現在の登録が失われます。工場出荷時の初期設定へのリセット操作を元に戻すことはできません。

このメニューにアクセスするには、左上隅の小さなアイコンをタップしてから、設定をタップします。



